

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書 第13集

脇田亀ヶ原遺跡

桜ヶ丘団地E-8・9区

(95-6 医学部付属病院 MRI-CT 装置棟増築地)

2017年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター



6層掘削・西壁



北壁土層

序文

鹿児島大学桜ヶ丘キャンパス（脇田亀ヶ原遺跡）は、後期旧石器時代から現代までの時期にわたる多くの貴重な埋蔵文化財が包蔵されている遺跡です。特に、後期旧石器時代末～縄文時代草創期の狩猟のための陥穴や、縄文時代早期の住居跡などが検出されており、この地で古くから人々の営みが行われていた様相を知ることができる遺跡です。

本書は、平成7年度に発掘調査を実施した鹿児島大学構内遺跡桜ヶ丘団地E-8・9区の発掘調査報告書です。MRI-CT装置棟増築工事に伴う発掘調査の結果、縄文時代早期前半を中心に、後期旧石器時代末～現代までの遺物・遺構が検出されました。

当時から20年経過した現在でも、キャンパス内の施設整備・周辺環境整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査が継続的に行われており、キャンパス全域に広がる当時の遺跡の様相が明らかになりつつあります。埋蔵文化財調査センターでは、文化財保護法を遵守し、発掘調査や報告書作成業務、出土遺物の管理について、十分な対応ができるよう尽力していく所存です。それとともに、これまでの調査成果を広く公開し、本学に所在する遺跡の文化財としての意義を高める活動に力を入れたいと考えております。

今後とも、関係者の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長

中村 直子

例 言

1. 本報告は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が主体となり、平成7（1995）年度に行った脇田亀ヶ原遺跡（桜ヶ丘団地）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 調査時における図面作成・写真撮影の担当は以下のとおりである。

大西智和・古澤生・相美伊久雄・永里幸子・中村直子・西庄司・森内真・矢住純子

3. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査センターが行った。担当者は以下のとおりである。

遺物実測 寒川朋枝・相良暁子・篠原美智子・山口美保子

製図 寒川・相良・篠原・濱田綾子・東朋子・山口

作表 寒川・相良・篠原・山口

写真 寒川・相良・桐木平雅代・柴田恵子・下田まき子・東

執筆・編集 寒川

4. 調査時には現地にて、森脇 広氏、松永幸男氏、雨宮瑞生氏の御教示をいただいた。また、本報告の内容について、調査時の概要については大西智和氏の御教示をいただいた。

5. 本書で報告している遺物の保管は、埋蔵文化財調査センターの管理のもと、学内にて保管している。また、図版・写真などの資料は埋蔵文化財調査センターに保管している。

凡 例

1. 昭和 60 年 6 月 1 日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように、鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。桜ヶ丘団地では、国土座標第 2 座標系（ $X = -161,600$, $Y = -44,400$ ）を基点として一辺 50 m の方形地区割りを行った（Fig.2 参照）。

2. 本報告書におけるレベル高は、すべて海拔を表し、各遺構図も含め方位は真北方向を示す。

3. 本書の SK 表示は土坑、P 表示はピットを示す。

4. 遺物に関しては観察表を作成した。その標記・表現については以下の通りである。

調整：調整名称の後の () は、調整方向を表す。(—)；横位方向，(|)；縦位，(\)；左上がりの斜位，(/)；右上がりの斜位，とした。→は、調整の新旧関係を表す。

色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。

5. 赤色顔料の塗布範囲、石器類の磨面は  で図示する。

6. 本文中の遺物番号は通し番号を付し、挿図・図版・遺物観察表と一致している。

本文目次

巻頭カラー写真

序文

例言

凡例

抄録

| | | |
|-----|------------------------------------------|----|
| 第Ⅰ章 | 脇田亀ヶ原遺跡の概要 | 1 |
| 第Ⅱ章 | 医学部付属病院MRI-CT装置棟増築地(桜ヶ丘団地E-8・9区)における発掘調査 | 4 |
| | 1 調査に至る経緯 | 4 |
| | 2 調査体制と調査期間 | 4 |
| | 3 調査の概要と経過 | 4 |
| 第Ⅲ章 | 基本層序 | 5 |
| 第Ⅳ章 | 各層の遺構と出土遺物 | 10 |
| | 1 1層出土遺物 | 10 |
| | 2 2層出土遺物 | 11 |
| | 3 3層検出遺構・出土遺物 | 15 |
| | 4 4層検出遺構・出土遺物 | 31 |
| | 5 5層検出遺構 | 63 |
| | 6 6層出土遺物 | 63 |
| 第Ⅴ章 | 総括 | 75 |

挿図目次

| | | |
|--------|--------------------|----|
| Fig. 1 | 鹿兒島大学構内遺跡位置図 | 2 |
| Fig. 2 | 脇田亀ヶ原遺跡 | 3 |
| Fig. 3 | 調査区位置 | 5 |
| Fig. 4 | 調査区西壁土層図 | 6 |
| Fig. 5 | 調査区北壁・調査区東側深掘地点土層図 | 8 |
| Fig. 6 | 1層・攪乱出土遺物 | 10 |
| Fig. 7 | 2b層出土遺物分布図 | 12 |
| Fig. 8 | 2b層出土遺物 | 13 |
| Fig. 9 | 3層検出遺構分布図 | 16 |
| Fig.10 | 3層検出遺構(1) | 17 |
| Fig.11 | 3層検出遺構(2) | 18 |
| Fig.12 | 3層出土遺物分布図 | 20 |
| Fig.13 | 3層検出 横転1出土遺物 | 21 |
| Fig.14 | 3層出土遺物(1) | 22 |
| Fig.15 | 3層出土遺物(2) | 23 |
| Fig.16 | 3層出土遺物(3) | 24 |
| Fig.17 | 3層出土遺物(4) | 25 |
| Fig.18 | 3層出土遺物(5) | 26 |
| Fig.19 | 4a層検出遺構分布図 | 32 |
| Fig.20 | 4a層検出遺構(1) | 33 |
| Fig.21 | 4a層検出遺構(2) | 34 |
| Fig.22 | 4a層出土遺物分布図(1) | 37 |
| Fig.23 | 4a層出土遺物分布図(2) | 38 |
| Fig.24 | 4a層出土遺物(1) | 40 |
| Fig.25 | 4a層出土遺物(2) | 41 |
| Fig.26 | 4a層出土遺物(3) | 42 |
| Fig.27 | 4a層出土遺物(4) | 43 |
| Fig.28 | 4a層出土遺物(5) | 44 |
| Fig.29 | 4a層出土遺物(6) | 45 |
| Fig.30 | 4a層出土遺物(7) | 46 |
| Fig.31 | 4b層検出遺構分布図 | 51 |
| Fig.32 | 4b層検出遺構 | 52 |
| Fig.33 | 4b層出土遺物分布図(1) | 55 |
| Fig.34 | 4b層出土遺物分布図(2) | 56 |
| Fig.35 | 4b層出土遺物(1) | 57 |
| Fig.36 | 4b層出土遺物(2) | 58 |
| Fig.37 | 4b層出土遺物(3) | 59 |
| Fig.38 | 5層遺構分布図 | 62 |
| Fig.39 | 5層検出遺構図(1) | 63 |
| Fig.40 | 5層検出遺構図(2) | 64 |
| Fig.41 | 6層遺物分布図 | 66 |
| Fig.42 | 6層出土遺物 | 67 |

表目次

| | | |
|--------|------------|----|
| Tab. 1 | 遺構一覧(1) | 68 |
| Tab. 2 | 遺構一覧(2) | 68 |
| Tab. 3 | 遺構一覧(3) | 69 |
| Tab. 4 | 出土遺物観察表(1) | 70 |
| Tab. 5 | 出土遺物観察表(2) | 71 |
| Tab. 6 | 出土遺物観察表(3) | 72 |
| Tab. 7 | 出土遺物観察表(4) | 73 |
| Tab. 8 | 出土遺物観察表(5) | 74 |
| Tab. 9 | 石器観察表 | 74 |
| Tab.10 | 層別遺物出土数 | 74 |

図版目次

| | | |
|-------|--------------|----|
| PL. 1 | 調査風景・西壁 | 7 |
| PL. 2 | 深掘土層・北壁・調査風景 | 9 |
| PL. 3 | 1層・攪乱出土遺物 | 11 |
| PL. 4 | 2層検出・掘削状況 | 13 |
| PL. 5 | 2b層出土遺物 | 14 |
| PL. 6 | 3層遺構検出状況 | 19 |
| PL. 7 | 3層検出 横転1出土遺物 | 21 |
| PL. 8 | 3層出土遺物(1) | 27 |
| PL. 9 | 3層出土遺物(2) | 28 |
| PL.10 | 3層出土遺物(3) | 29 |
| PL.11 | 3層出土遺物(4) | 30 |
| PL.12 | 4a層検出遺構(1) | 35 |
| PL.13 | 4a層検出遺構(2) | 36 |
| PL.14 | 4a層出土遺物(1) | 47 |
| PL.15 | 4a層出土遺物(2) | 48 |
| PL.16 | 4a層出土遺物(3) | 49 |
| PL.17 | 4a層出土遺物(4) | 50 |
| PL.18 | 4b層検出遺構(1) | 53 |
| PL.19 | 4b層検出遺構(2) | 54 |
| PL.20 | 4b層出土遺物(1) | 60 |
| PL.21 | 4b層出土遺物(2) | 61 |
| PL.22 | 5層検出遺構 | 65 |
| PL.23 | 6層掘削状況 | 67 |
| PL.24 | 6層出土遺物 | 67 |

| | | | | | | | | |
|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------------------|----------|----------------|----------------|--------------------------------------------|-------------|--------------|
| ふりがな | わきたかめがはらいせき (かごしまだいがくこうないいせきさくらがおか だんち E- 8・9く) | | | | | | | |
| シリーズ名 | 鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書 第 13 集 | | | | | | | |
| 書名 | 脇田亀ヶ原遺跡 (鹿児島大学構内遺跡桜ヶ丘団地 E- 8・9区) | | | | | | | |
| 編著者 | 寒川朋枝・中村直子・新里貴之 | | | | | | | |
| 編集機関 | 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒 890-8580 鹿児島市郡元一丁目 21 番 24 号 TEL 099-285-7270 FAX 099-285-7271 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2017 年 3 月 | | | | | | | |
| 所収遺跡 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 (㎡) | 調査起因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 脇田亀ヶ原遺跡 (鹿児島大学 構内遺跡 桜ヶ丘団地 E- 8・9区) | 鹿児島市 桜ヶ丘 8 丁目 35-1 | 4620 | 1-114 | 31.5469 05° | 130.529 81° | 1995 年 12 月 7 日 ～ 1996 年 3 月 19 日 | 408 | MRI 装置 増築 |
| | 主な時代 | | 主な遺構 | | 主な遺物 | | | 特記事項 |
| | 近世～近代 | | 土壌, ピット群 | | 陶磁器 | | | |
| | 弥生時代 | | | | 弥生土器 | | | |
| 縄文時代 | | 晩期土器, 早期貝殻文系土器, 礫器 | | | | | | |
| 後期旧石器時代末～ 縄文時代 | | 細石刃, 礫器 | | | | | | |

第 I 章 脇田亀ヶ原遺跡の概要

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾（錦江湾）が広がり、他の三方は始良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。鹿児島大学構内は、郡元キャンパス、桜ヶ丘キャンパス、入来牧場、唐湊学生寮（2015年より唐湊遺跡と呼称される）において遺構や遺物がみられ、郡元キャンパス内の遺跡を鹿児島大学構内遺跡郡元団地、桜ヶ丘キャンパス内の遺跡を脇田亀ヶ原遺跡と呼称している。

脇田亀ヶ原遺跡は、脇田川と永田川に挟まれたシラス台地上にあり、標高約 70 m 前後の亀ヶ原台地東端部に位置する。遺物包含層は、後期旧石器時代～縄文時代草創期、縄文時代早期、縄文時代後期～現代のものがみられる複合遺跡となっている。また、本遺跡では複数の火山灰層の堆積が見られ、喜界カルデラを起源とするアカホヤ火山灰（約 7300 年前）、桜島を起源とする薩摩火山灰層（約 13000 年前）、桜島・高峠 6 火山灰層（約 26000 年前）、始良カルデラを起源とする始良丹沢火山灰層（約 30000 年前）等が確認されている。薩摩火山灰層の堆積層は、深いところでは 2 m を超える。

昭和 45 年末～昭和 46 年初め頃の桜ヶ丘キャンパス予定地の造成に伴い、中間研志・本天道輝氏によって遺物が採集され、桜ヶ丘キャンパス全域に遺跡が及んでいることが明らかになった。その際に採集された遺物は、縄文時代早期（主に貝殻円筒文系）、前期（曾畑式）、後期（指宿式）、弥生時代早期（突帯文土器）、前期（高橋式）、中期（入来 I・II 式）の土器のほか、石器類、古銭（洪武通宝）などであった（本田 1986）。

そして昭和 60（1985）年 6 月 1 日に鹿児島大学埋蔵文化財調査室が設置され、立会・試掘調査のほか、現在まで 13 件の発掘調査が行われている（Fig. 2）。調査の結果、脇田亀ヶ岡遺跡は、後期旧石器時代～近代にいたる複合遺跡であることが判明している。

後期旧石器時代末～縄文時代草創期については、89-2MRI-CT 装置棟建設地調査で薩摩火山灰層下位より石鏃が出土し包含層の存在が明らかになり、その後の調査でも小型ナイフ形石器、細石刃、石鏃、土器などが出土している。また、後期旧石器時代末～縄文時代草創期の陥し穴や遺構は、2000-2、2009-4 調査で検出されており、この地で狩猟活動を行っていたことが判明している。

また、脇田亀ヶ原遺跡の主体となる時期は、縄文時代早期であり、主に前平式土器が出土しているが、岩本式、石坂式、押型文土器なども出土している。94-2 受水槽建設地調査では、縄文時代早期前葉と思われる住居跡も検出されている。

弥生時代については、前期～中期前半、終末期の竪穴住居跡 4 基や土坑、ピット群が検出されている。94-1 難治性ウイルス疾患研究センター建設地の調査では前期の住居跡内で特異な状況で土器が出土しており、祭祀行為が行われた可能性がある。

古墳時代後期～近世にかけては遺物は得られているが明瞭な遺構は確認されておらず、造成時に多くが失われていると思われる。

参考文献

- 本天道輝 1986 「脇田亀ヶ原遺跡について—鹿児島大学宇宿キャンパス及びその周辺地区に於ける採集遺物の紹介—」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 I』鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 鹿児島大学埋蔵文化財調査室編 1986 『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 I』
- 鹿児島大学埋蔵文化財調査室編 1990 『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 V』
- 鹿児島大学埋蔵文化財調査室編 2000 『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 14』
- 鹿児島大学埋蔵文化財調査室編 2002 『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 16』
- 鎌田浩平編・新里貴之監修 2014 『脇田亀ヶ原遺跡』鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書 第 10 集



Fig.1 鹿児島大学構内遺跡位置図 (S = 1 / 50000)



Fig.2 脇田亀ヶ原遺跡（鹿児島大学構内遺跡桜ヶ丘団地）（S = 1 / 4000）

第Ⅱ章 医学部付属病院 MRI-CT 装置棟増築地（桜ヶ丘団地 E-8・9区）における発掘調査

1 調査に至る経過

鹿児島大学では、MRI-CT 装置棟を増築することになり、既存の建物のすぐ西側がその予定地とされた。既存の建物に際しては、平成元年7月～9月に鹿児島大学埋蔵文化財調査室による埋蔵文化財発掘調査（89-2）が行われ、縄文時代早期を中心とする遺物や遺構が確認されていた。また、その際に薩摩火山灰層下のいわゆるチョコ層から石鏃が出土しており、鹿児島大学桜ヶ丘キャンパス内において初めて縄文時代草創期の遺物包含層が確認された調査地点でもある（砂田ほか 1990）。西側増築地においても埋蔵文化財の包蔵が予想され、建設予定地全域を対象として、建設工事に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査を行うことになった。

参考文献

砂田光紀・松永幸男・中村直子 1990 「鹿児島大学宇宿団地 E-8・9区（MRI-CT 装置棟建設地）における発掘調査報告」
『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報V』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2 調査体制と調査期間

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 室長 上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 室長 上村俊雄

室員 大西智和・古澤生

発掘調査作業員 阿倍松伊都子・袈谷ハナエ・請園アキエ・請園チリ・宇都春子・小城サチ・相美伊久雄・寺光ミツ子・諏訪田ミツ子・竹田ノブ子・田中ヒロ子・谷口ミヤ子・田村和裕・永里幸子・中原スミエ・中原マス子・中村いつ子・西庄司・西村キミ子・西村チエ子・林麻穂・増満サツ子・増満ミエ子・松下郁美・松下オカル・松下ミチ・森内真・矢住純子・柳元照子・脇カツ子

調査期間 平成7年12月7日～平成8年3月19日

調査面積 約408㎡

遺跡の現状 MRI-CT 装置棟

3 調査の概要と経過

調査地点は、桜ヶ丘キャンパスの北東部の E-8・9区に該当する。

平成7年12月8日、調査区を掘削する前に調査区南側にガス管の移設を行った。その後、調査区の盛土約1.5mを重機にて除去し、12月12日より、作業員による壁面清掃・下位層掘削を行い調査を開始した。

調査区南側には2層（弥生時代遺物包含層）がわずかに残存しており、調査区南側の2層の掘削を先に行った。だが、2a層（調査区南東端部分のみ）からの出土遺物はみられず、2b層からは遺物は出土したが遺構の検出はみられなかった。

2層を掘削し、調査区南側3層上面で P1～5, SK1 が検出された。平成8年1月10日より、3層（アカホヤ火山灰層）の掘り下げを行った。調査区北側3層より P6～20, 調査区南側から P21・23 が検出され、層位横転が3ヶ所（横転1～3）確認された。

1月19日には3層を完掘し、4a層上面にて P22・24～30, 32～44, 50, 57～59 を検出した。そして、南側には層位横転（横転4～6）を3ヶ所確認した。また調査区北側に SK2・3 が検出された。各遺構の掘削、遺物の取り上げを行い4a層の掘り下げを進めた。

1月31日より4b層上面にて遺構（SK4・5と P31・45～49, 51～56, 60）を検出した。2月5日より4b層の掘り下げを始め、層位横転2ヶ所（横転7・8）が確認された。

2月19日には、5層上面で SK6, P61～78 を検出した。また、横転2ヶ所（横転9・10）も確認した。遺構掘削後、5層上面の地形測量を行い、2月26日には重機による5層（薩摩火山灰層）の掘り下げを行った。

堆積は深いところでは2 m以上であり、6層上面は南側中央部が深くなっている。

3月1日より6層上面を精査し、コンター測量後、2.5 × 2.5 mでメッシュを組み、千鳥状に上部5 cmほどを慎重に掘削した。それより下位については、調査区内の北部・中央部・南部の3ヶ所でピンクシラスまで深掘りを行った。最後に土壌サンプリングを行い、調査を終了した。

土壌分析の結果については『鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書 第2集』(2006)に掲載している。その際の報告と本報告では6層以下の層名が異なっており、6-1～6-4層が本報告の6a～6d層、6-5～6-7層が本報告の7a～7c層、6-8・6-9層が本報告の8a層に該当する。

第三章 基本層序

基本土層は大きく1～8層観察された。以下に基本層序を示す。

1層：表土，旧表土

2a層：5YR1.7/1 黒色を呈するシルト層。粘性はほとんどなく、5 mm程度までのパミスを含む。

2b層：7.5YR2/3 極暗褐色を呈するシルト層。粘性はなく、5 mm大程度までのパミスを含む。弥生時代の遺物包含層と考えられる。

3層：7.5YR5/8 明褐色を呈するいわゆるアカホヤ火山灰層。粘性をわずかに帯び、2.3cm大までの黄色パミスを含む。この層中からも土器の出土が認められるため、二次堆積の可能性も高い。

4a層：7.5YR3/2 黒褐色を呈するシルト層。粘性をやや帯び、5mm大程度までの白色粒子、2cm大程度までの黄色パミスを含む。土質は3層に類似している。縄文時代早期の包含層である。

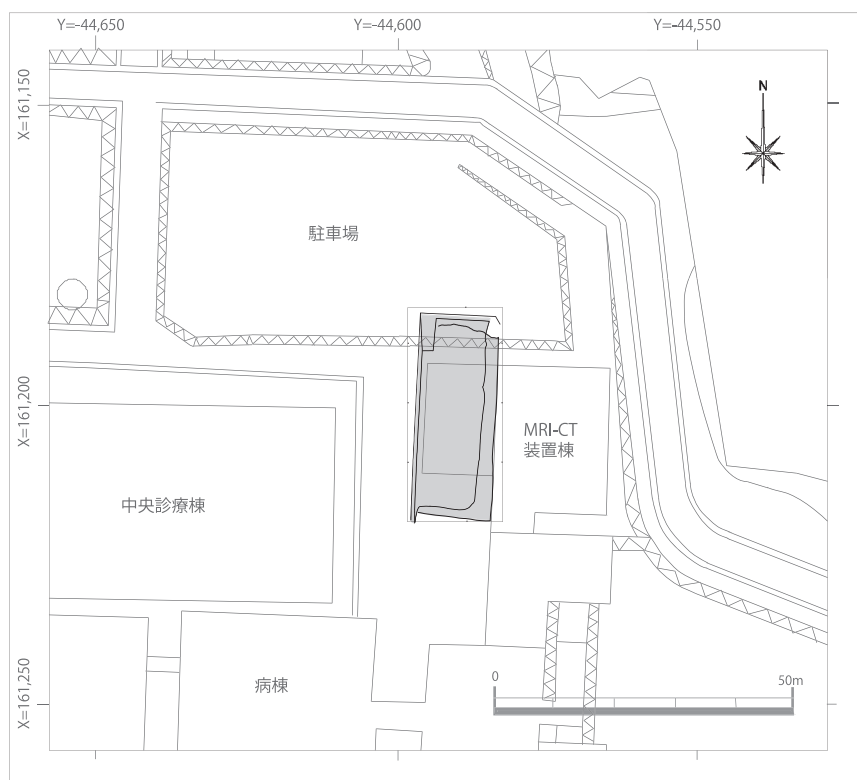
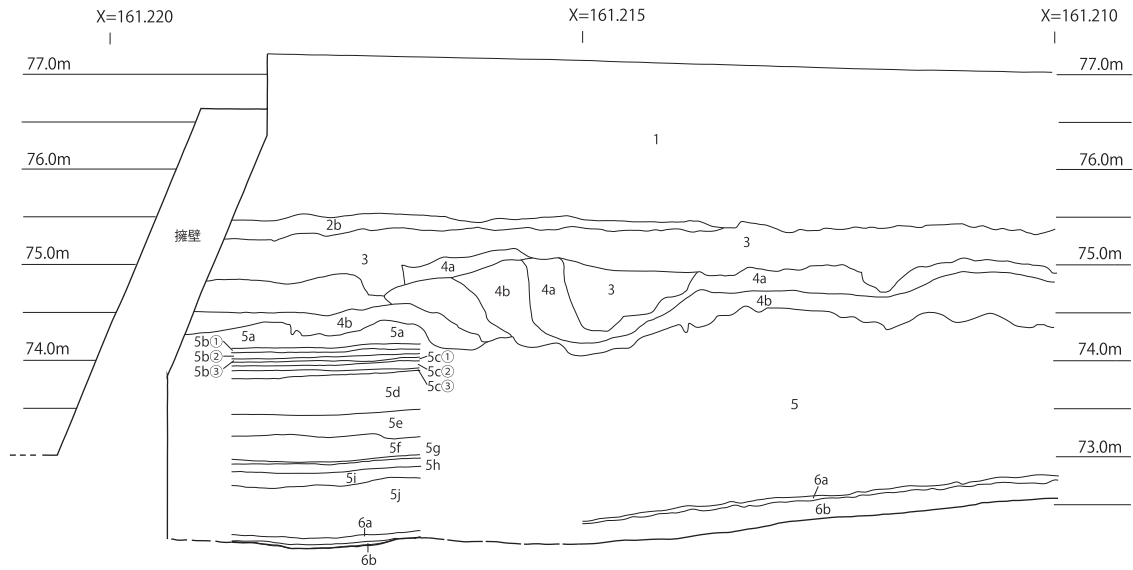
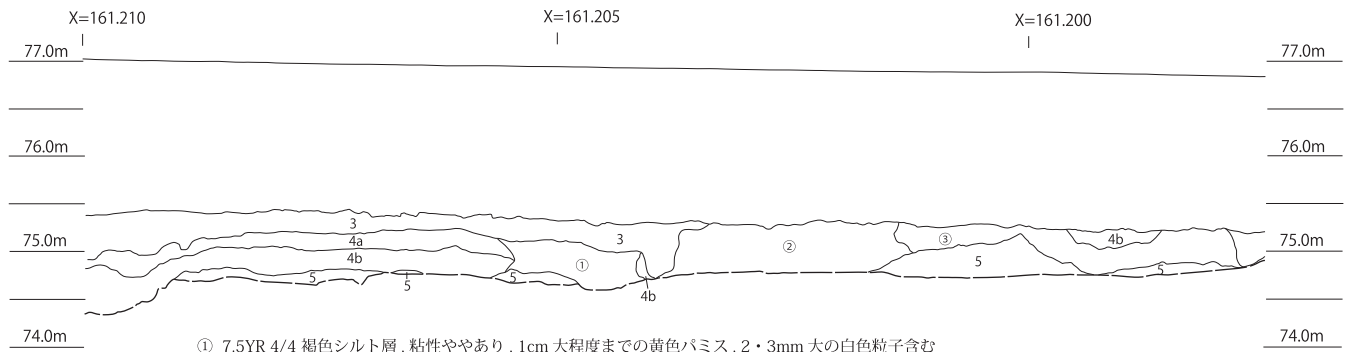


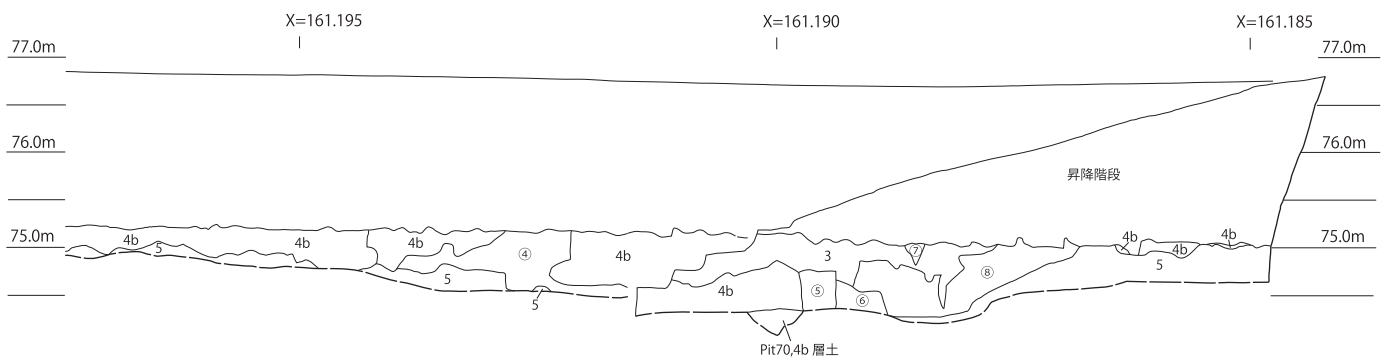
Fig. 3 調査区位置



- 5a 上部 7.5YR 6/8 橙色, 1cm 大バミス, 下部粗砂主体, 漸移的に変化
- 5b① 7.5YR 6/8 橙色 2~3cm 大バミス層, 粗砂などはあまり見られない
- 5b② 7.5YR 6/8 橙色 バミスと粗砂の混合層
- 5b③ 7.5YR 6/8 橙色 細かい粒子状のバミス層
- 5c① 10YR 4/4 褐色 粗砂~シルト層, 硬くしまる
- 5c② 7.5YR 6/8 橙色 バミス 1cm 大程度・粗砂の混合層
- 5c③ 7.5YR 5/4 にぶい黄褐色・7.5YR 5/6 明褐色の中間的な色調のシルト層, 硬くしまる
- 5d 7.5YR 6/8 橙色バミス主体・粗砂混の層, 5cm 大バミス混
- 5e 7.5YR 6/8 橙色 バミスのシルト質層, 3cm 大程度までのバミス粒子混
- 5f 7.5YR 6/8 橙色 1cm 大バミスと粗砂混層, サージ
- 5g 10YR 7/8 黄褐色 バミスがシルト質になった層, 比較的硬い. 1cm 大のバミス粒混
- 5h 10YR 6/8 橙色 バミスと粗砂~細砂の混じり層
- 5i 7.5YR 6/6 橙色 シルト層, バミスがシルト質になった層. 2cm 大の 10YR 7/6 黄褐色 バミス混
- 5j 10YR 7/6 黄褐色 3cm 大バミス主体層, 礫と粗砂混, 最下部 7.5YR7/3 にぶい橙色 1cm 大の粗砂混じりシルト層



- ① 7.5YR 4/4 褐色シルト層, 粘性ややあり, 1cm 大程度までの黄色バミス, 2・3mm 大の白色粒子含む
- ② 10YR 4/3 にぶい黄褐色・10YR 4/6 褐色, サツマ火山灰と 4b 層の混土層
- ③ 10YR3/3 暗褐色シルト層 (4b 層に類似するが 4b 層よりも明るい), 粘性なし 3cm 大程度までの黄色バミス多く含む



- ④ 7.5YR 5/6 明褐色・7.5YR 4/3 褐色シルト層, 3 層類似, 粘性やや帯びる 2cm 大程度までの黄色バミス・炭を含む
- ⑤ 10YR 4/4 褐色 粗砂~シルト層, 3cm 大程度までの黄色バミスを多く含む 4 層と 5 層の混土か
- ⑥ 10YR 5/4 にぶい黄褐色 シルト層, 粘性ややあり 2cm 大程度までの黄色バミス含む
- ⑦ 10YR 4/3 にぶい黄褐色 シルト層, 粘性あり ピットの埋土, 3 層土類似
- ⑧ 10YR 3/3 暗褐色 シルト層, 粘性あり 2cm 大までの黄色バミス, 2・3mm 大の白色粒子含む

0 5m (s=1/80)

Fig. 4 調査区西壁土層図



表土除去前



表土除去後



表土除去清掃後



西壁北側 1～4層



西壁中央部 1～4層



西壁南側 1～4層

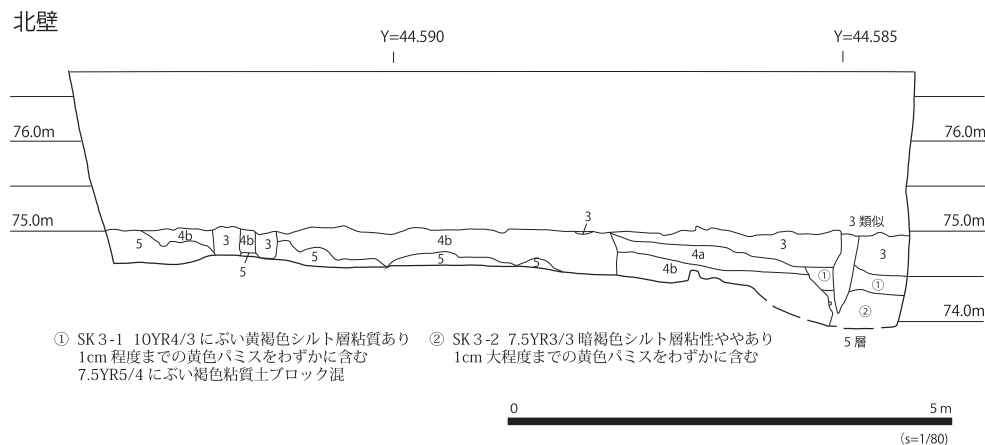


西壁南側 1～6層



西壁南側 1～6層

PL.1 調査風景・西壁



調査区東側深掘地点

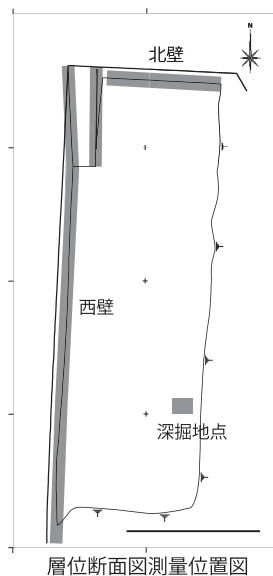
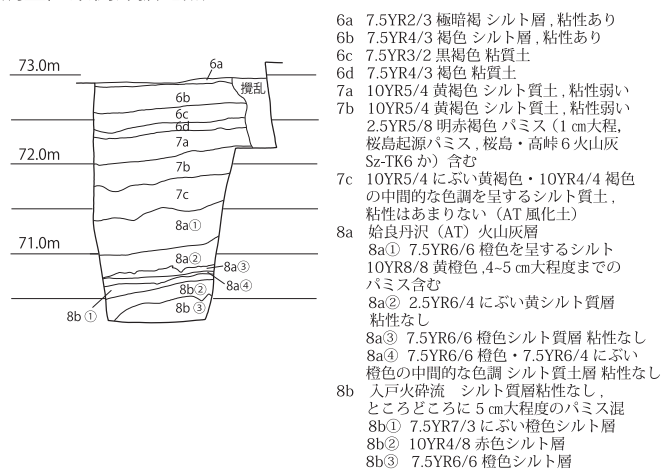


Fig. 5 調査区北壁・調査区東側深掘地点土層図

4b層：7.5YR2/2 黒褐色を呈するシルト層。粘性をかなり帯び、5mm 大程度までの白色粒子と、3cm 大程度までの黄色パミスを多く含む。縄文時代早期の包含層であるが、下部からは遺物の出土は少ない。

5層：7.5YR6/8 橙色を呈するパミス、7.5YR5/8 明褐色を呈するシルト層や粗砂からなる、いわゆる薩摩火山灰層で、平均約 2m の厚さを測る。森脇広氏の所見に基づき、調査区西壁南側地点において細かく分層している (Fig. 4)。5b層が火山本体の噴出物と考えられる。

6層：いわゆる「チョコ層」であり、6a～6d層に分けられる。下部になるにつれ、色が薄くなり粘性も弱くなる。調査区東側深掘地点にて土層観察を行っている (Fig. 5)。

7層：黄褐色シルト層で、黄色パミスを含む。桜島・高峠6火山灰 (P17) か。

8層：始良丹沢火山灰層 (AT)、入戸火砕流



調査区東側 6層以下深掘り



調査区東側 6層以下深掘り



サンプリング採取作業



北壁 5層（薩摩火山灰層）上面



北壁 5層掘削状況



5層（薩摩火山灰層）除去作業



測量作業

PL.2 深掘土層・北壁・調査風景

第IV章 各層の遺構と出土遺物

上層より各層ごとに、遺構と遺構内遺物・包含層出土遺物について述べる。

1 1層出土遺物 (Fig. 6, PL. 3)

表土層内からは、近現代と思われる陶磁器や土器小片、古くは縄文時代早期貝殻文土器の小片などが出土しており、造成時に大きく攪乱を受けている様子がうかがえる。分量としては、浅パンケース2個分ほどである。

1は、俵に鼠が乗った様子が描かれた簪である。先端部は耳かきの形状になっている。江戸期該当と思われる。2～6は、縄文時代早期前半の前平式に該当する土器である。2は口唇部直下にヘラ状工具による連続刺突文、口唇部上部平坦面にも浅めの刻みが施される。内面は比較的丁寧なナデが認められる。3は口縁部に縦位・斜位の貝殻刺突文、胴部は横位の貝殻条痕文がみられる。4は縄文時代早期の円筒胴部片である。斜位・横位の貝殻条痕文の上に縦位の貝殻刺突文が施され、内面はケズリの痕跡が明瞭に認められる。外面の一部は剥落している。5は底部であり、外面に貝殻条痕、底部に編物痕かと思われる圧痕が認められる。6も縄文早期の底部であり、丁寧にナデ調整され部分的にミガキも生じている。

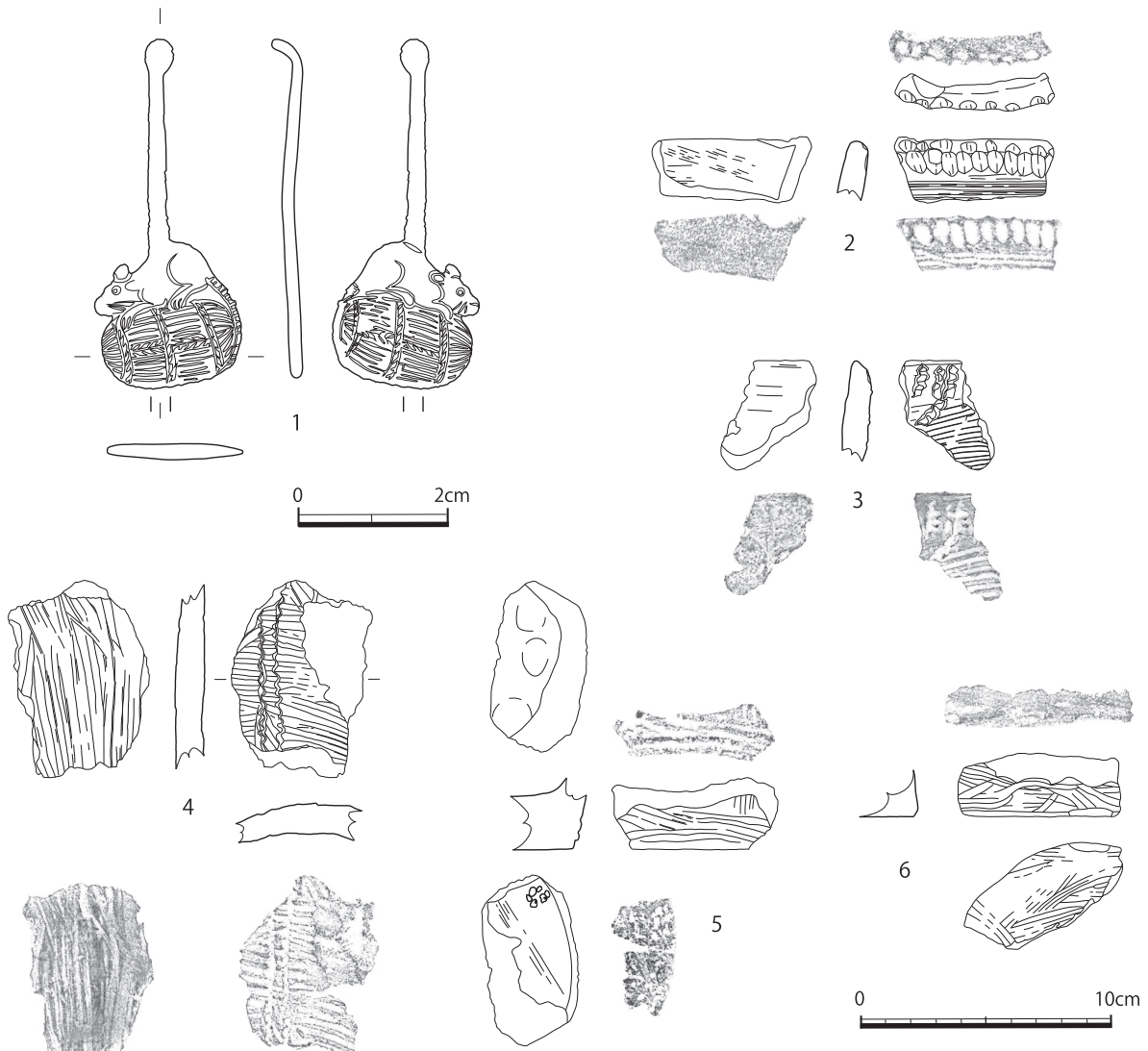
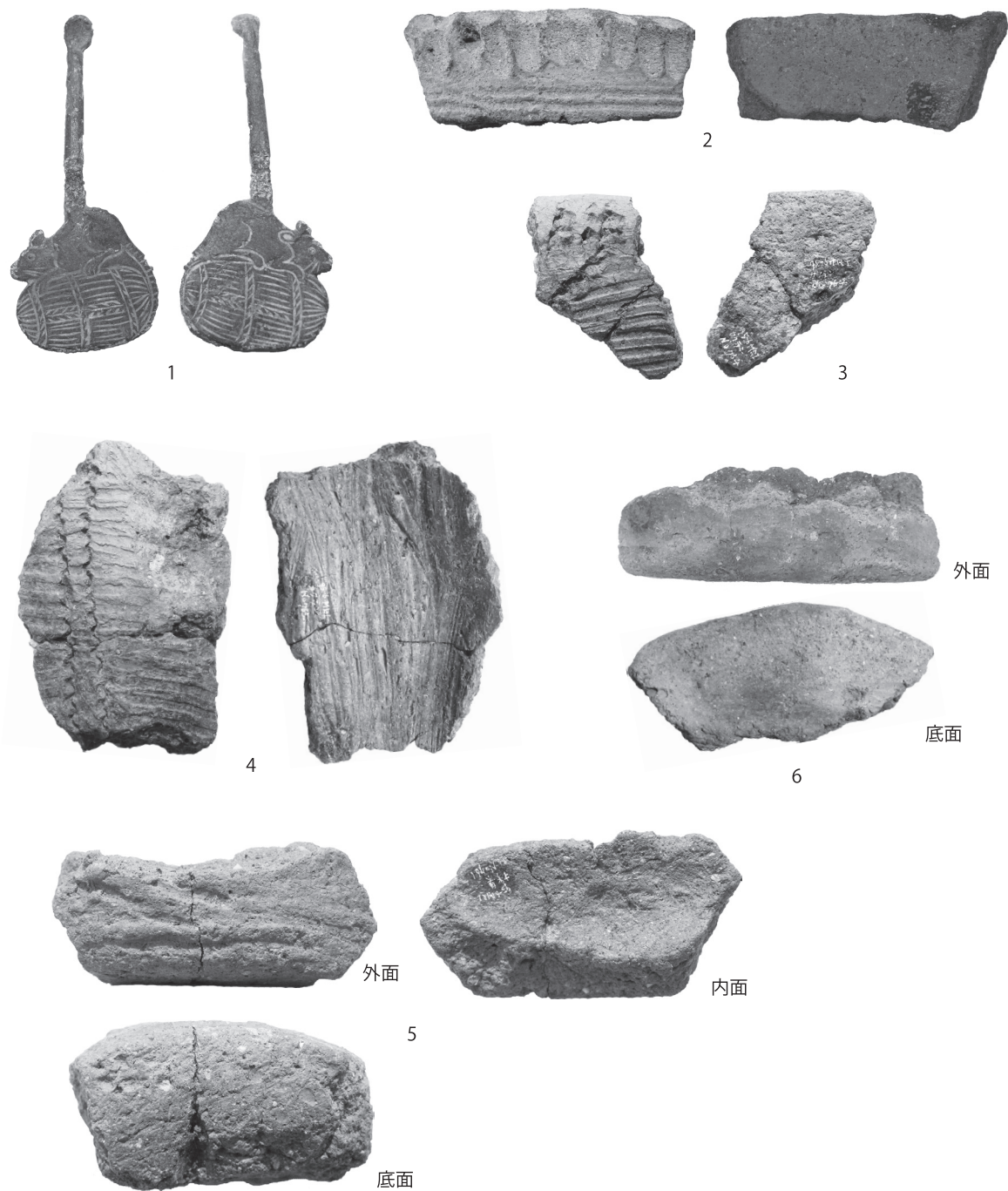


Fig. 6 1層・攪乱出土遺物



PL. 3 1層・攪乱出土遺物

2 2層出土遺物 (Fig. 8, PL. 5)

後世の造成により、2層は調査区南側に残存しているのみであった (Fig. 7)。遺構の検出はみられず、特に 2a層は調査区南東隅に確認されるのみで遺物の出土もみられなかった。2b層からは弥生時代中期を中心とする甕や壺、縄文晩期土器、縄文早期の前平式土器などが出土している。全体数は Tab.10 に示しており、内 13 点を図化した (Fig. 8)。

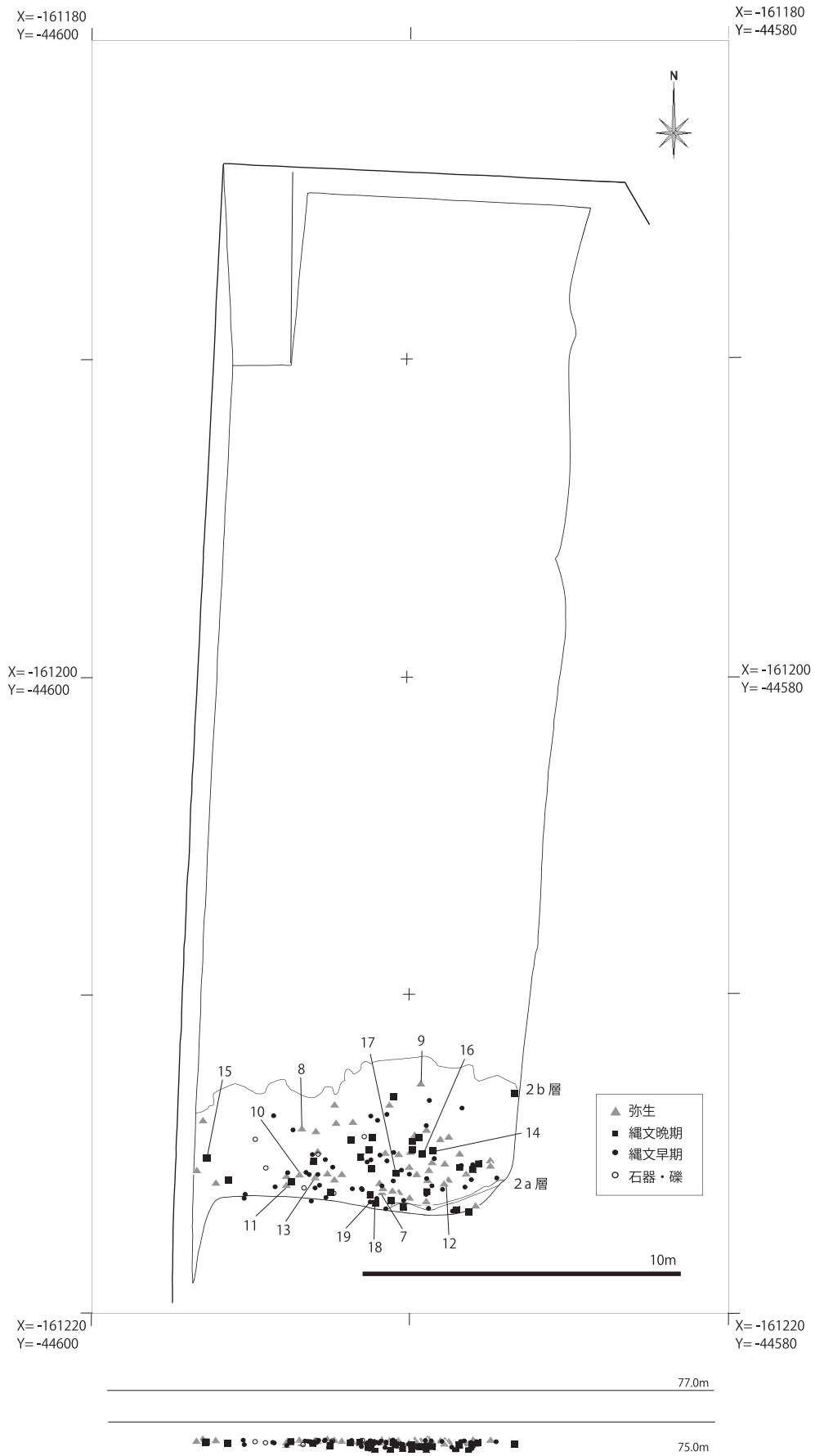


Fig. 7 2b層出土遺物分布図

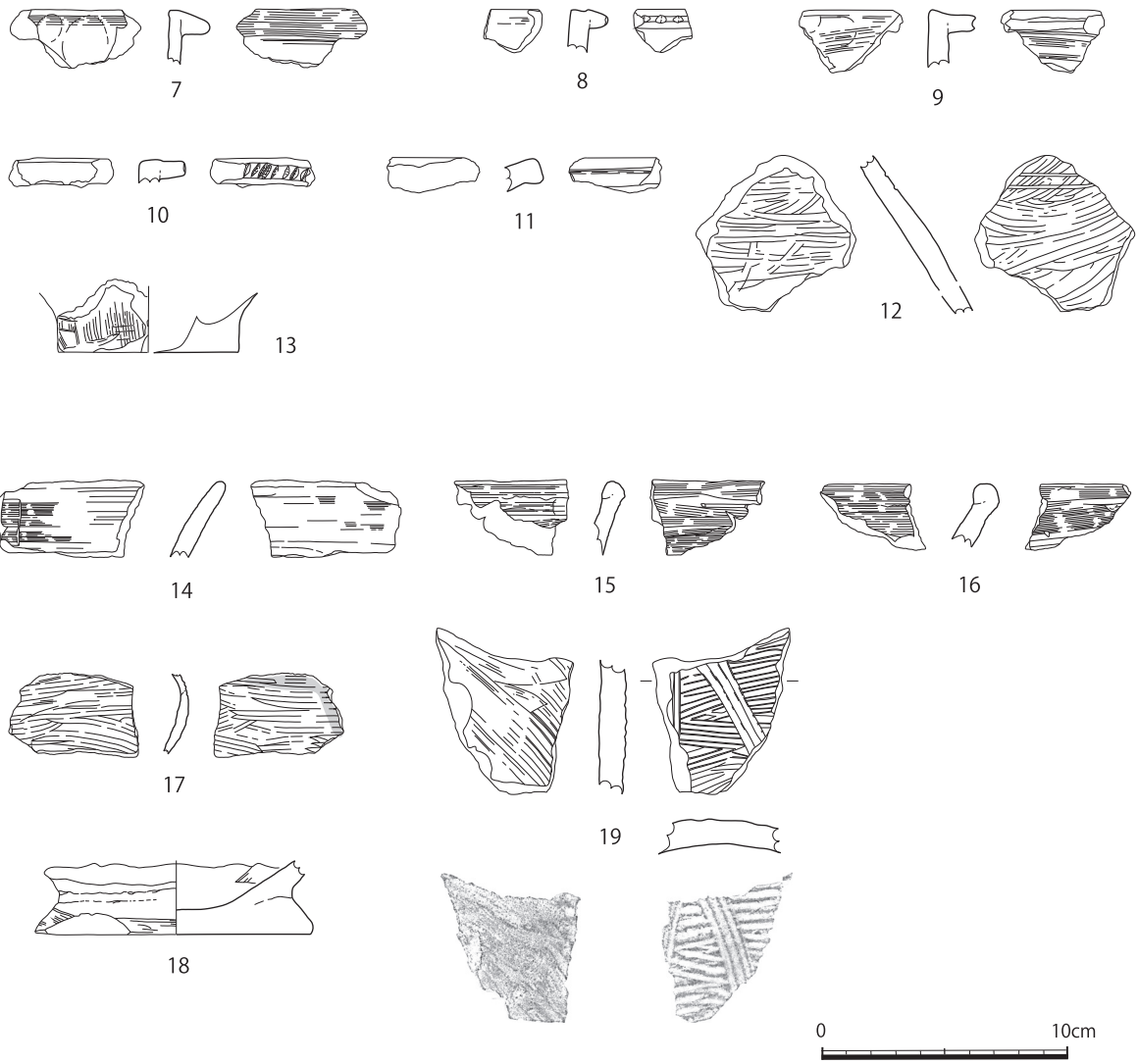


Fig. 8 2b層出土遺物

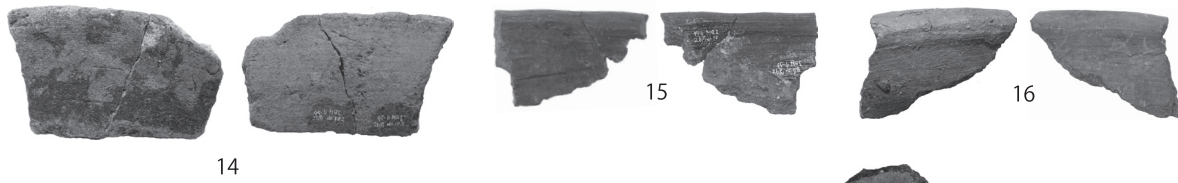


2a・b層検出状況



2b層掘り下げ

PL. 4 2層検出・掘削状況



PL. 5 2b層出土遺物

7～13は弥生時代に該当する。7・8は甕口縁部で外面にススの付着がみられる。9～10は入来Ⅱ式該当と思われる甕口縁部である。11は壺の口縁部である。12は弥生時代前期～中期初頭と思われる壺胴部である。13は甕底部であり、外面には掻きあげた工具痕が残る。

14～18は縄文時代晩期に該当する。14は深鉢もしくは鉢の口縁部で外面にススが付着する。15・16は器形は不明だが内外面に丁寧なナデ、部分的なミガキが認められる。17は浅鉢の胴部である。内外面ともに丁寧にミガキが施され、外面に部分的に赤色塗布が確認できる。18は深鉢の底部で、屈曲部に接合痕が認められる。

19は縄文時代早期貝殻文系土器前平式に相当する胴部片である。横位・斜位の貝殻条痕文の上に二重施文が施される。内面はケズリ調整である。

3 3層検出遺構・出土遺物 (Fig. 9～18, PL. 6～11)

3-1. 3層検出遺構 (Fig. 9～11)

調査区北西側に3ヶ所の横転が確認された。平面実測を行い、掘削して断面の観察を行った結果、横転と判明した。横転1の4層土内を中心に29点ほど早期貝殻文系土器が出土している。①層からは胴部2点、②層からは胴部1点、口縁部1点、③層からは胴部2点が出土している。20～24が横転1出土土器であるが、前平式の範疇の土器である。20・21は口唇部下にヘラ状工具による刻みが施される。20に比べ21は細い刻みが施され、内面はケズリ調整が認められる。22・23は口縁部に貝殻刺突文が二重に施され、23は下位横方向にも貝殻刺突文が施される。24は底部で胴部に縦位の、底端部には横位の貝殻条痕文が施されている。いずれも前平式土器の範疇であり、3～4層に含まれていた土器と思われる。

遺構としては、3層において土坑1基(SK1)、ピットが22基(P1～21・23)検出された。SK1は底付近で埋土が変化し上部より黒くなる。中央部が特に深くなる。2層が残存していた調査区南側では、SK1、P1～5が3層上面で検出された。ピット群は調査区南側と北側に集中しており、浅いものは10～20cmほどで断面形状も段落ちがみられるなど明瞭でないものも含まれるが、まっすぐ掘り込まれた深さ50cmを超えるものも10基ほど確認できる。ピット底面は平らな形状であることが多い。配列などの規則性は特に見いだせなかった。また、Tab.10でも示しているが、P6・10・11・13・19・31・38で出土しているのは全て貝殻文系土器の胴部小片であった。

また、3層上面検出写真(PL.6)をみると、調査区斜め方向(南南東)に浅い段落ちがみられ、それに直行する形で直線状の浅い凹みが並んで認められる。造成により2層もほぼ攪乱されているため詳細な時期は不明であるが、近代畑の畦間跡・区画跡の可能性はある。

3-2. 3層出土遺物 (Fig.13～18, PL. 8～11)

3層出土土器は、弥生土器、縄文晩期土器も少量出土しているが、縄文時代早期貝殻文系土器が主体となる。本地点出土の貝殻文系土器は、大きく口縁(～胴)部1～3類、胴部a～d類、底部ア～オ類に分けられる。V章にて後述するが、以下に簡潔に述べる。

- ・口縁部1類：口唇部上部は平坦もしくは丸みを帯び、口唇下部に縦位の工具によるやや広い刻みが施される。外面は貝殻条痕文、内面調整は丁寧なナデが認められる。
- ・口縁部2類：口唇下部に縦位・斜位の工具による細い刻み、内面はケズリ・ナデが認められる。
- ・口縁部3類：口唇下部に縦位・斜の貝殻腹縁による刻み、下位に横位の貝殻沈線文を施すものもある。また貝殻(巻貝か)を転がして施文しているものもある。本遺跡の主体を占める。

胴部は大きく5類に分類した。

- ・胴部a類：横位・斜位の貝殻条痕文が施される(主に厚手の円筒土器)
- ・胴部b類：横位・斜位の貝殻条痕文の上に、菱形や縦位の沈線文、連続二点刺突文などの二重施文が施される。

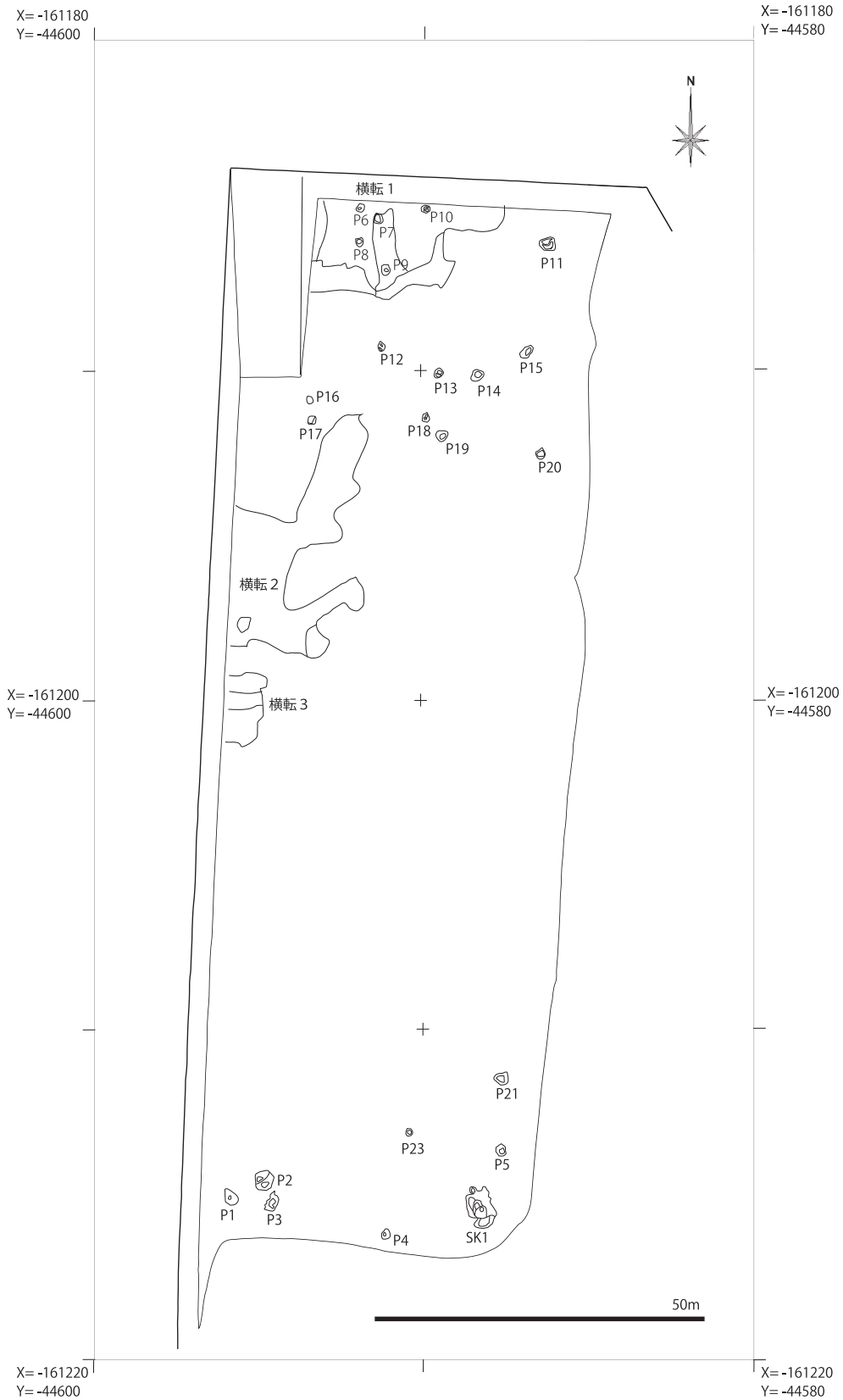
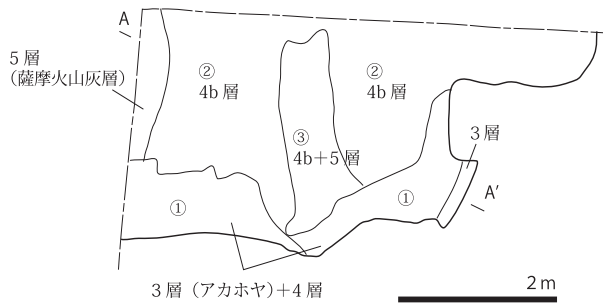
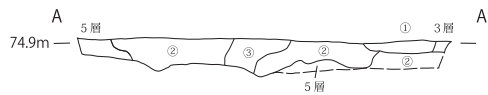


Fig. 9 3層検出遺構分布図

横転 1 検出



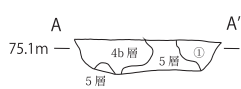
横転 1 断面



横転 1 土層

- ① 暗褐色シルト層粘性ややあり, 1cm 大程までの黄色バミス・5mm 大までの白色粒子多く含む
- ② 4b層 黒色シルト層 粘性ややあり, 1cm 大までの黄色バミス・5mm 大程度の白色粒子多く含む
- ③ 4b層と5層の混土か, 黒褐色シルト層とサツマ層との混土粘性ややあり, 4cm 大程度までの黄色バミスを多く含む

横転 3 断面



横転 3 土層

- ① 暗褐色シルト層とサツマ層との混土 粘性ややあり 2cm 大程度までの黄色バミス 5mm 大程度までの白色粒子多く含む

横転 2 検出



横転 3 検出

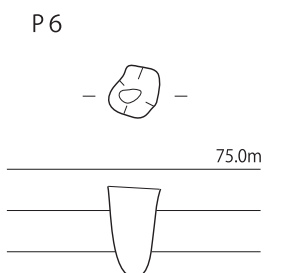
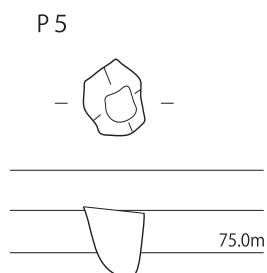
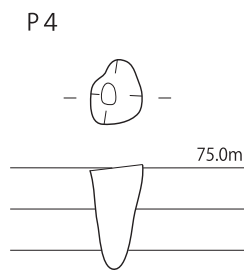
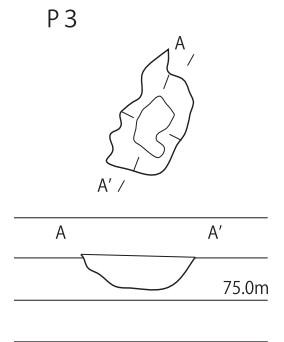
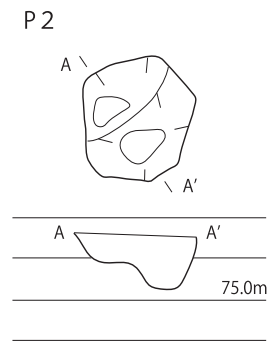
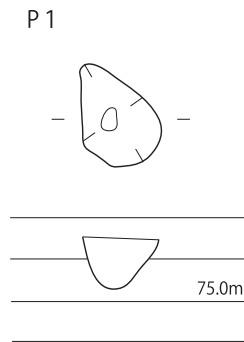
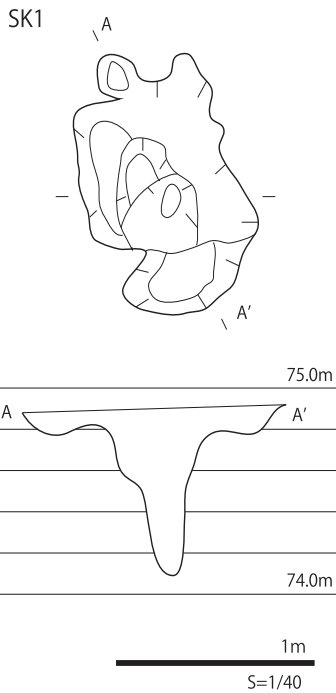


Fig.10 3層検出遺構 (1)

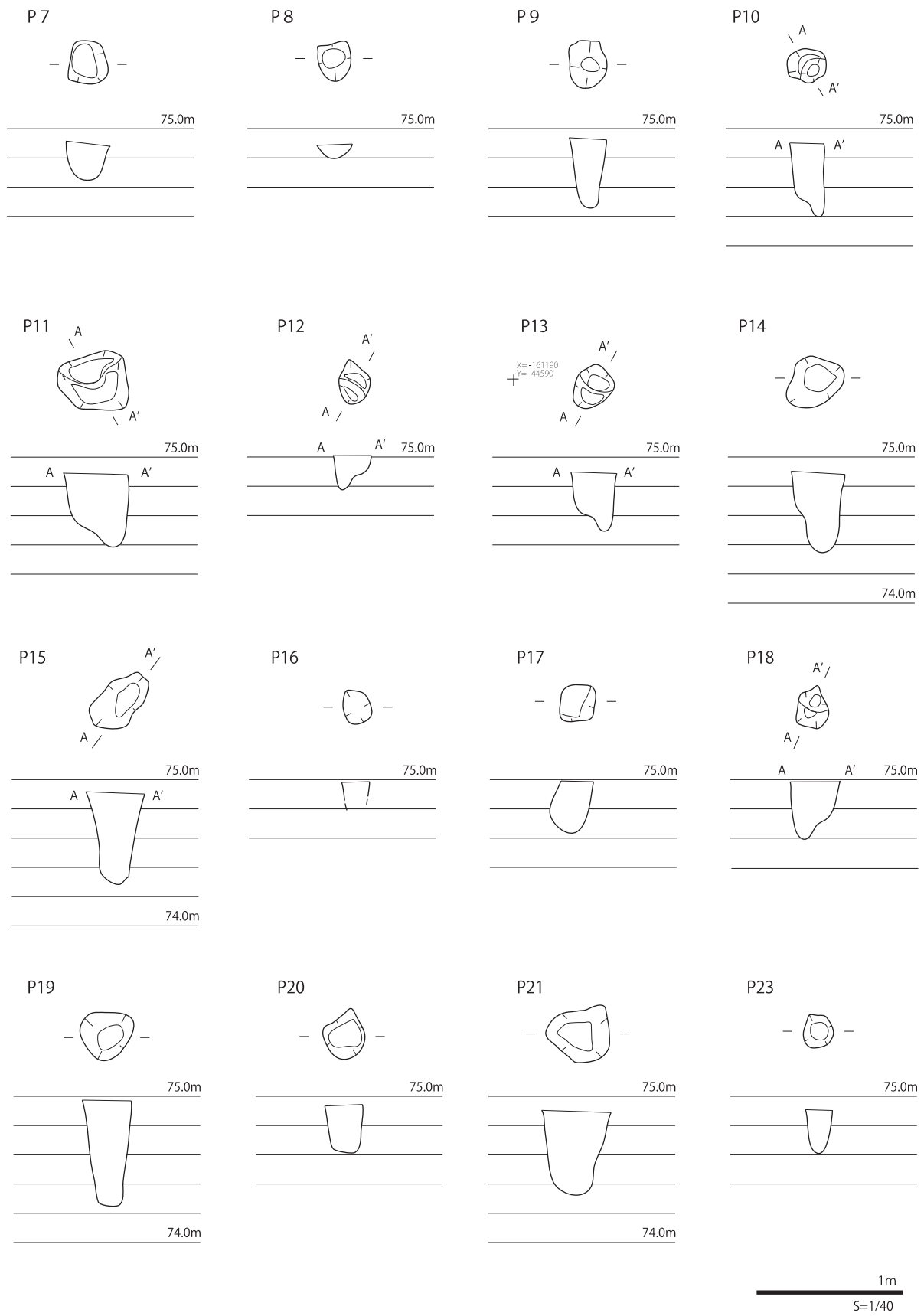


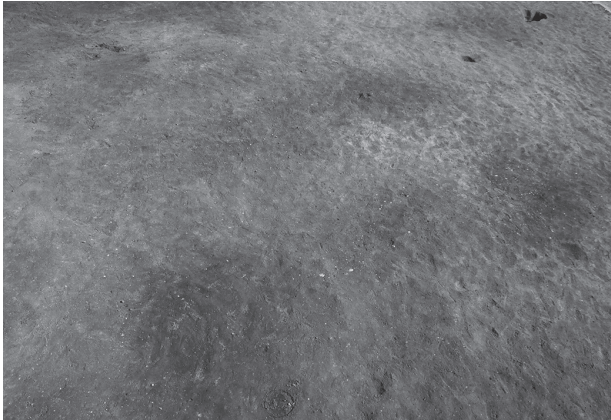
Fig.11 3層検出遺構 (2)



3層上面検出 北から



3層北側遺構検出状況



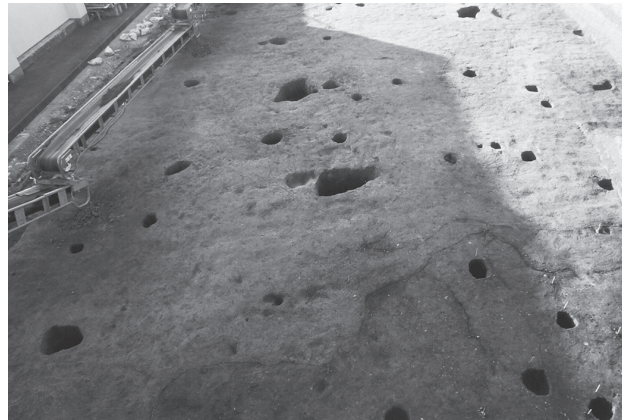
P22・23 検出状況



横転1断面



横転3断面



P 6～20 完掘状況



SK 1・P 1～5 完掘状況



SK 1 完掘状況

PL. 6 3層遺構検出状況

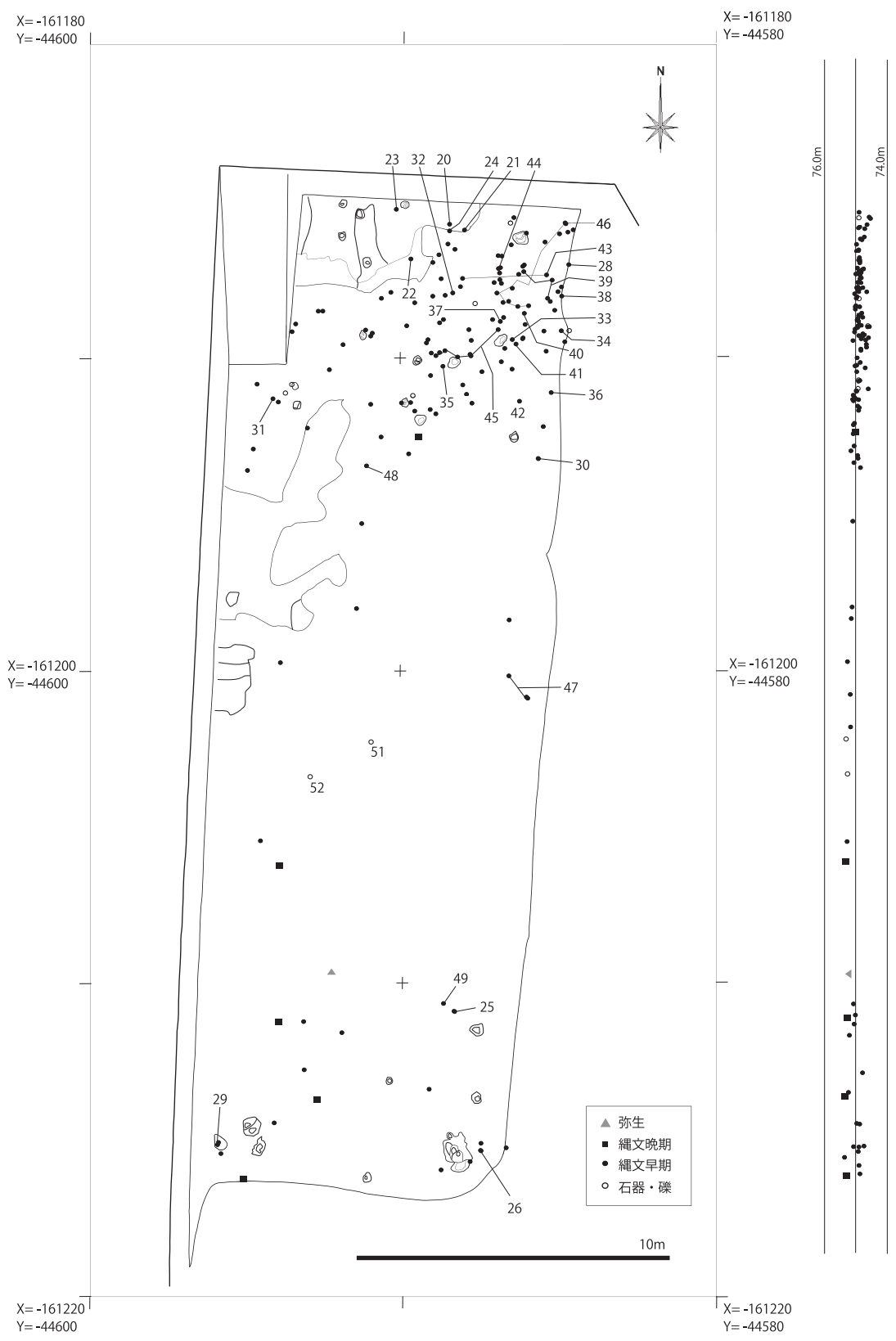


Fig.12 3層出土遺物分布図

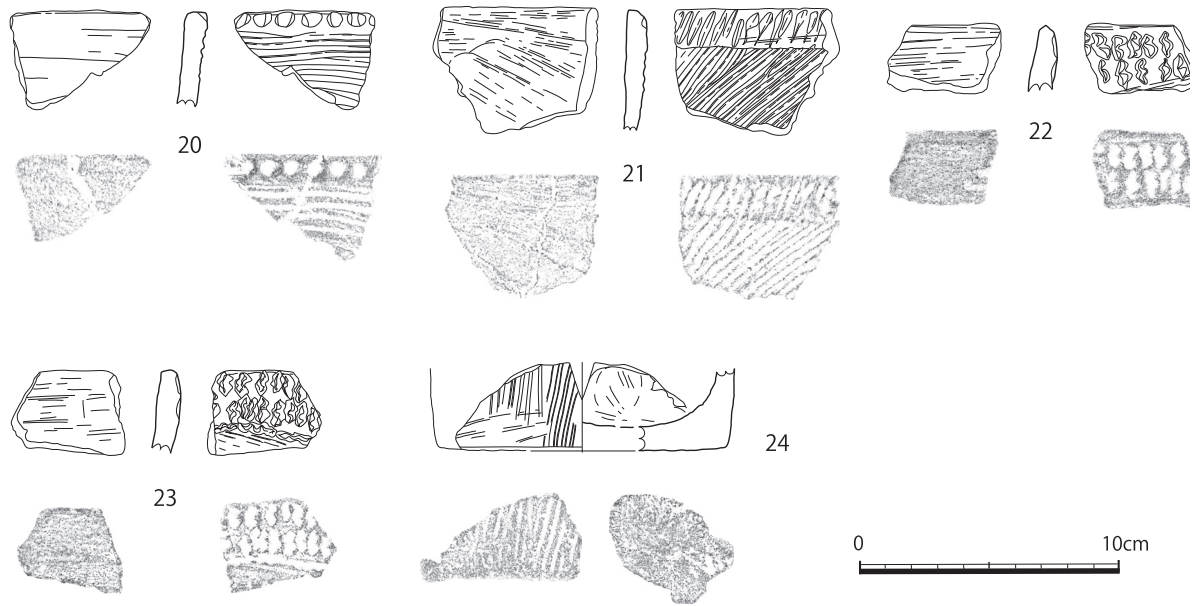
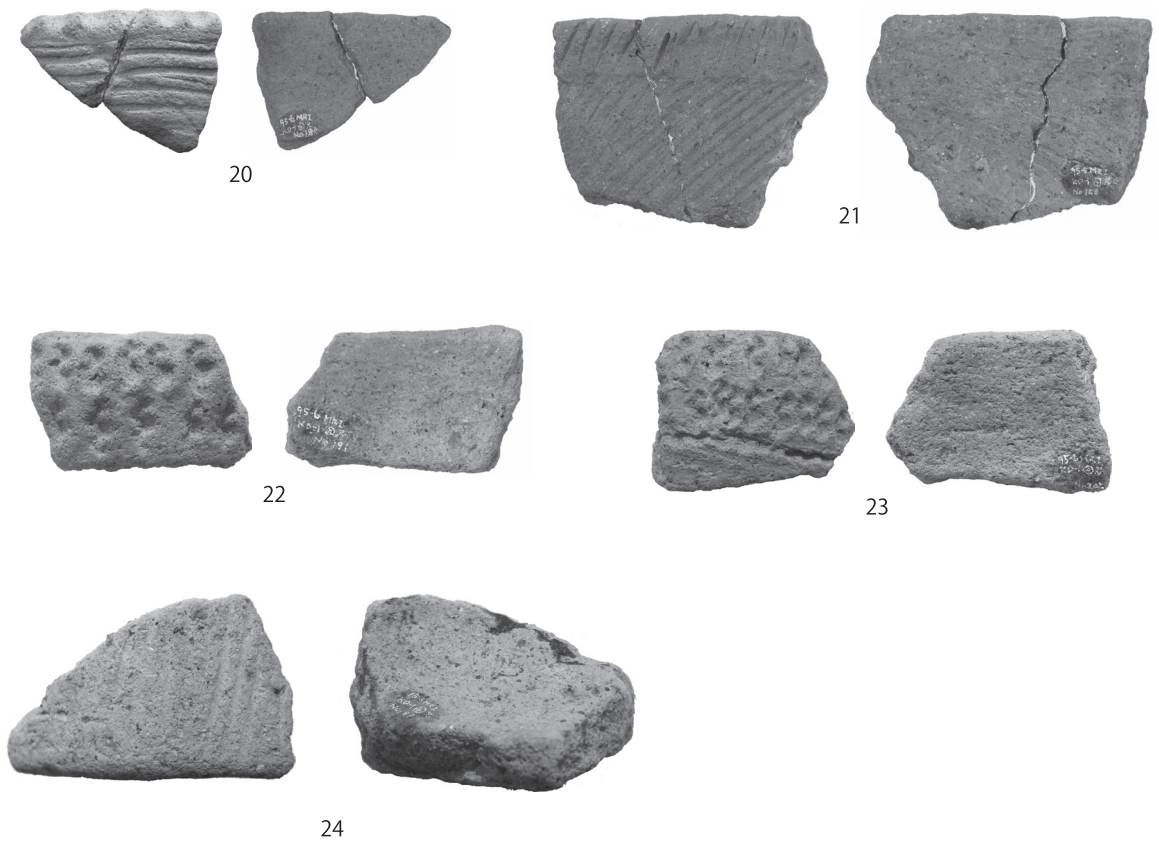


Fig.13 3層検出 横転1 出土遺物



PL. 7 3層検出 横転1 出土遺物



Fig.14 3層出土遺物(1)

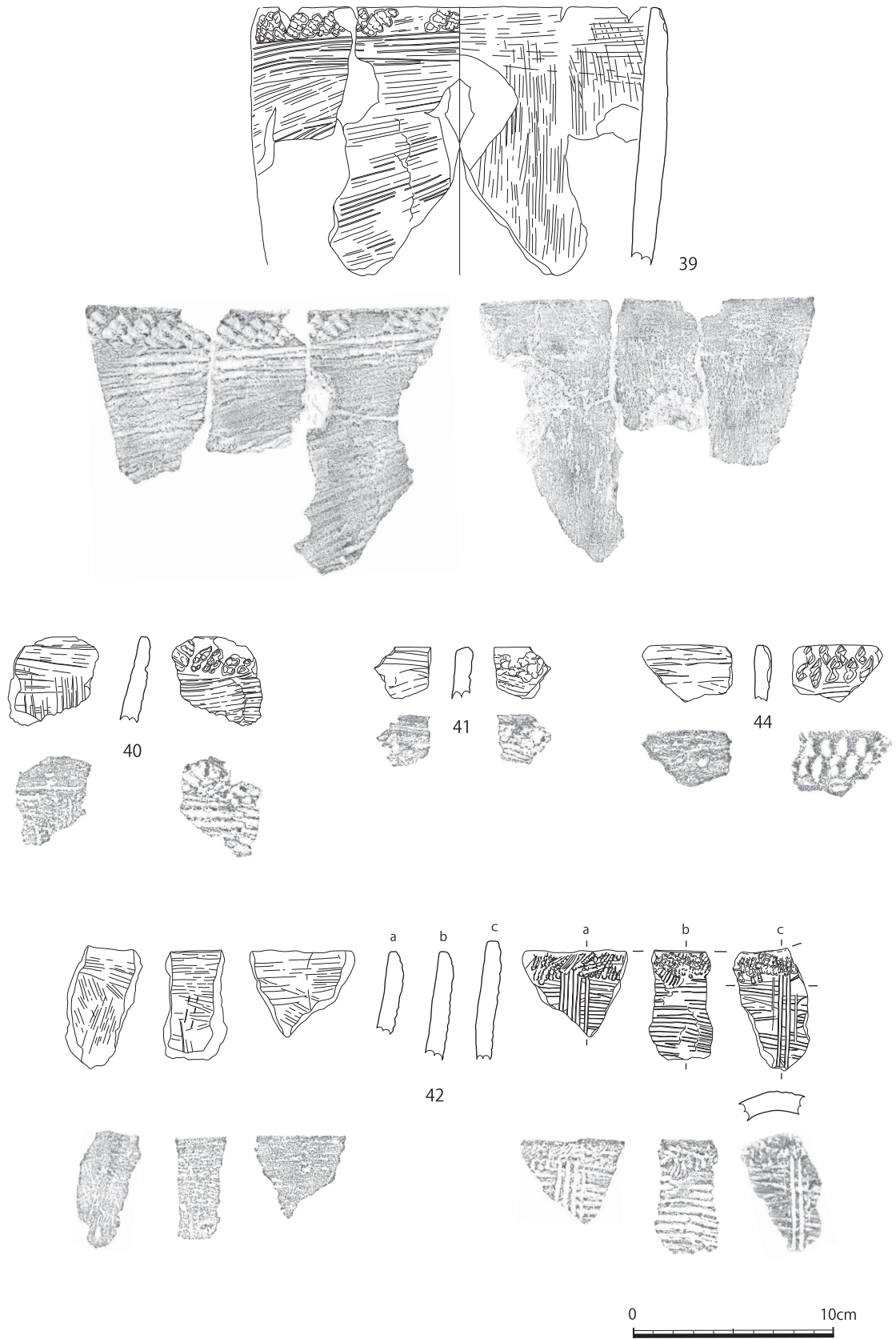


Fig.15 3層出土遺物（2）

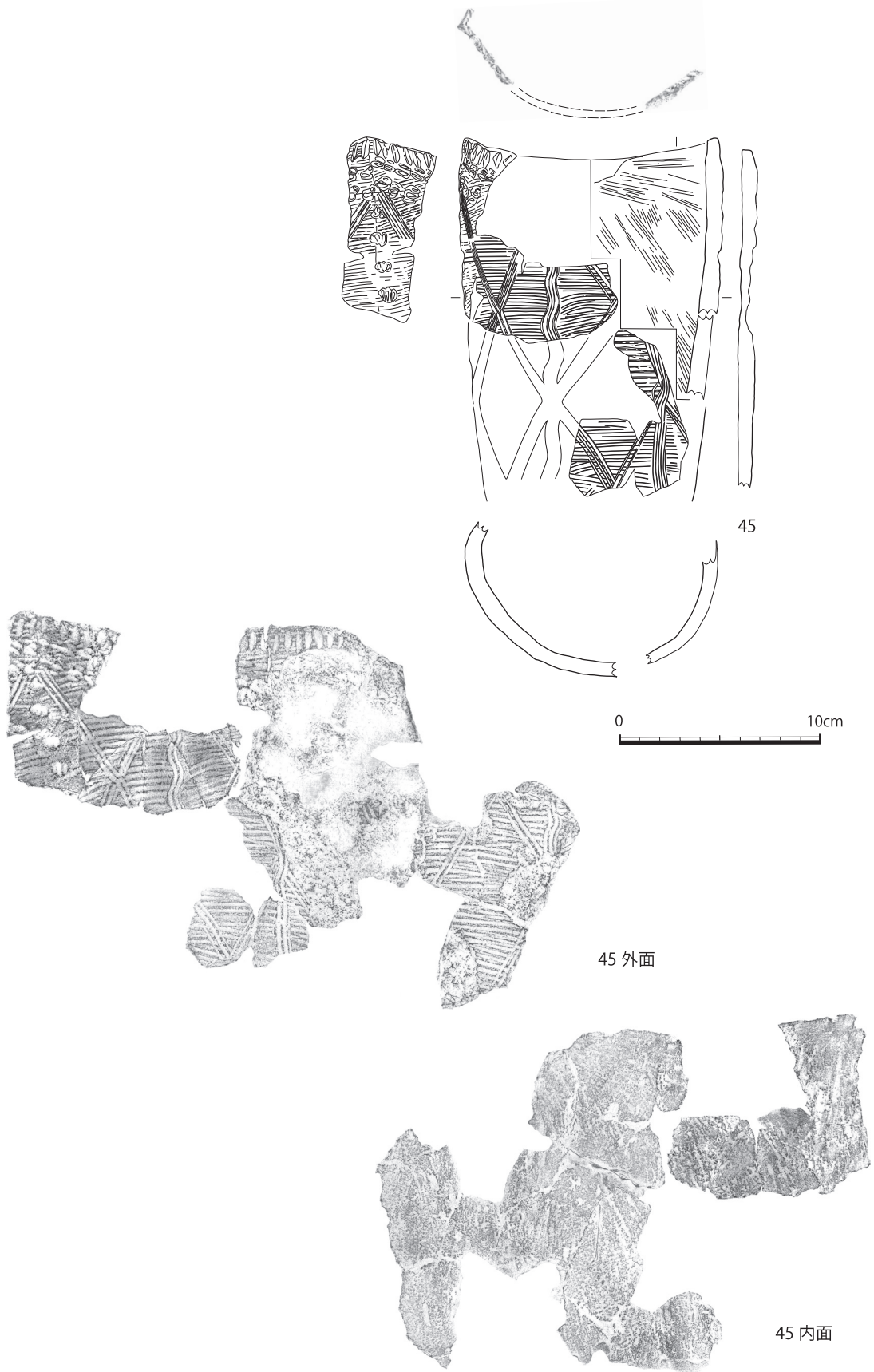


Fig.16 3層出土遺物(3)

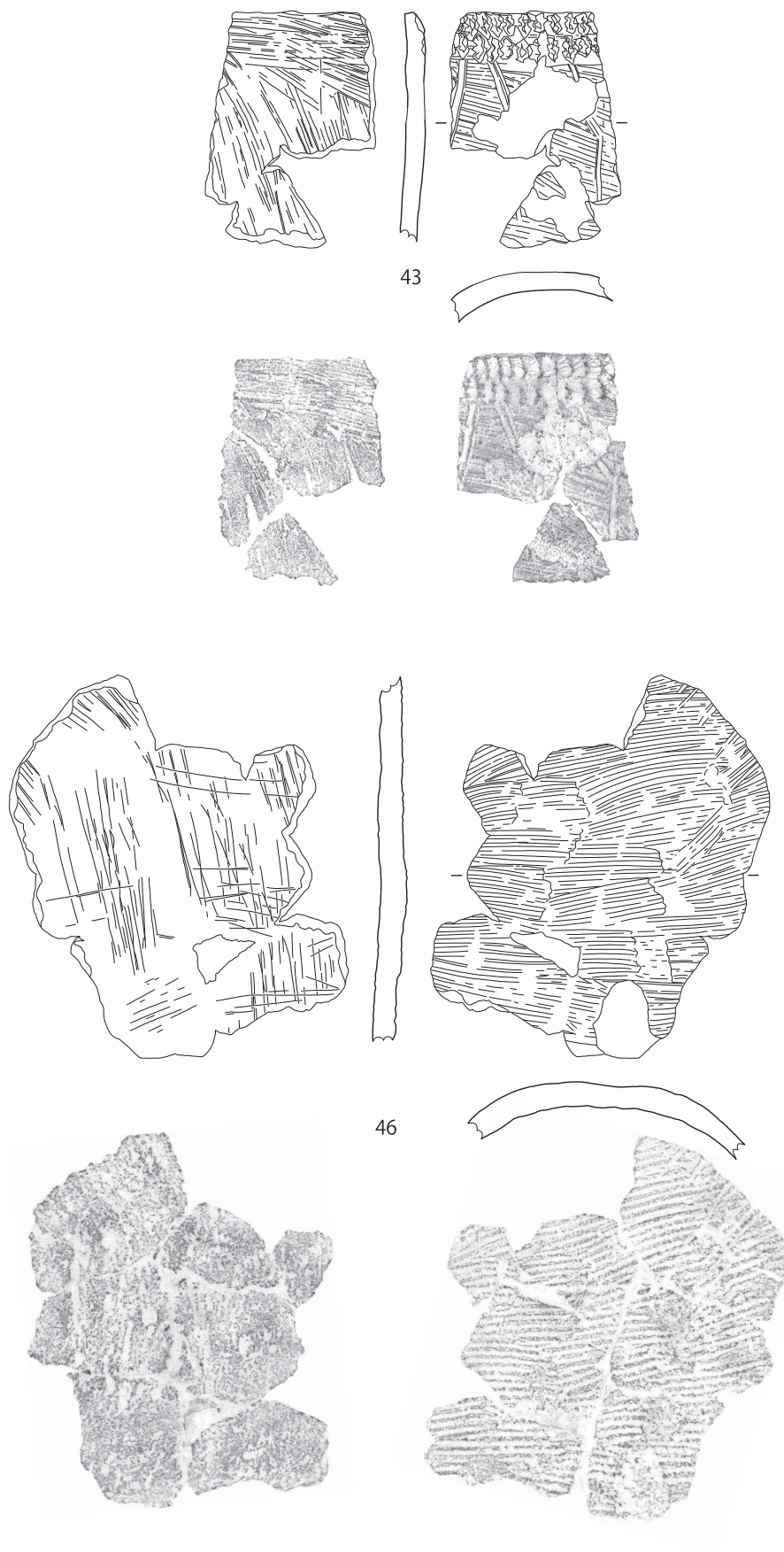


Fig.17 3層出土遺物（4）

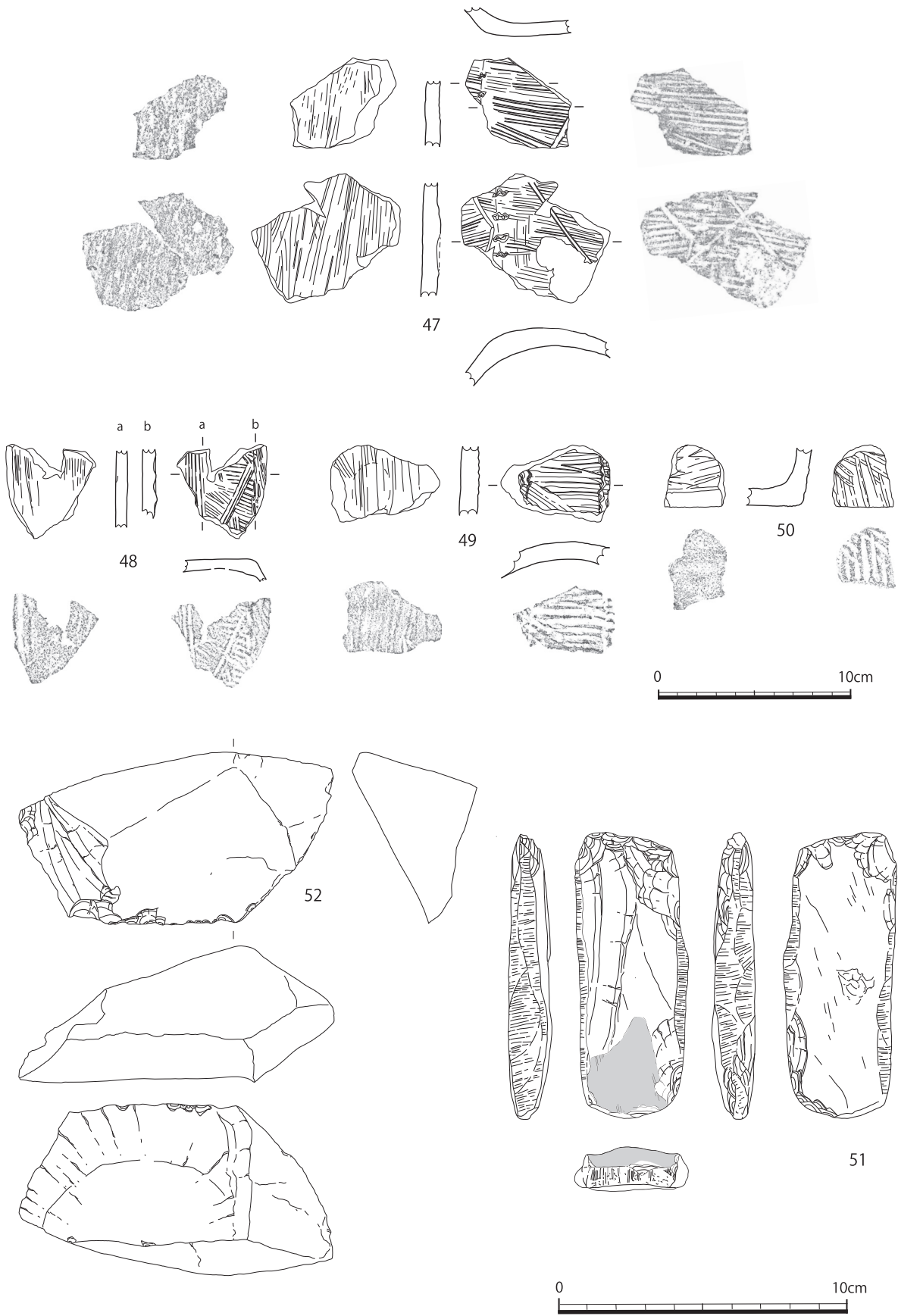
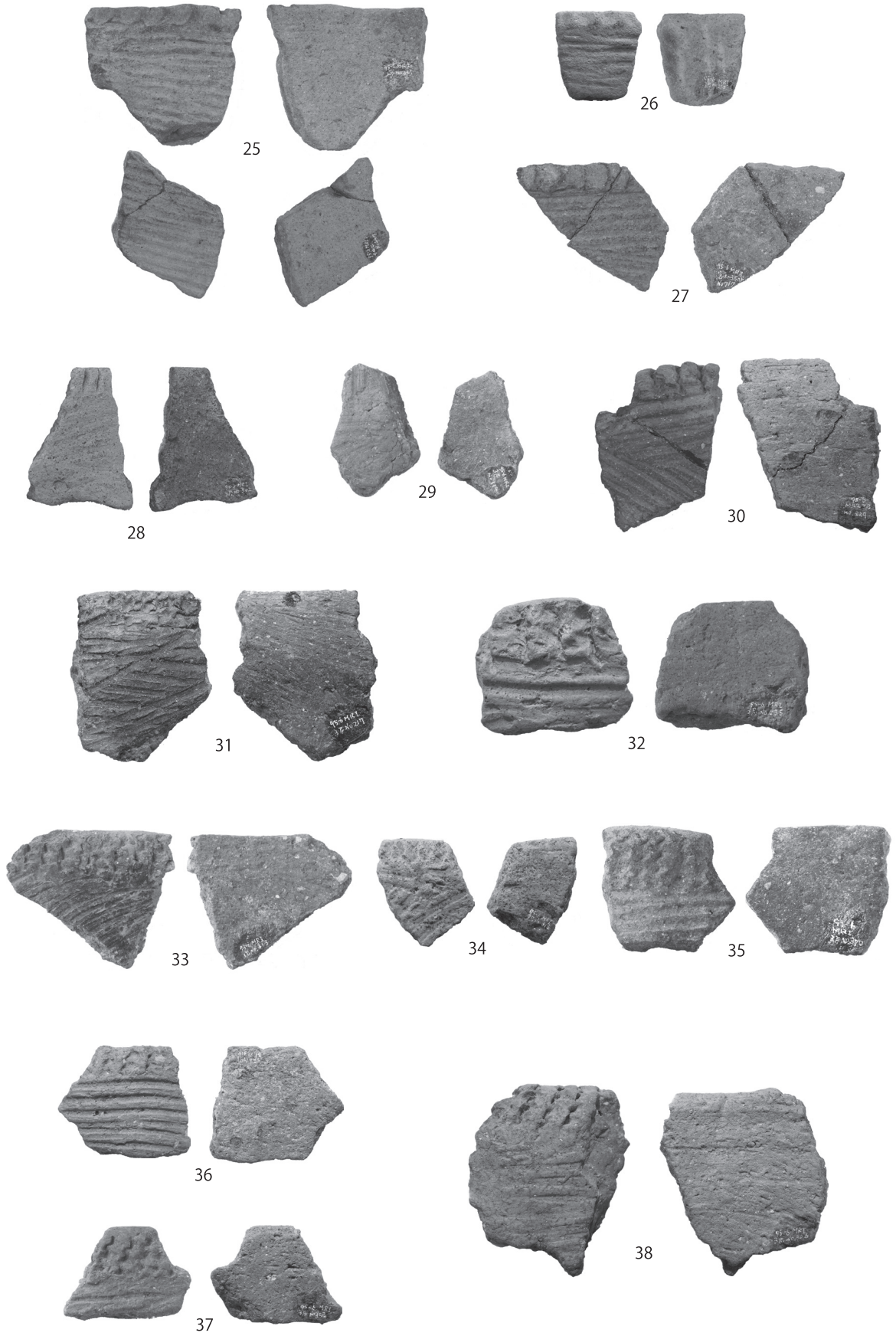
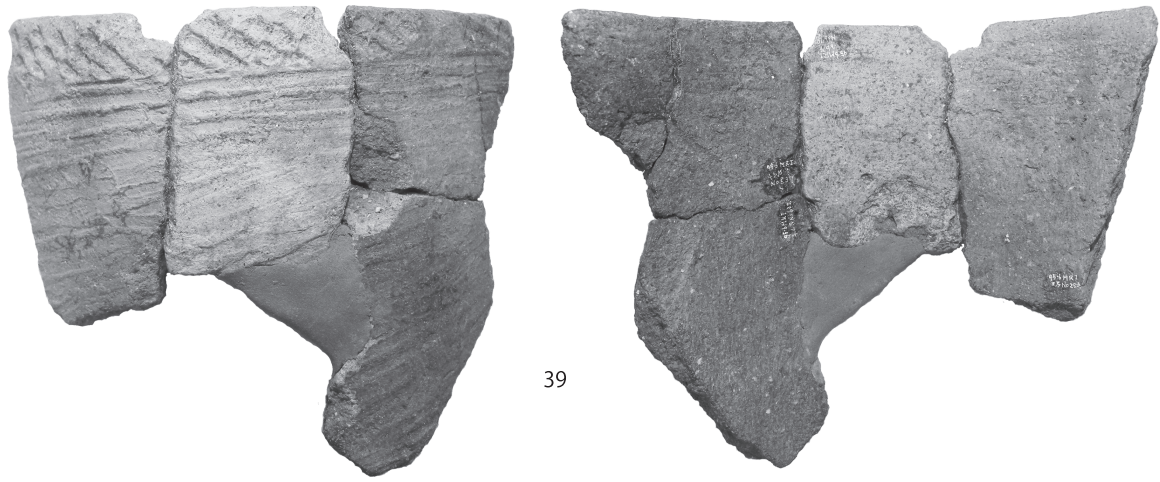


Fig.18 3層出土遺物 (5)



PL. 8 3層出土遺物 (1)

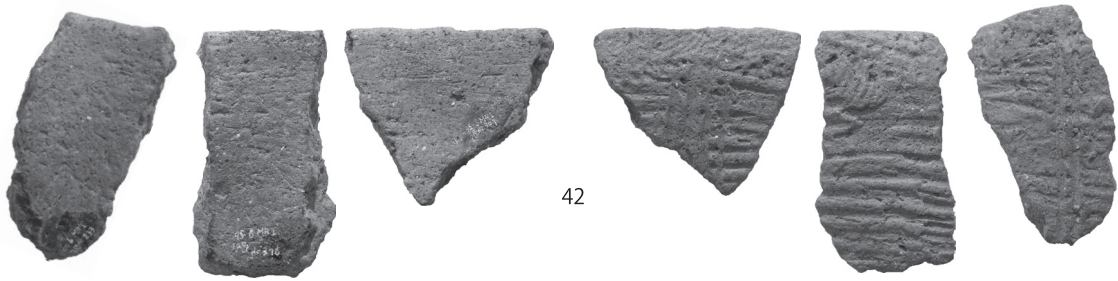


39



40

41



42



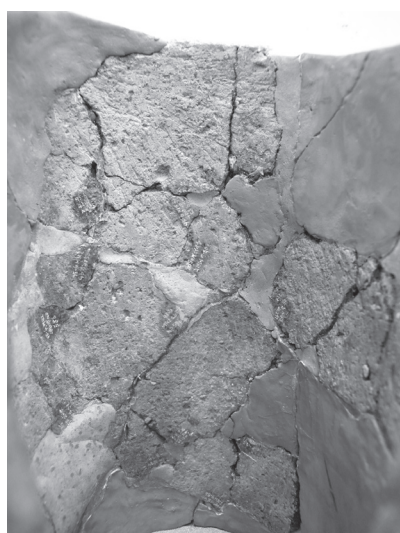
43

44

PL. 9 3層出土遺物 (2)



45 外面波頂部



45 内面



45



46



PL.10 3層出土遺物 (3)



47

48



49

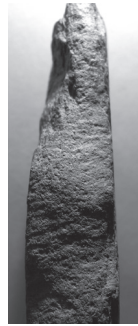
50



51 左側面上半部
敲打痕



51



51 右側面上半部
敲打痕



52



PL.11 3層出土遺物(4)

- ・胴部 c 類：横位・斜位の貝殻条痕文の上に、菱形や縦波線の沈線文、連続二点刺突文などの二重施文が施される。いわゆる志風頭タイプである。
- ・胴部 d 類：横位・斜位の貝殻条痕文の上に、縦位の貝殻刺突文などの二重施文が施される。いわゆる加栗山式である。

底部は、円形平底からほぼ直線的に立ち上がる形状は全てに共通する。主に調整・施文により 5 分類される。

- ・底部ア類：外面貝殻条痕文が施され、外面底部は主に横方向の貝殻条痕文
- ・底部イ類：外面貝殻条痕文が施され、外面底部は縦方向の貝殻条痕文
- ・底部ウ類：外面貝殻条痕文が施され、外面底部は縦方向の貝殻刺突文
- ・底部エ類：外面貝殻条痕文が施され、外面底部に貝螺肋（巻貝か）のスタンプ
- ・底部オ類：外面貝殻条痕文が施され、外面底部は丁寧なナデ、部分的にミガキ調整有り

25～27 は口縁下部にヘラ状工具による一列の刺突文が施される口縁部 1 類土器である。貝殻刺突文が施される前平式土器より、胎土がきめ細かい傾向があり、内面のナデ調整が丁寧で口縁頂部が平坦になっているのが特徴である。28・29 は、口縁下部に工具によるやや幅の狭い刺突文が施される口縁部 2 類土器である。29 は波状口縁の可能性はある。

30～45 は口縁部に貝殻文が施される口縁部 3 類に該当するが、貝殻施文の様相はいくつかパターンがみられる。30～35 は口縁部に貝殻刺突文がほぼ縦方向に施される。30～32 は口縁部に貝殻刺突文が深く刻まれ、外面調整は横位・斜位の貝殻状痕文で胴部 a もしくは b 類である。36～38 は口縁下部に斜位の貝殻刺突文が施される。38 は口縁部が波状になる。39～42 は、貝殻腹縁の刺突文ではなく、貝（巻貝か）の肋部分を押しつけて口縁部に文様を施している。39 は同一個体と思われる胴部片が他にも数点 4 層を中心に出土しており、胴部 a 類に該当する。42 は 3 点同一個体と思われ、波状口縁と考えられる。口縁の文様は摩滅していて不明瞭であるが、巻貝を転がして X 状に文様が二重に重なったように施されている。胴部は横方向の貝殻条痕文と、その上から縦方向の貝殻沈線文が施される胴部 c 類である。43・44 は口縁部に 2 段に貝殻刺突文が施されている。43 は外面にスガが付着し、一部剥落している。断面形状から円筒ではなく角をもつ形状の可能性が高く胴部 c 類である。45 は志風頭タイプの薄手のレモン型土器である。外面は大きく剥落しているが、口縁部はヘラ状工具による刺突文で口縁部 1 類、胴部は横位の貝殻条痕文に二重施文が施された c 類である。底部は不明であるが、口縁部から底部に向かって角部の角度が緩くなっており、底部は円形に近い形状と思われる。また、内面口縁部付近は横方向にケズリ・ナデ調整されている。

46 は前平式の厚手の円筒形土器胴部であり胴部 a 類に分類される。内面に部分的にコゲの付着が認められる。47・48 は前平式の角筒土器である。どちらも角の部分に貝殻刺突文が並ぶ。48 の方が薄手で角が明瞭である。49 は横位・斜位の貝殻条痕文の上に縦方向の貝殻刺突文が施される。47・48 は胴部 b 類、49 は胴部 d 類に該当する。50 は前平式該当の底部である。外面は斜位の貝殻条痕、底部は縦方向の貝殻条痕文が施される。底部イ類に該当する。

51 は硬質な頁岩製の磨製石斧を転用し周縁を二次利用した敲打具である。石斧としての磨きは部分的に刃部周辺にみられる。敲打痕は左右側縁と刃部付近に認められる。該当時期は不明であるが、特に側縁部は直行する敲打痕が認められ、鹿大構内遺跡郡元団地釘田第一地点において古墳時代の土器とともに出土した使用痕をもつ敲打具に類似する特徴をもつ。52 は頁岩製の礫器である。鋭角の剥離面を利用し部分的に二次加工し、刃部として使用している。

4 4 層検出遺構・出土遺物 (Fig.19～30, PL.12～17)

4-1. 4a 検出遺構 (Fig.19～21, PL.12・13)

4a 層上面では、横転が調査区南側に 3ヶ所（横転 4～6）、確認された。横転については、3 層掘り下げ途中にて確認されていた。4a 層上面で平面実測を行い、確認のため半裁掘削して土層観察を行い、土層横転と判断した。横転 4・6からは各 1 点ずつ、貝殻文系土器の胴部片が出土している。

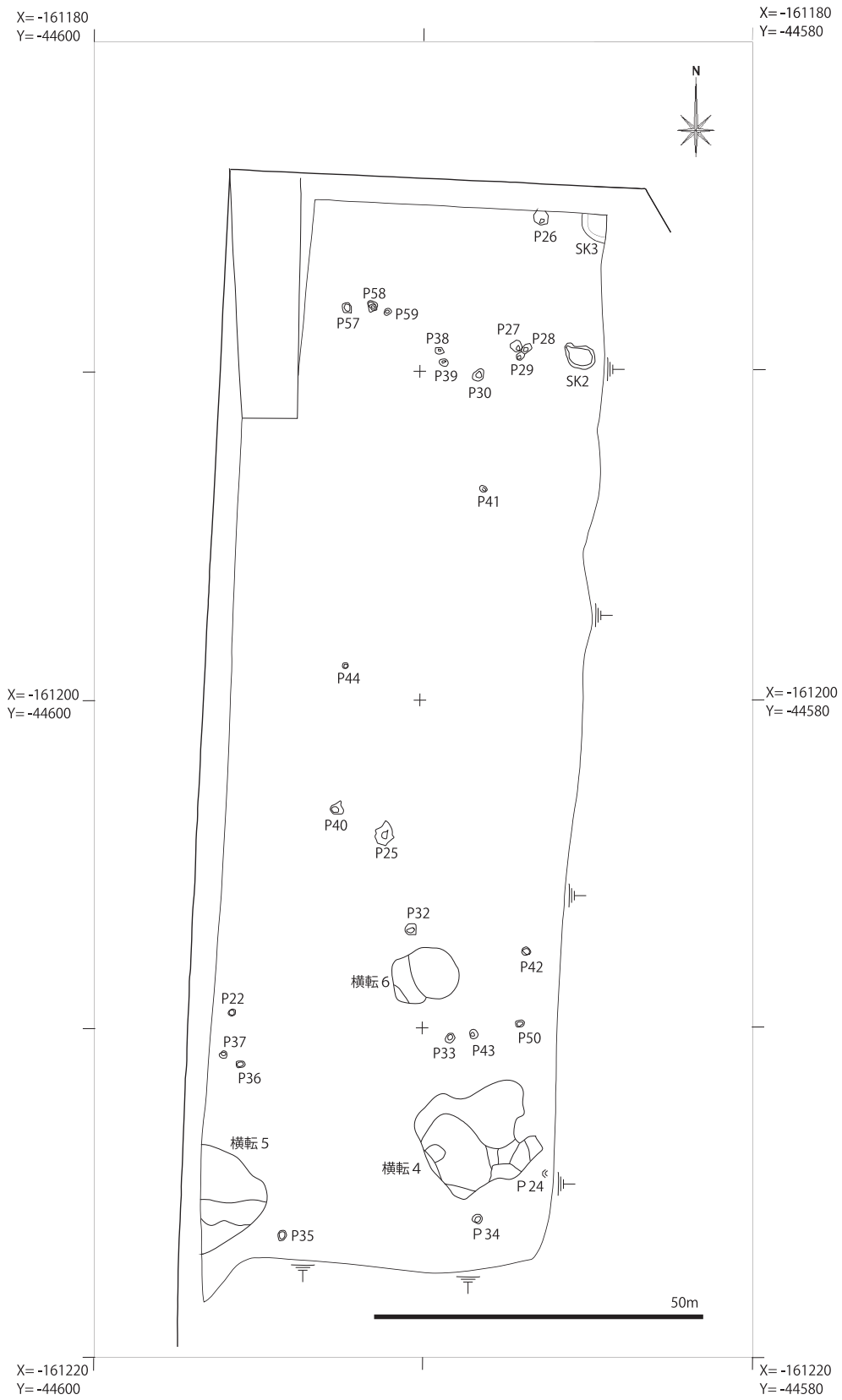
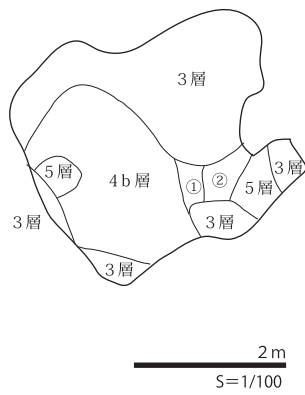


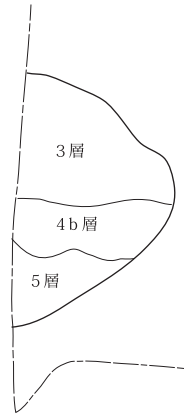
Fig.19 4a層検出遺構分布図

横転 4 検出

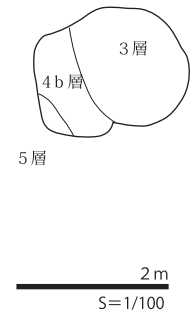


横転 4 土層
 ① 褐色シルト層粘性ややあり、
 0.5cm 大程までの白色パミス
 2 cm 大までの黄色パミス含む
 3 層類似
 ② 3 層・4a 層・4b 層の混土

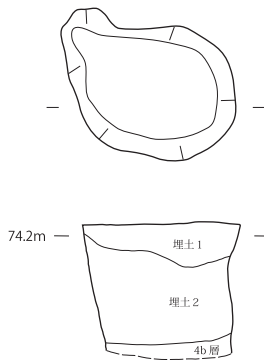
横転 5 検出



横転 6 検出

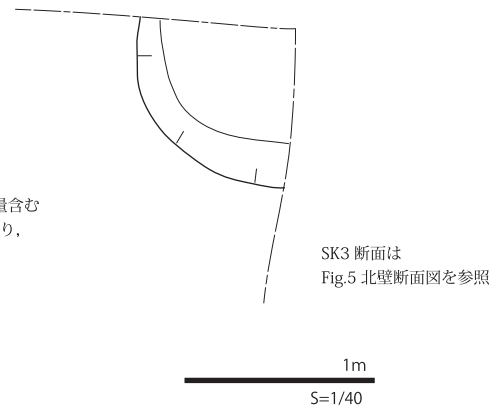


SK 2

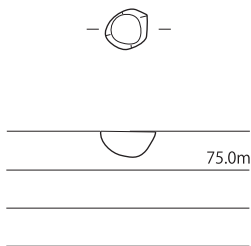


埋土 1 7.5YR4/3 褐色シルト層粘性ややあり
 3 層類似, 1cm 大程度までの黄色パミス少量含む
 埋土 2 7.5YR3/4 暗褐色類似シルト層, 粘性ややあり,
 2~3cm 大の黄色パミス含む

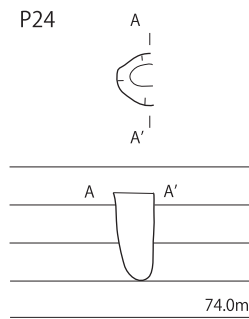
SK 3



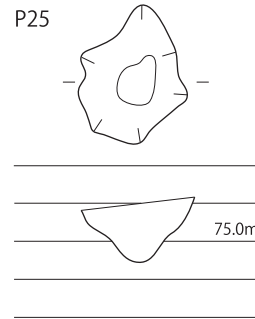
P22



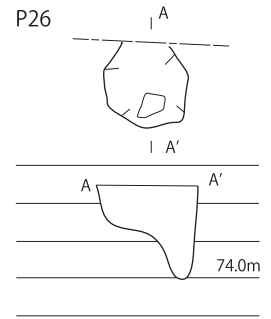
P24



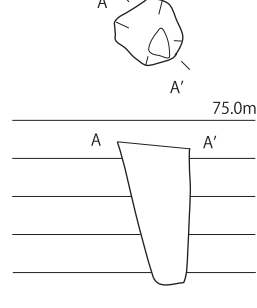
P25



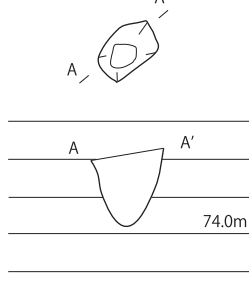
P26



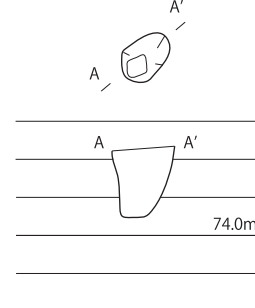
P27



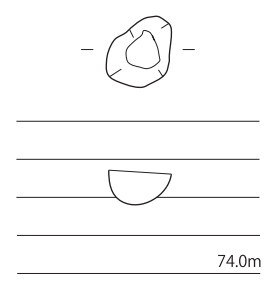
P28



P29



P30



1m
 S=1/40

Fig.20 4a 層検出遺構 (1)

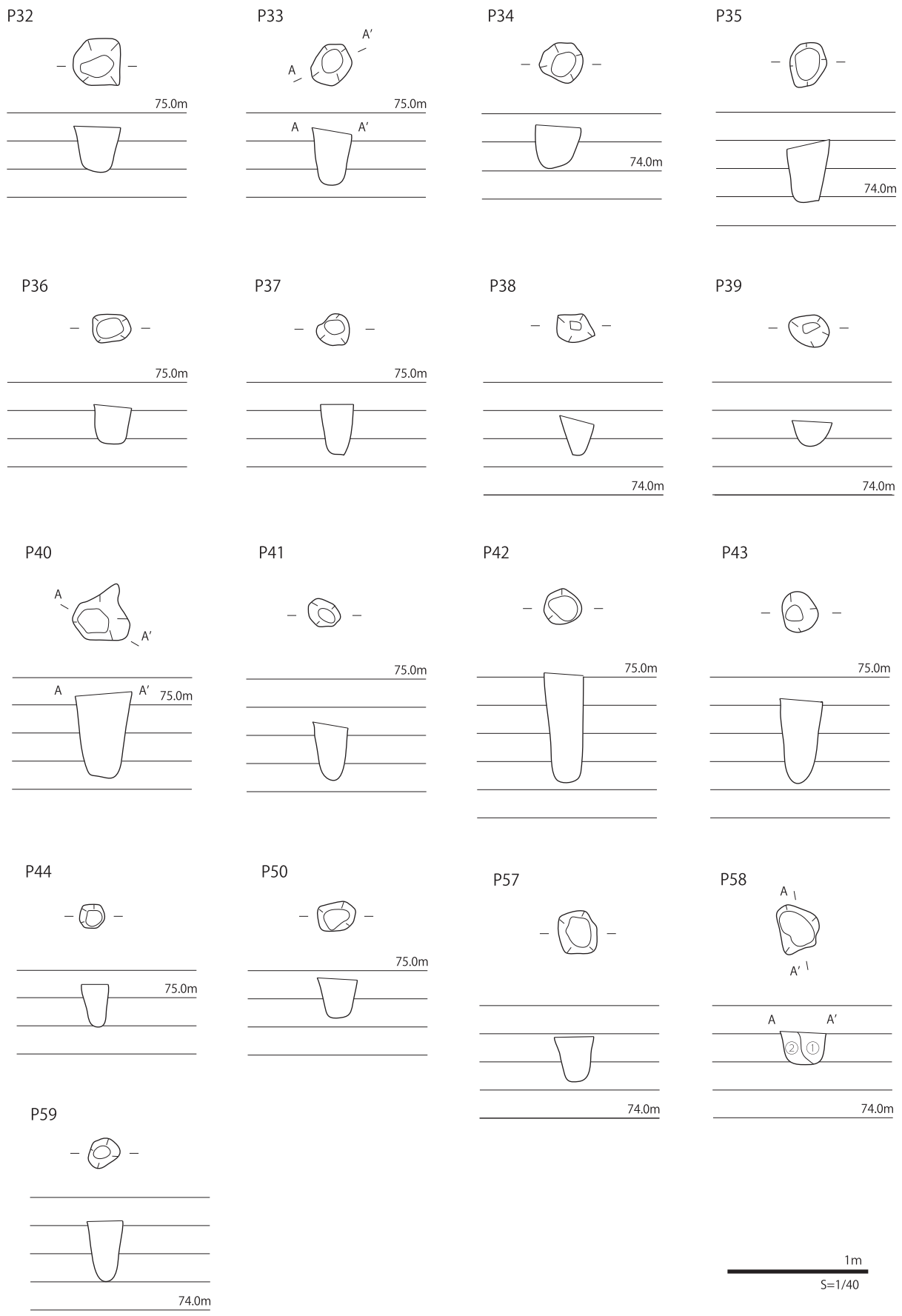


Fig.21 4a層検出遺構(2)



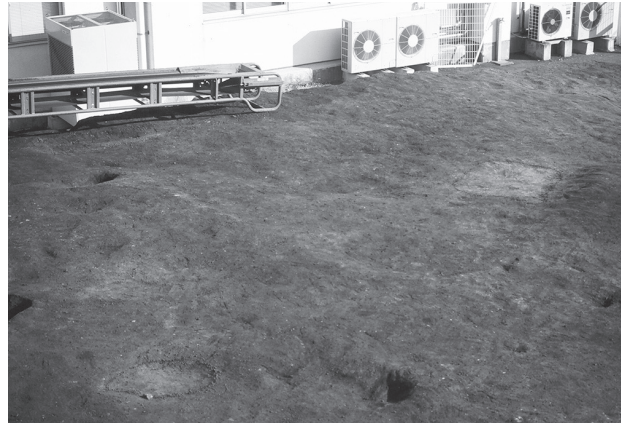
4a層上面検出



4a層出土土器



4a層出土遺物



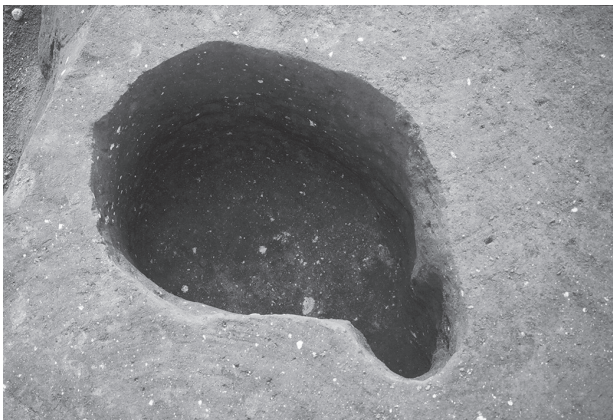
横転6, P25 検出状況



横転4検出



SK 2埋土



SK 2完掘状況



SK 3埋土

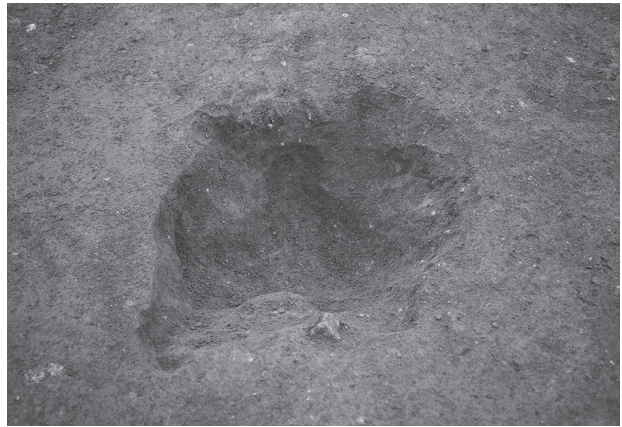
PL.12 4a層検出遺構(1)



P24 断面



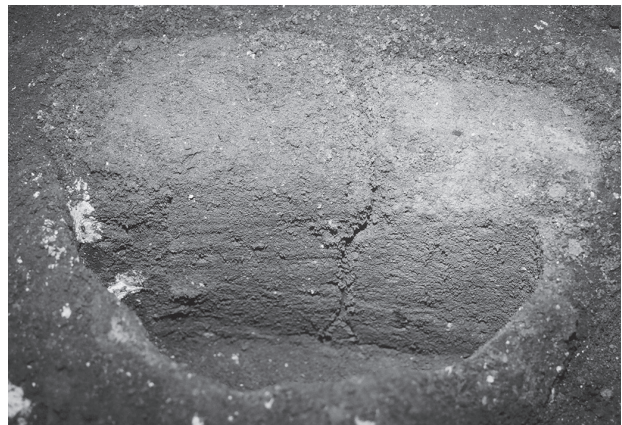
P25 断面



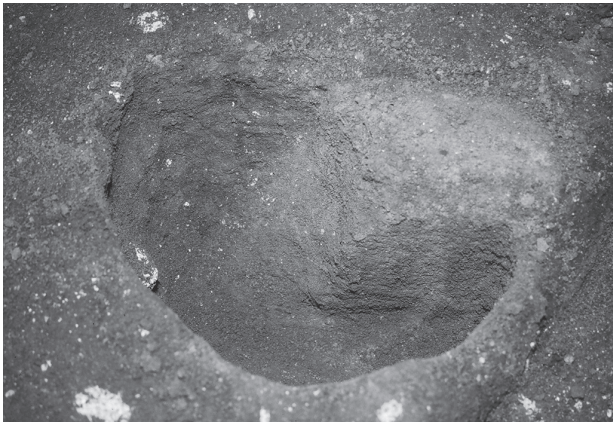
P25 完掘



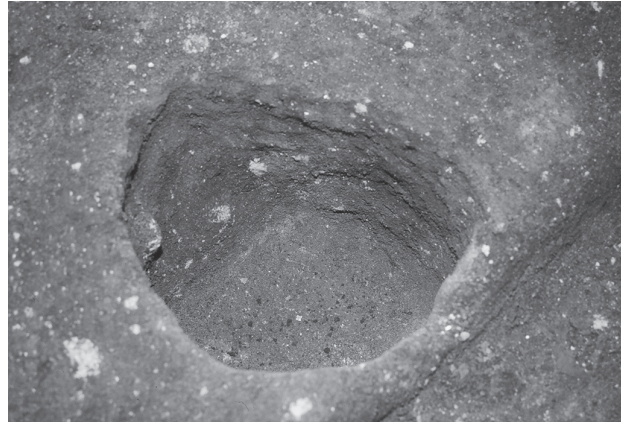
P27・28・29 完掘



P58 断面



P58 埋土 1 掘削



P58 完掘

PL.13 4a層検出遺構(2)



Fig.22 4a層出土遺物分布図(1)

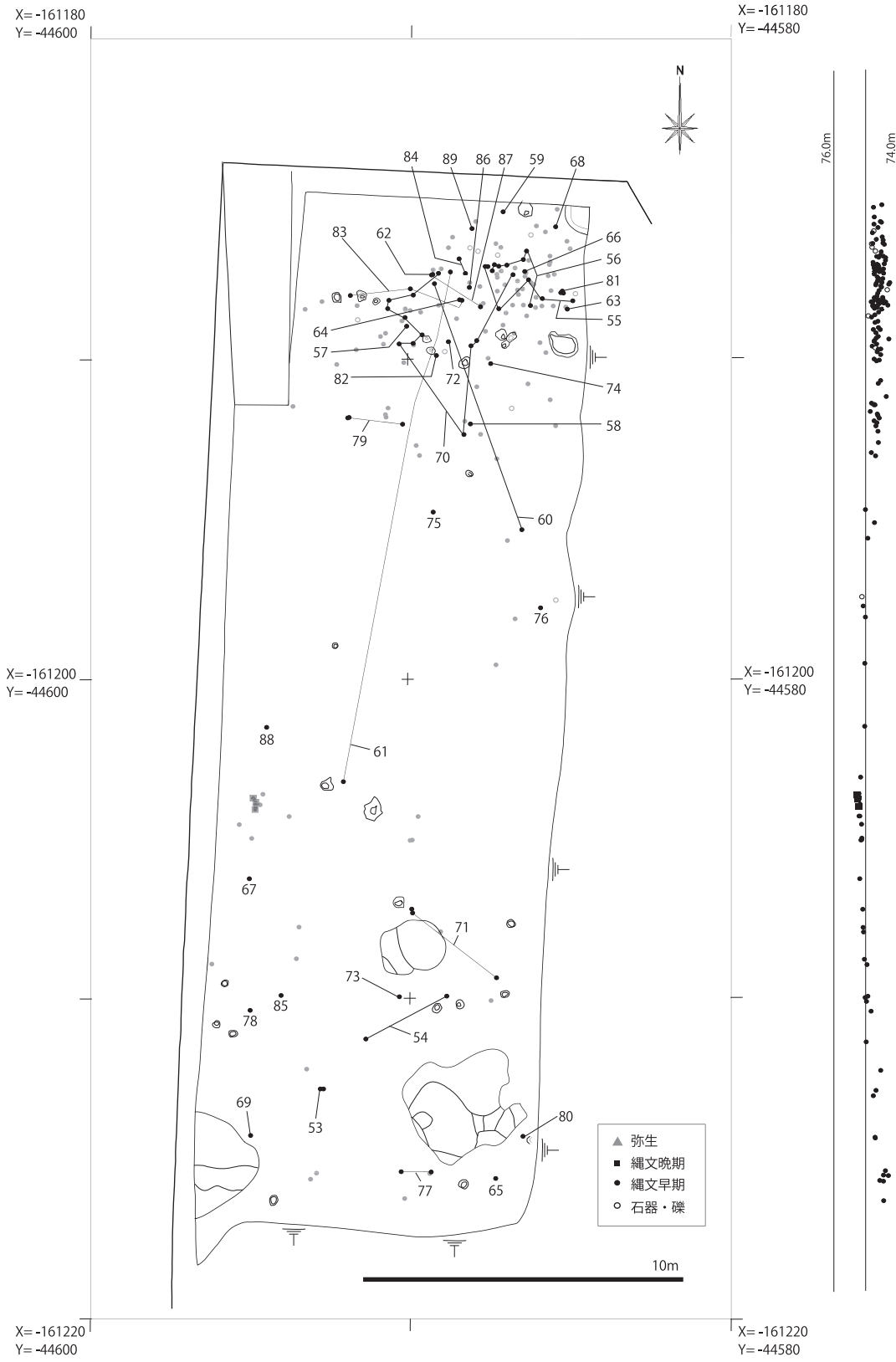


Fig.23 4a層出土遺物分布図(2)

遺構としては、土坑2基（SK 2・3）とピット25基（pit22・24～30・32～44）が検出された。SK2の埋土1とP26～30の埋土はほぼ同じで3層土に類似する。SK3については、調査区隅にて検出されたため全形は不明であるがほぼ円形と思われる。SK2・3から各1点ずつ出土している土器片は、貝殻文系土器胴部片であった。また、ピット群の形状については、浅いもので10～20cmほどの不定形のものもあるが、深いものは70cmほどで、断面もまっすぐに近い形状のものも認められた。P58は埋土が縦方向に異なり分層できる。ピット群は調査区南側と北側に主に分布するが、配列などの規則性は見いだせなかった。

4-2. 4a層出土遺物（Fig.22～30, PL.14～17）

4a層出土土器は、縄文時代早期貝殻文系土器の前平式土器が主体を占める。遺物出土は調査区の北側と南側にまとまってみられ、特に北側の密集度が高い。あまりまとまった出土状況ではないが、被熱礫も11点出土している。

53～69は縄文時代早期貝殻文系土器の口縁部（～胴部）である。53は口縁部1類土器であり、口唇部を平坦に仕上げ、口縁部にヘラ状工具でやや広めに刻みが入る。外面は大きくはじけているが、貝殻条痕文が認められる。54は口唇部に被るように斜めの貝殻条痕文が施され、口縁部は波状口縁になるとと思われる。55～69は口縁部3類に該当する貝殻刺突文・施文が施されるものである。55～60は、口縁部外面に縦・斜方向に貝殻腹縁による刺突文が一条施される前平式土器である。55は厚手の円筒土器で、口縁部に貝殻腹縁刺突文が一条施されているが、刺突後角度を変えて器面から引き抜いており押し引き文のように刺突幅が若干広がっている。56・65などもこれと類似する。55は外面は斜・横位の貝殻条痕文が施される。外面側から補修孔が施されている。縦長孔で擦り切りによる穿孔である。56は完形の前平式の円筒土器である。厚手で外面は横位の貝殻条痕文、内面は縦・斜め方向に掻き上げたケズリ・ナデ痕が認められる。58・59は断面形状より口縁部付近は波状で角筒と思われる。61～64は口縁部に縦方向と下位に横方向の貝殻腹縁刺突文が施される前平式土器である。外面は横位の貝殻条痕文、内面はケズリが明瞭に確認される。65～69は口縁部に2条の縦方向貝殻腹縁文が刺突される。本地点出土土器でこうした特徴をもつ口縁部土器は、67～69のように外面は、横・斜位の貝殻条痕文の上に縦・斜位の貝殻条痕文が二重に施文される傾向が高い。67の口縁部文様は貝殻文ではなく工具による刺突文であり、口唇部は角筒形である。68の内面はケズリが施されており、ミガキの光沢も生じている。断面形状から、少なくとも上方は角筒になっていたと思われる。

70～81は縄文時代早期貝殻文系土器の胴部である。70は厚手の円筒土器の胴部a類であり、外面上方にススが認められ、内面下方にもコゲが認められる。内面は下から上へのケズリ・ナデ調整とミガキ調整が認められる。71は外面に斜・横位の貝殻条痕文が施され、内面はナデ、ミガキによる光沢が認められる。72・73は同一個体の可能性がある。口縁部に近い胴部片と思われ、下位横方向の貝殻刺突文が確認できる。横位の貝殻条痕文の上に菱形の二重施文が施される。74～76も類似する胴部b類であり、外面は二重施文が施される。75は内面ナデとミガキが施される。76は胴部断面に角状のカーブが認められる。77は薄手の角筒と思われる胴部片である。口縁部付近と思われ、横方向の5mm程度の沈線が施された下に、縦方向の貝殻腹縁による刺突文が細かく施されている。横位の貝殻条痕文の上に二重施文が施されている。78～80も胴部に二重施文が施されるが、縦の波状文が特徴であり、いわゆる志風頭タイプといわれるものである。78は口縁部付近と思われる角筒である。80も角の部分と思われるが、内面はナデ・ミガキ痕が認められる。81は斜位の貝殻条痕文の上に貝殻刺突文を重ねており、内面にはナデ・ミガキが施される。加栗山式に該当する胴部片と思われる。

82～89は縄文時代早期貝殻文系土器の底部である。83・84は外面底部まで横・斜位の貝殻条痕文が及び、83の底部はヘラナデ・ミガキが確認できる。84は円形平底からほぼ直線的に立ち上がり、外面は斜位の貝殻条痕文、外面底部は縦方向の貝殻条痕文が施される。内面はナデ・ミガキが認められる。85も同様であるが、

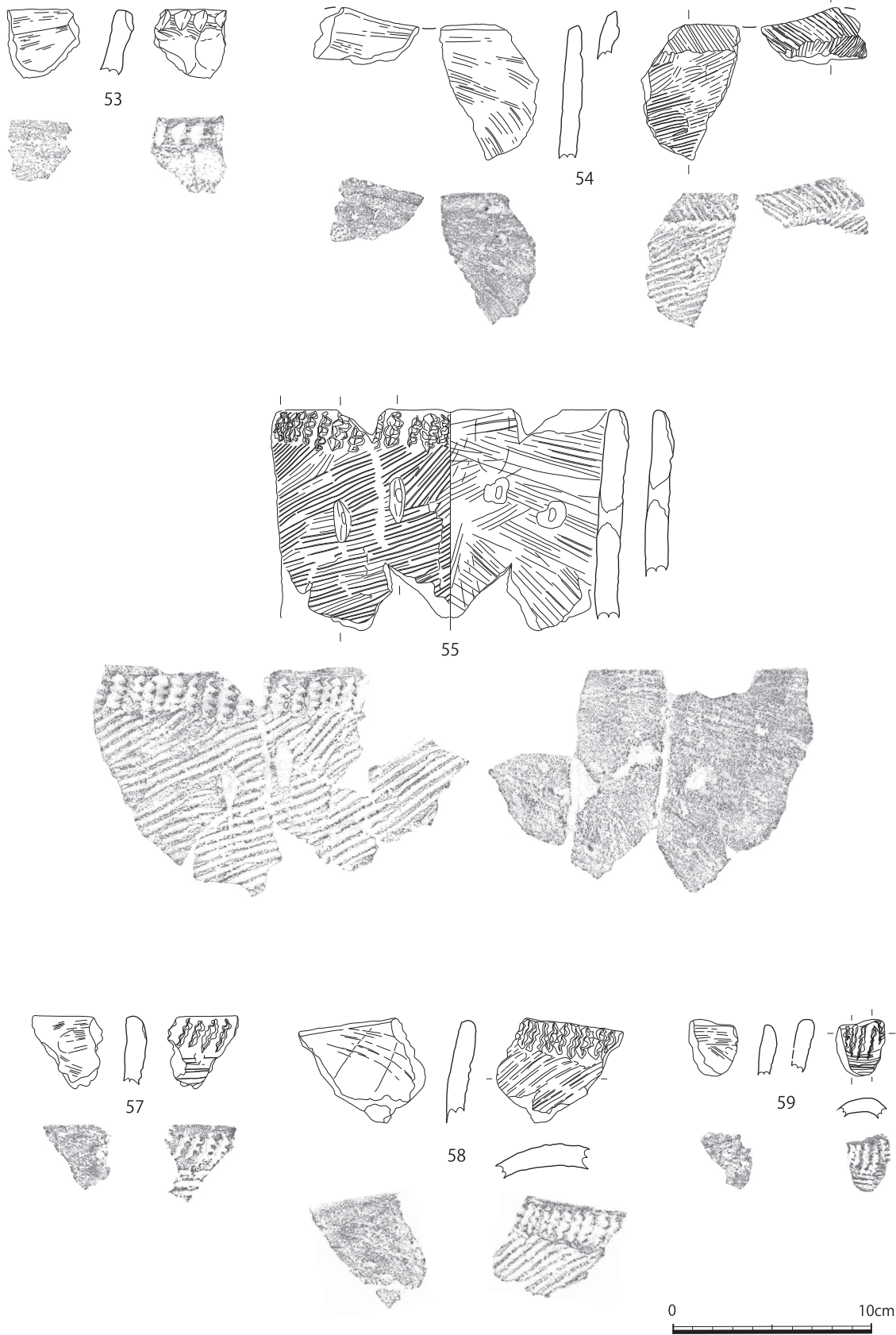


Fig.24 4a層出土遺物(1)

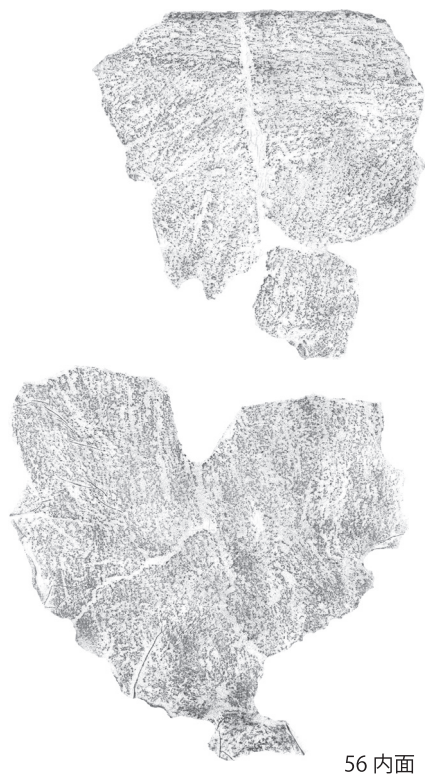


Fig.25 4a層出土遺物(2)



Fig.26 4a層出土遺物(3)



Fig.27 4a層出土遺物(4)

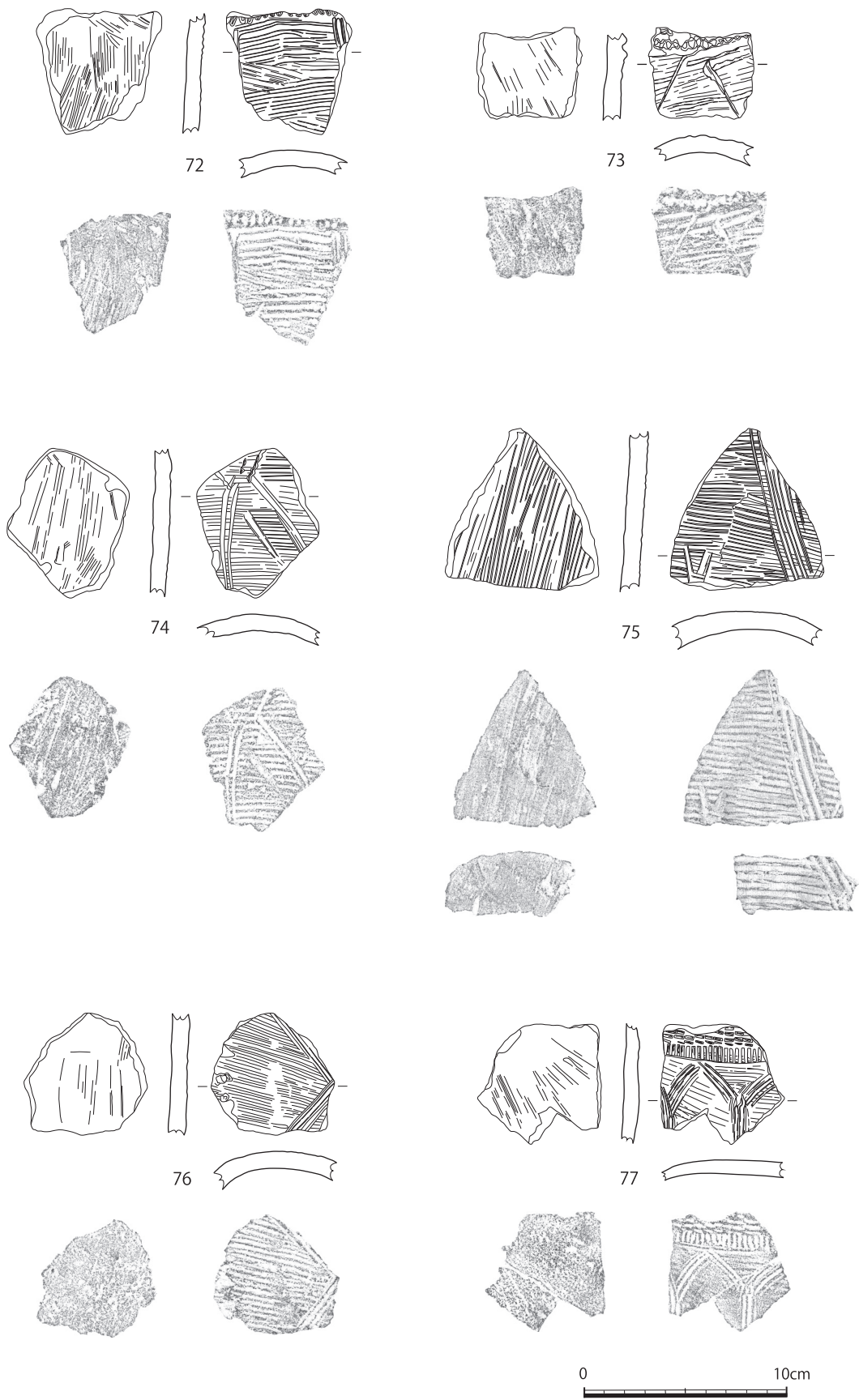


Fig.28 4a層出土遺物(5)

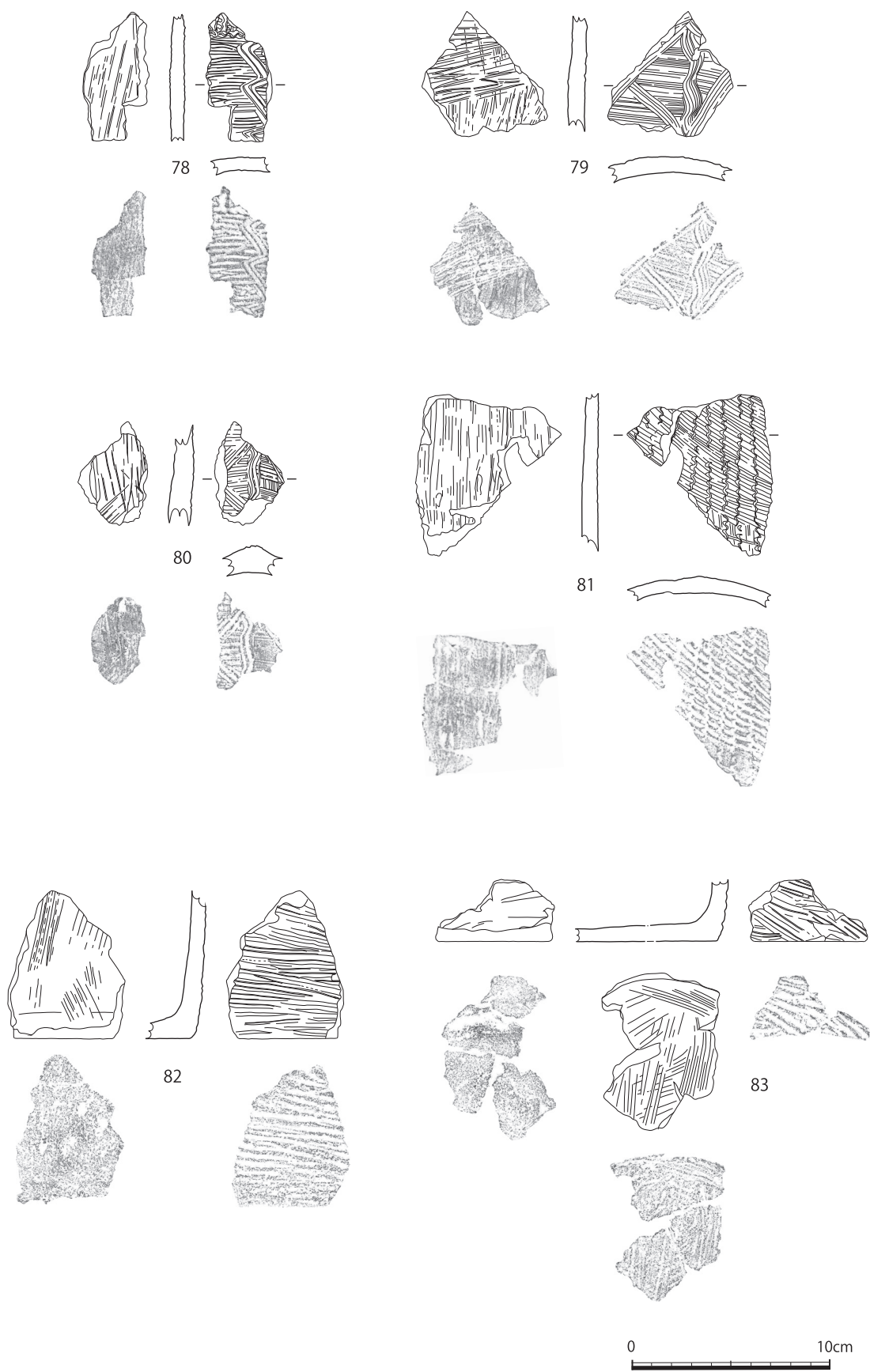
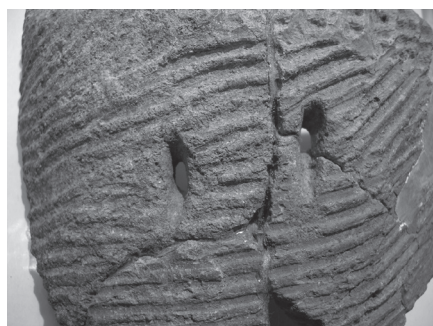
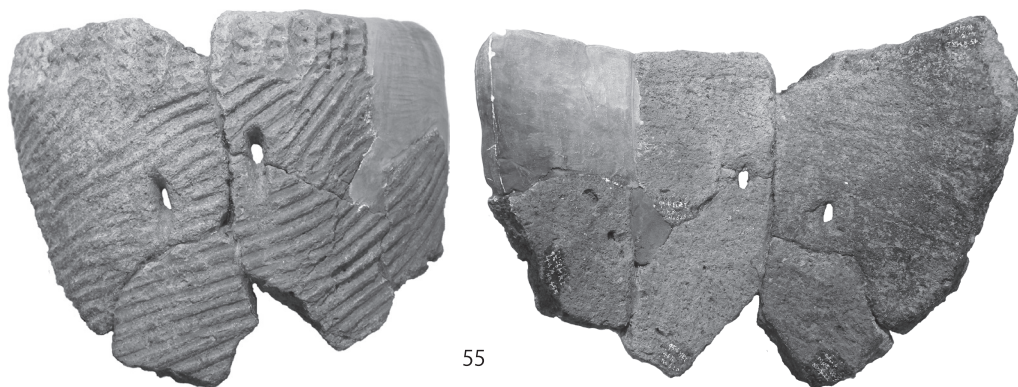
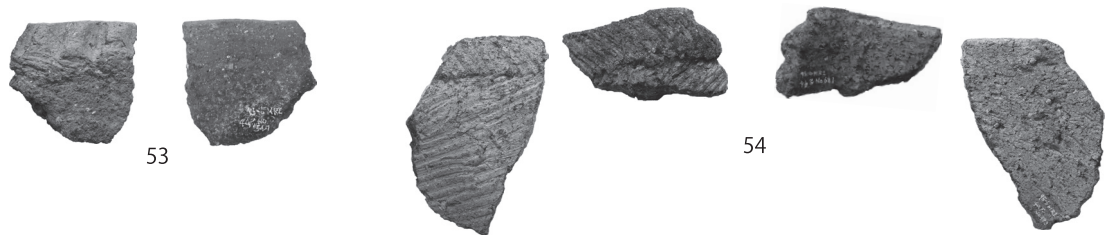


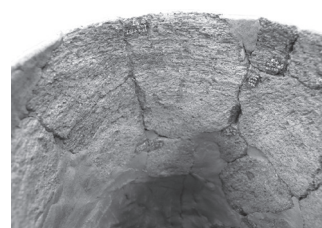
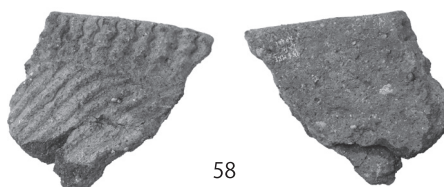
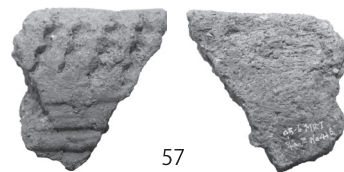
Fig.29 4a層出土遺物(6)



Fig.30 4a層出土遺物(7)



55 補修孔



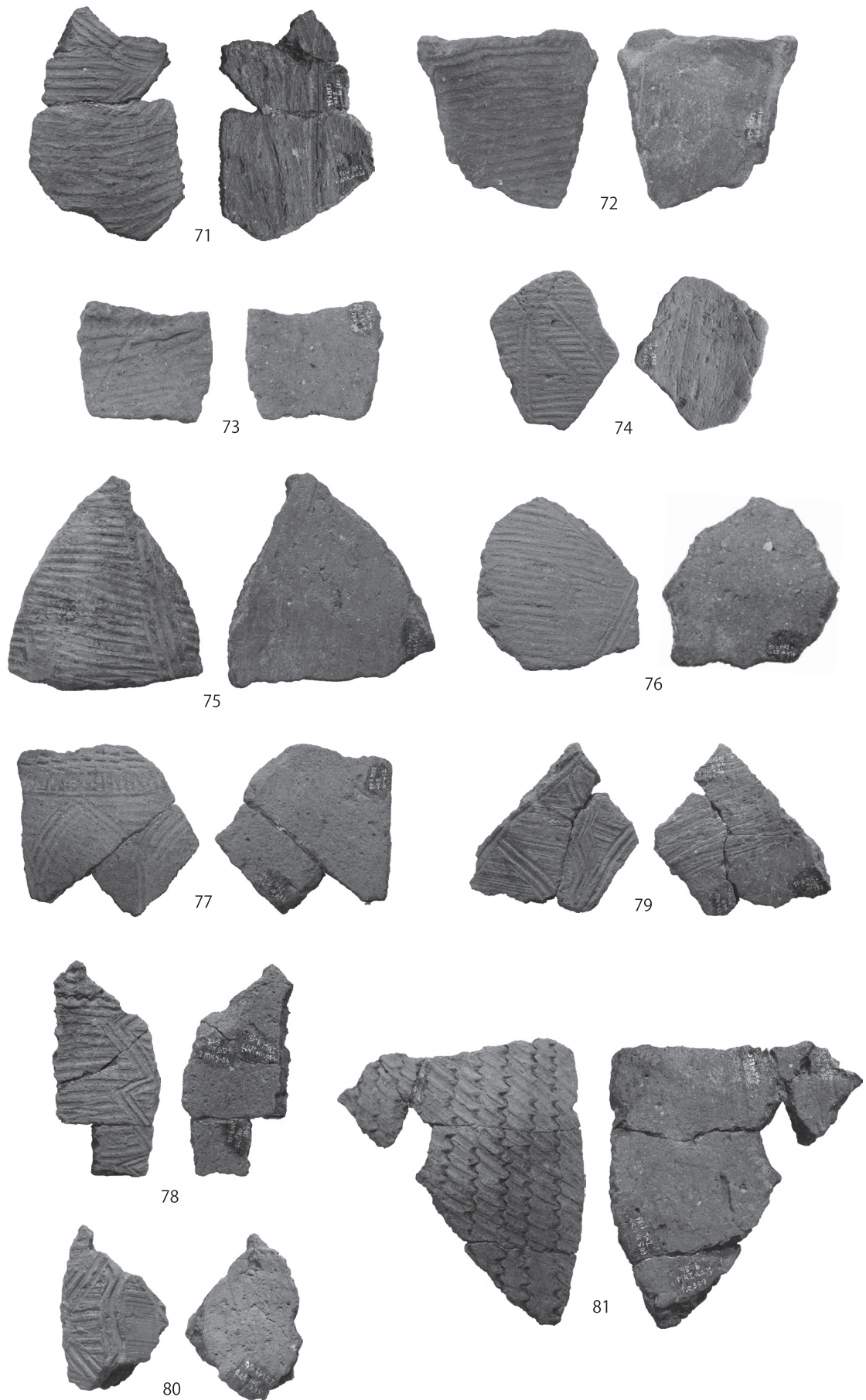
56 内面

56

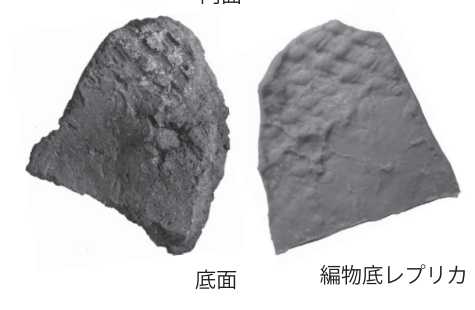
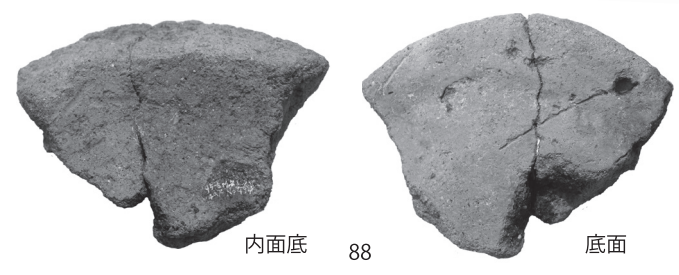
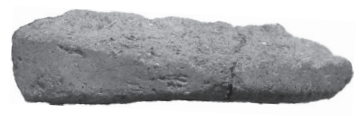
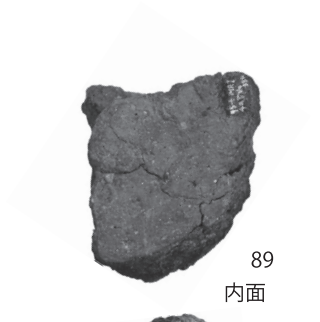
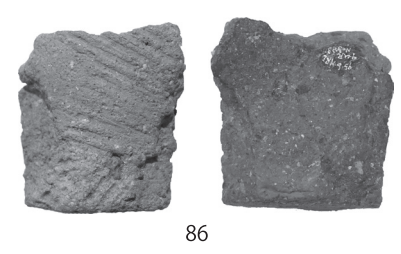
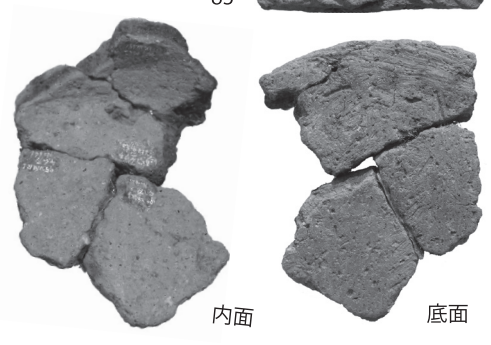
PL.14 4a層出土遺物(1)



PL.15 4a層出土遺物(2)



PL.16 4a層出土遺物(3)



PL.17 4a層出土遺物(4)

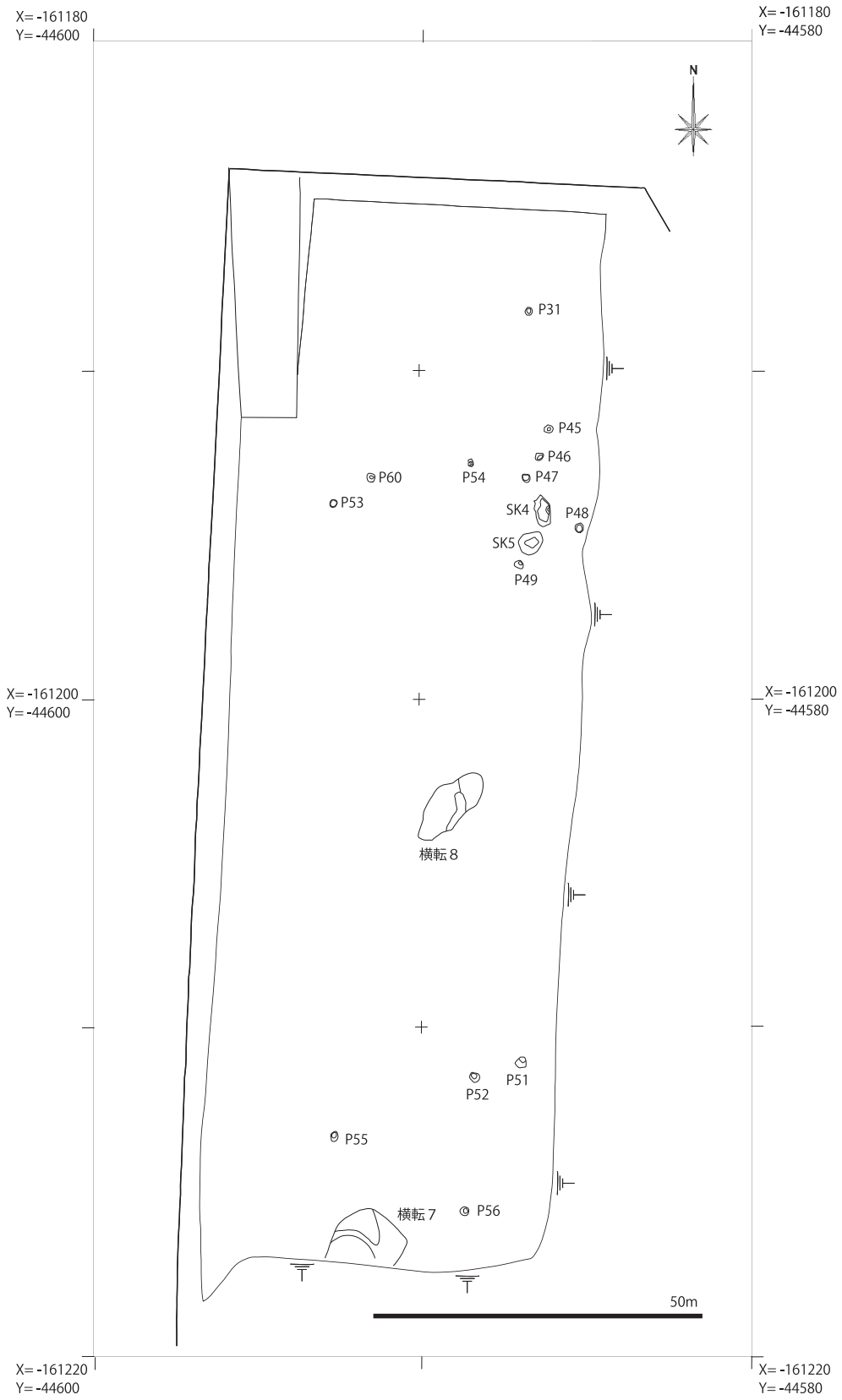
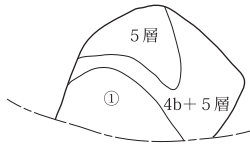
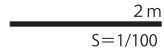


Fig.31 4b層検出遺構分布図

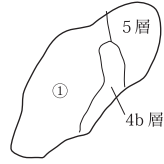
横転7検出



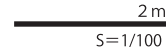
横転7土層
① 褐色シルト層粘性ややあり、
2.3mm 大の白色パミス
1cm 大の黄色パミス含む



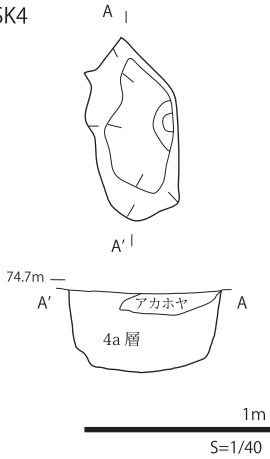
横転8検出



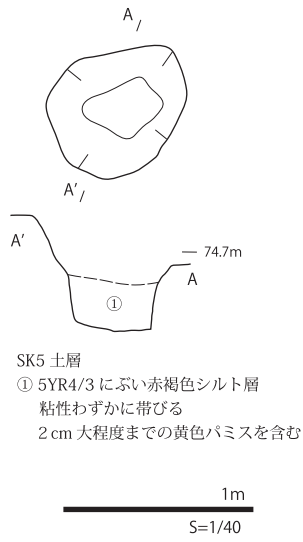
横転8土層
① 暗褐色シルト層粘性ややあり、
3 cm 大程までの黄色パミス含む
褐色シルト質土ブロックで含む



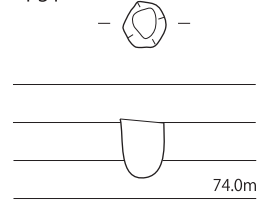
SK4



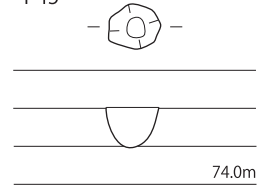
SK5



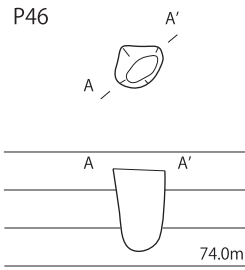
P31



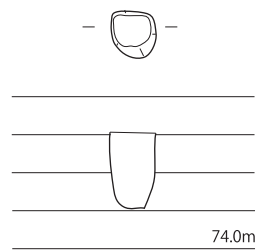
P45



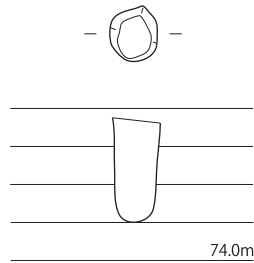
P46



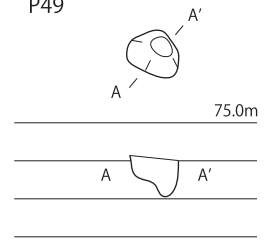
P47



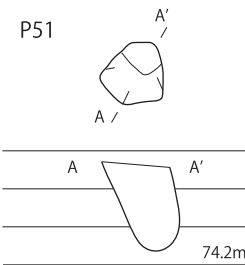
P48



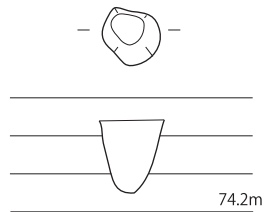
P49



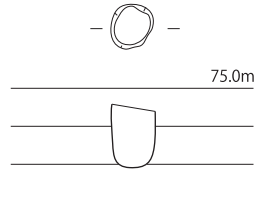
P51



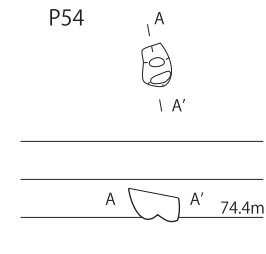
P52



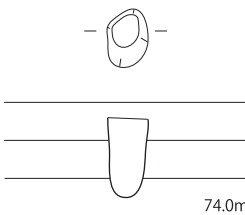
P53



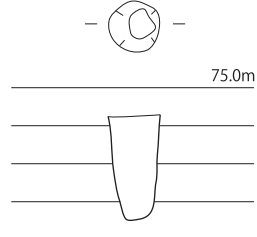
P54



P55



P56



P60

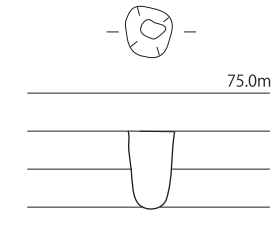


Fig.32 4b層検出遺構

外面底部は貝殻刺突文が施される。86の外面底部文様は、貝(巻貝か)を押しつけたような文様が認められる。87は内面はほぼ剥落している。外面はナデ、底面の中央部はミガキ痕が認められる。88は外面・底部にミガキ調整が認められる。89は底部に編物痕が認められる。

4-3. 4b層検出遺構 (Fig.31・32, PL.18・19)

4b層上面では、横転2ヶ所(横転7・8)が確認された。横転については、平面実測を行い、確認のため掘削して土層観察を行った。遺構としては、土坑2基(SK 4・5)とピット13基(pit31・45～49・51～56・60)が検出された。ピットは浅いもので10cmほど、深いものは60cmほどで断面もまっすぐに近い形状のものもある。ピット底部は平底・丸底である。配列に規則性は見いだせなかった。

4-4. 4b層出土遺物 (Fig.33～37, PL.20・21)

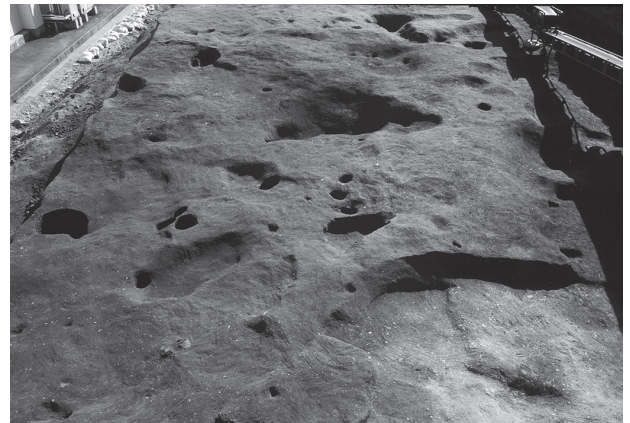
出土遺物は縄文時代早期貝殻文系土器が主体である。調査区北部にやや集中して出土する。

90は口縁部に工具による刺突が施された貝殻文系土器であり、摩耗しているが口縁部1類土器に分類される。91～93は、口唇部に貝殻刺突文が施され、胴部外面は貝殻条痕文、内面はケズリ、ナデが施されており、口縁部3類・胴部a類土器である。91・92は口縁部刺突文が押し引き状になっており、幅が若干広がっている。94～96も口縁部のみであるが、外面の特徴もほぼ類似していると思われる。97～99は口縁部に施される貝殻文は刺突文ではなく貝(巻貝か)の肋を押しつけるようにして施文されている。特に97は口縁部付近まで貝殻条痕文が施された後、巻貝を口縁部に押し当てて施文している。また、口唇上部には小凹点が斜状に並ぶように施文されている。内面はヘラナデのちミガキが施されている。100は口縁部に横方向の刺突文が施文され、胴部は横方向の貝殻条痕文がみられる。101～103は口縁部3類・胴部

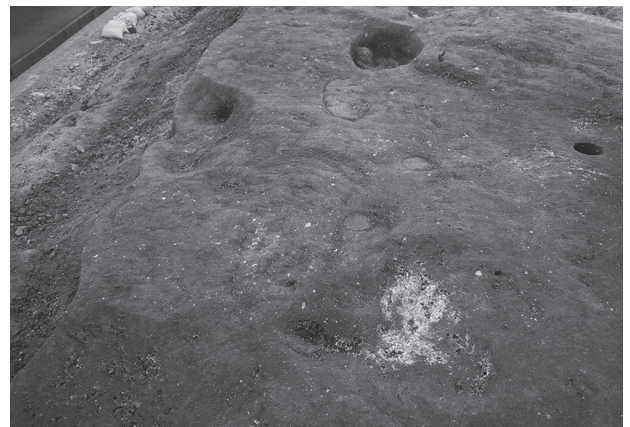


4b層上面検出

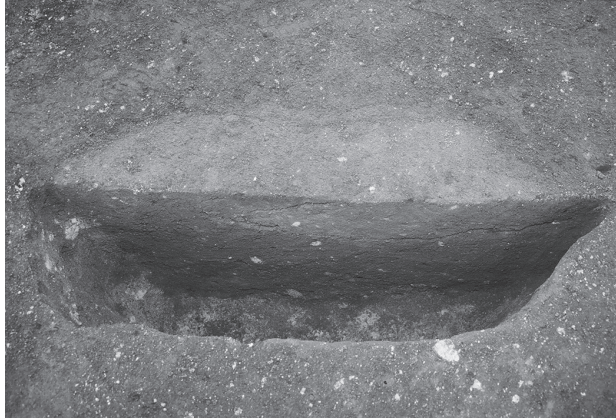
PL.18 4b層検出遺構(1)



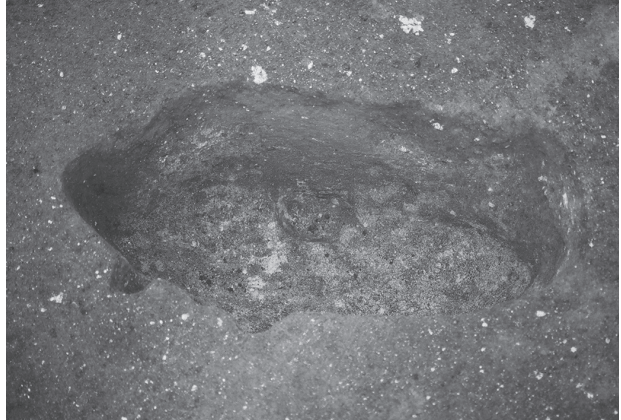
4b層上面検出



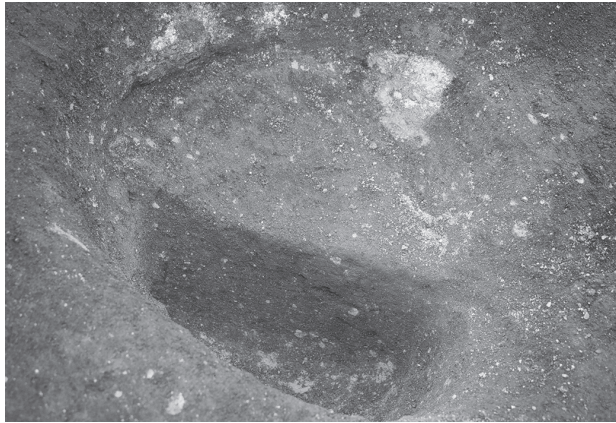
P45～79, SK 4・5検出



SK 4 断面



SK 4 完掘



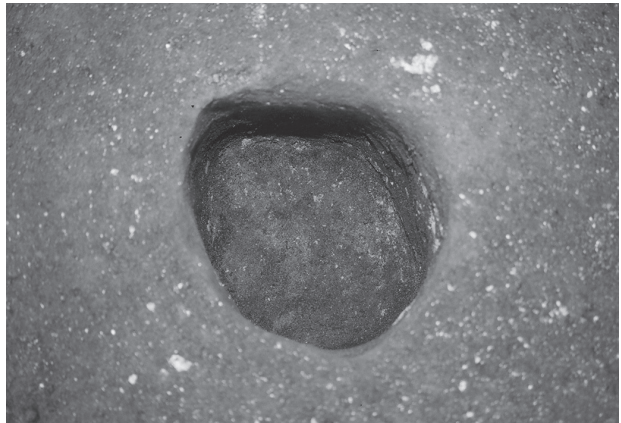
SK 6 断面



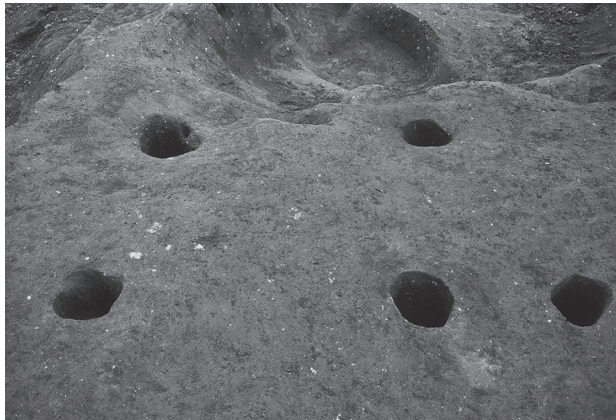
P50-52 検出



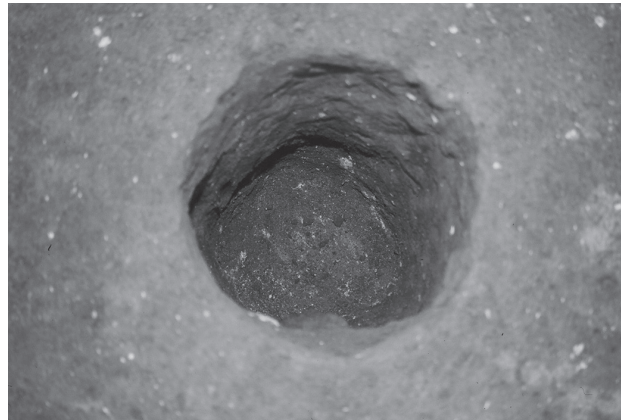
P45-47 完掘



P47 完掘



P50-52 完掘



P56 完掘

PL.19 4b 層検出遺構 (2)

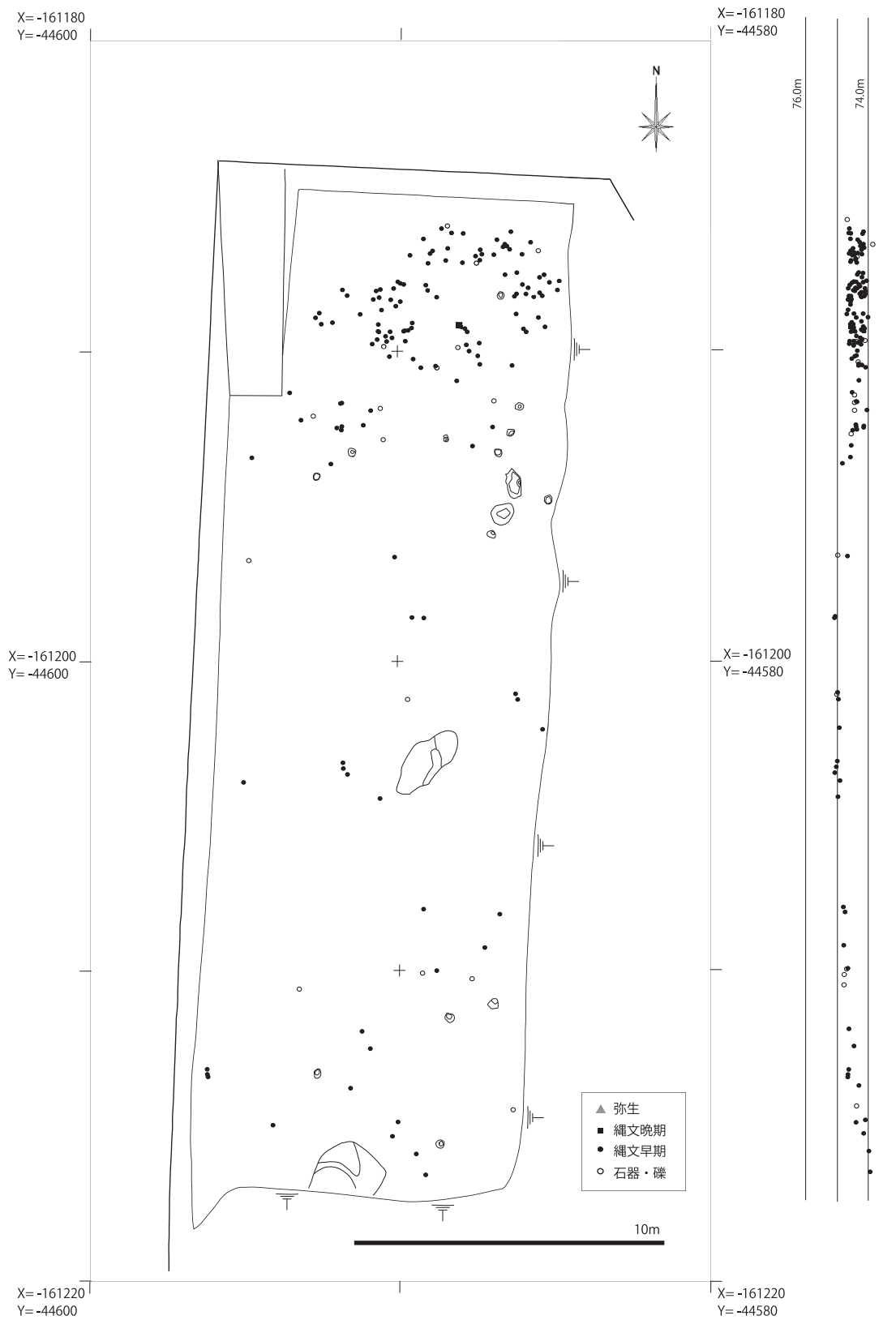


Fig.33 4b層出土遺物分布図(1)

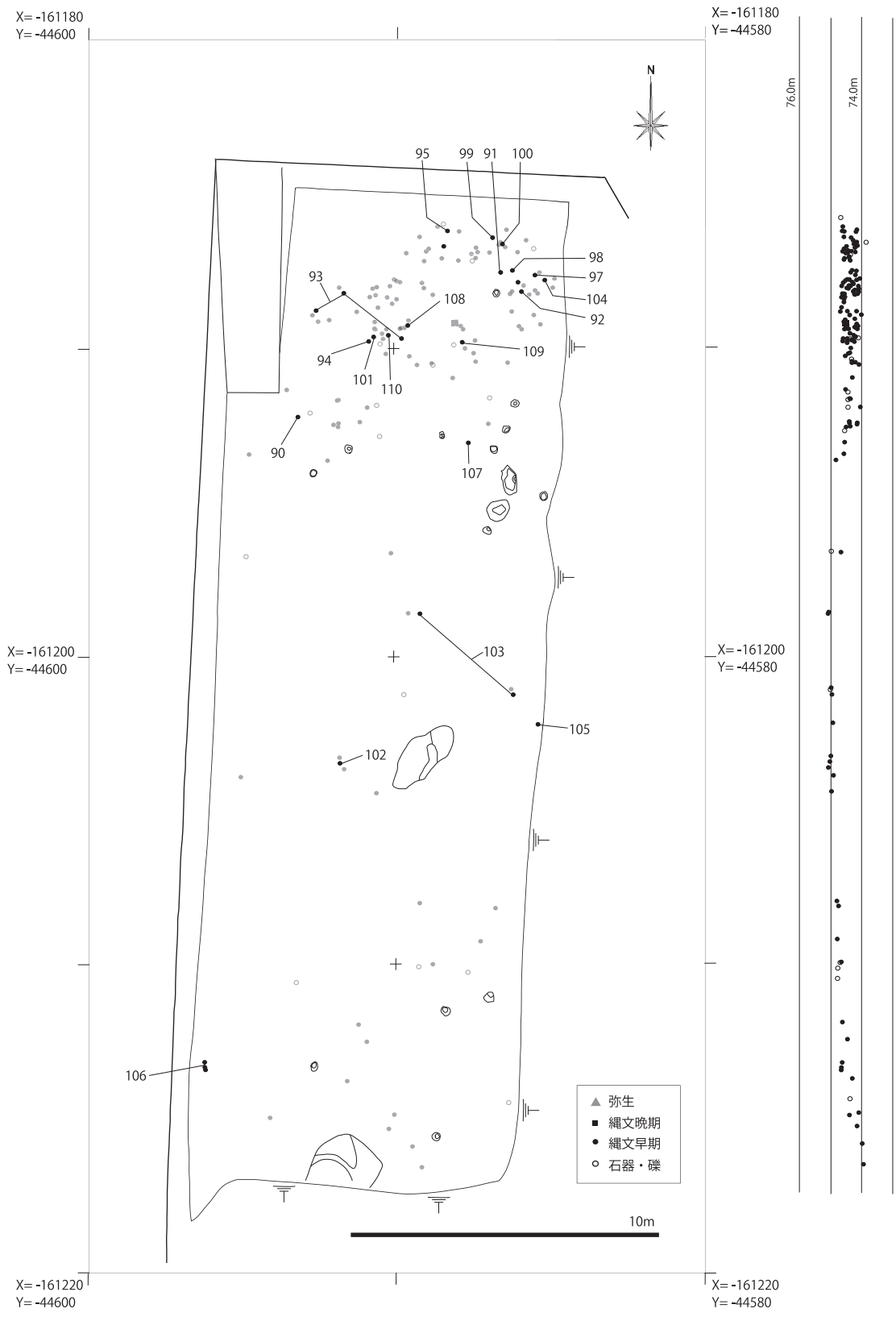


Fig.34 4b層出土遺物分布図(2)

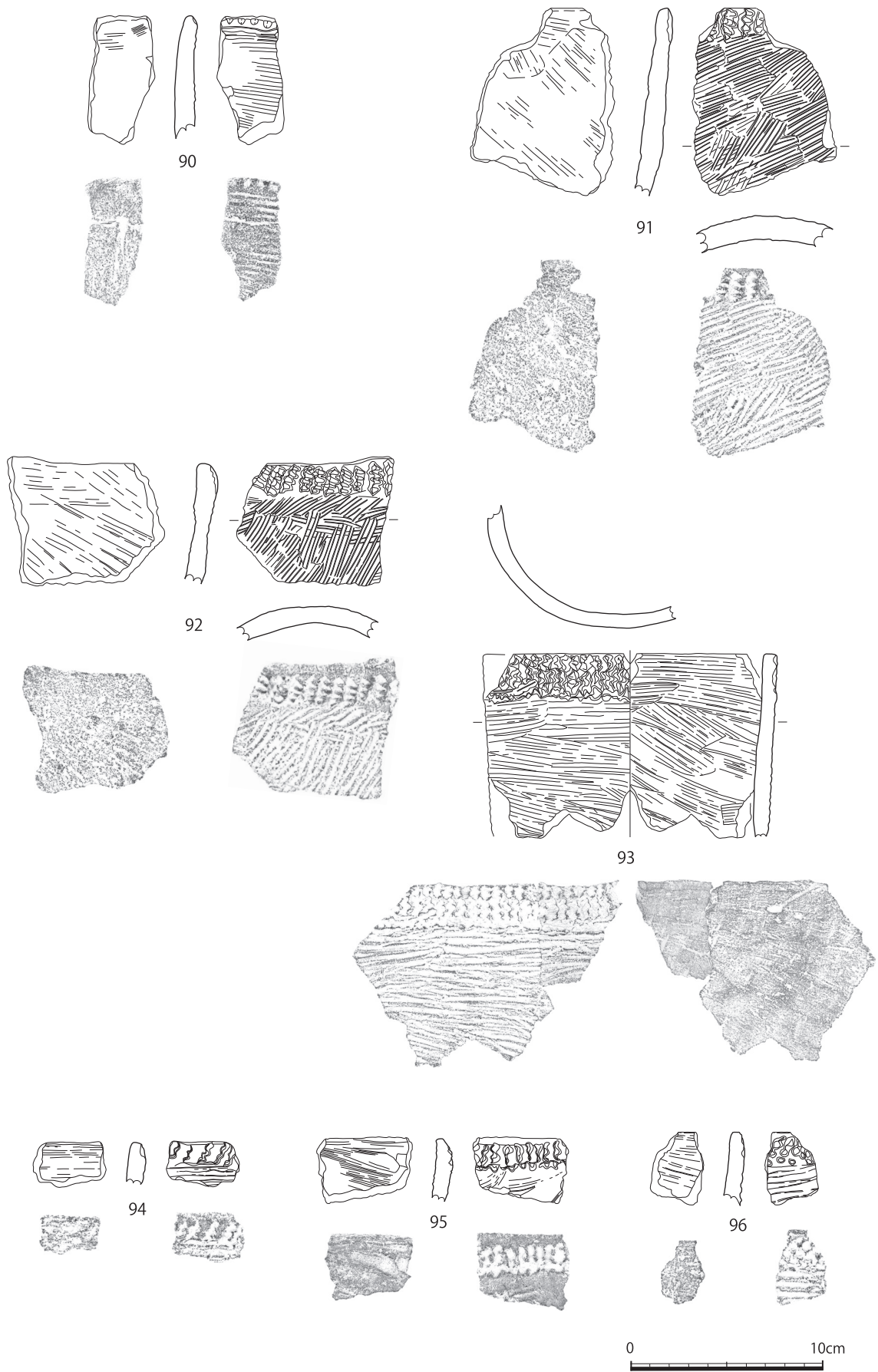


Fig.35 4b層出土遺物(1)



Fig.36 4b層出土遺物(2)

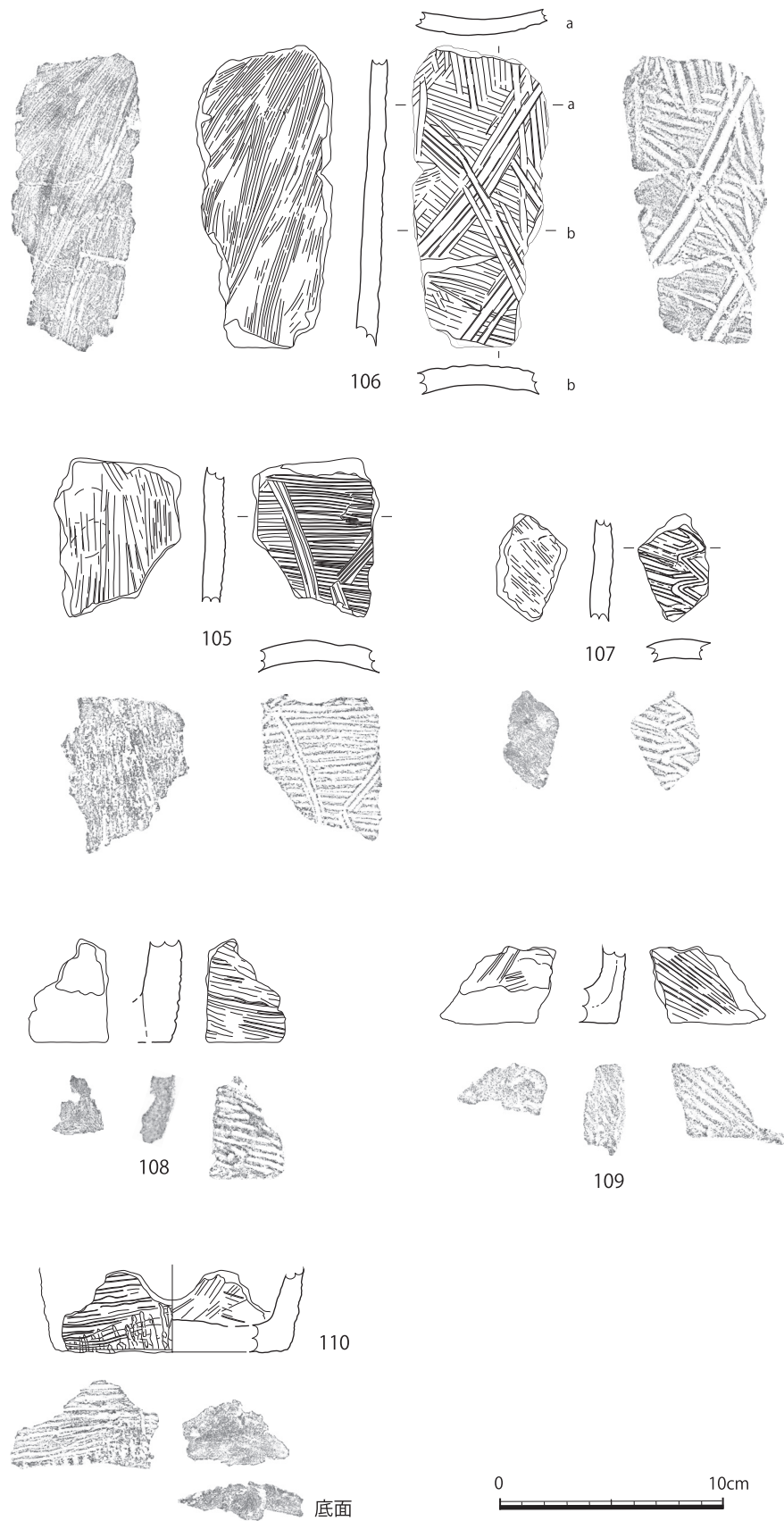
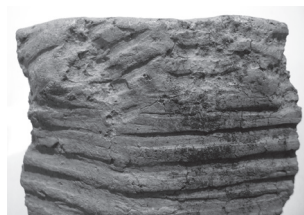
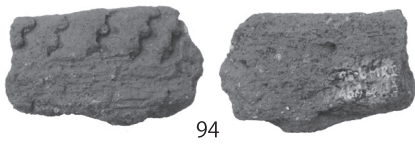
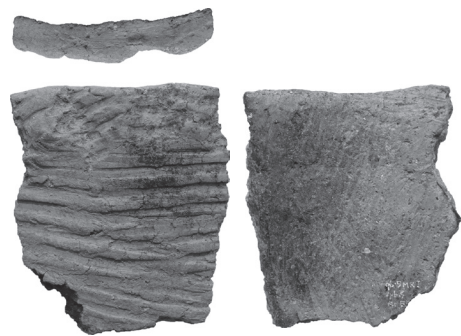


Fig.37 4b層出土遺物(3)



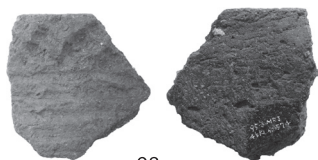
97 口縁部貝殻文



97



98 口縁部貝殻文



98



99

PL.20 4b層出土遺物(1)



PL.21 4b層出土遺物(2)

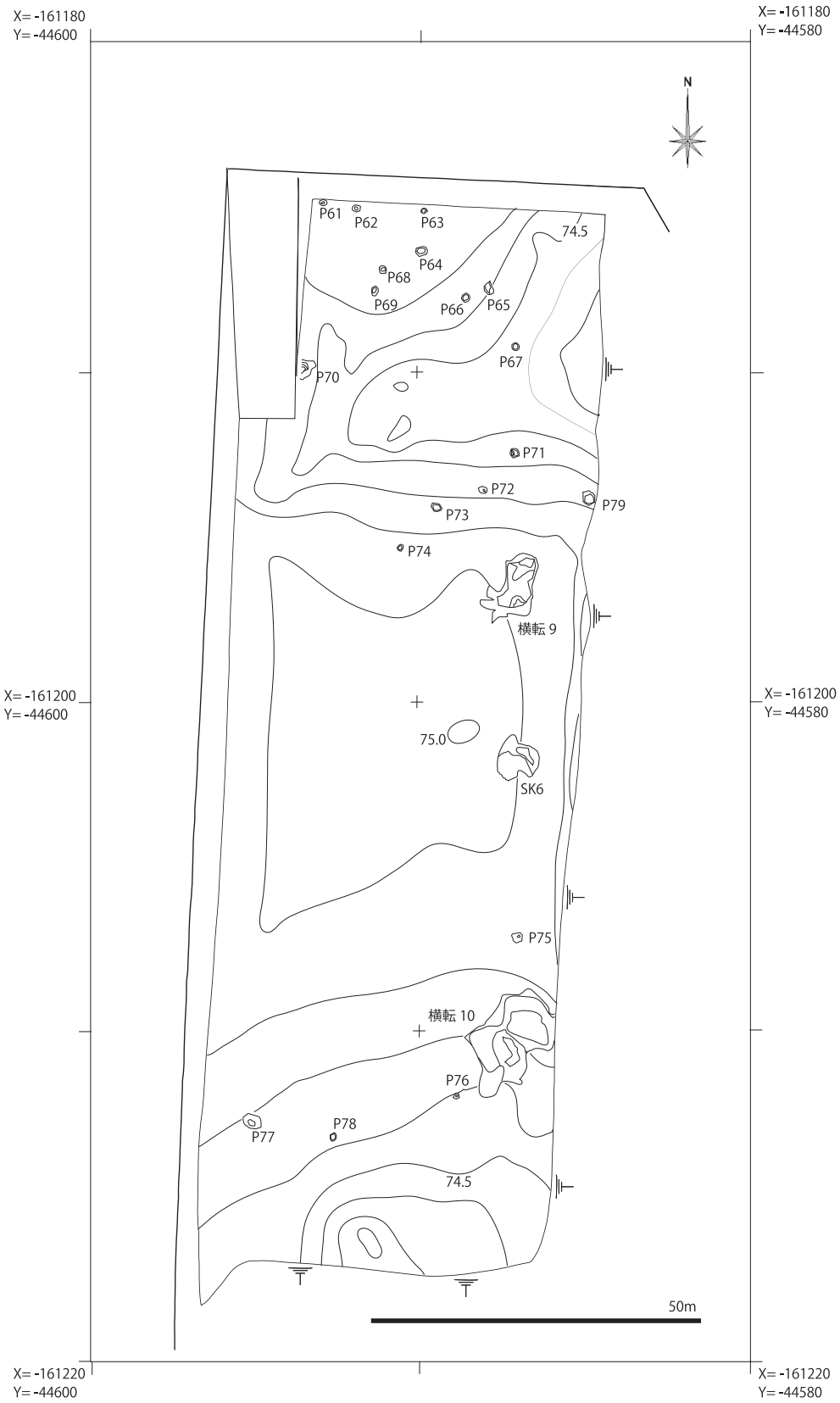


Fig.38 5層遺構分布図

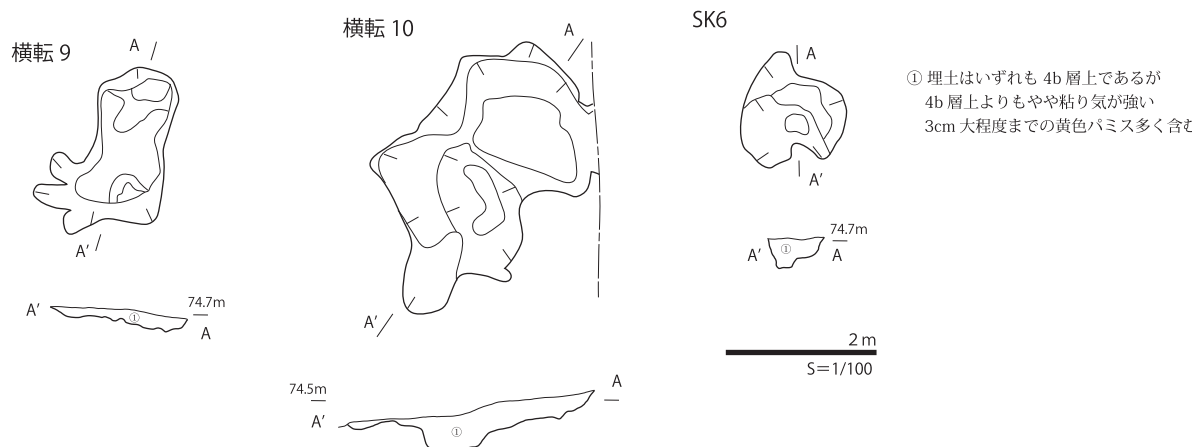


Fig.39 5層検出遺構図(1)

b類の土器である。口縁部は貝殻刺突文が施され、胴部は横位の貝殻条痕文、その上に縦位・斜位の二重施文が施されている。103は薄手の角筒土器と思われる。

104～107は貝殻文系土器の胴部である。104は胴部a類・厚手の円筒土器である。105・106は横・斜位の貝殻条痕文の上に斜位の条痕文を施しており、胴部b類である。107も二重施文であるが波状沈線が施され、胴部c類の志風頭タイプの範疇と思われる。

108～110は底部である。108・109は断面に粘土接合痕が観察できる。貝殻条痕文が底部までほどこされる底部1類である。110は外面底部に縦方向の貝殻刺突文が施される底部3類である。一部横方向の貝殻条痕文によってナゲ消されている。底はミガキ調整も確認できる。

5 5層検出遺構 (Fig.38～40, PL.22)

5層は薩摩火山灰層であり、調査区中央部がやや高く、南北に向かってゆるやかな下りになっている。5層上面では横転2ヶ所(横転9・10)、土坑1基(SK6)、ピット19基(P61～78)が検出された。横転9・10は検出面では長方形に近い形状であったが、掘削すると底部は凹凸になっており、横転と判断した。SK6は円形に近い形であり、段落ちになっている。ピットは調査区の北部と南部に検出された。深さは10～20cmの浅いピットが多く、深いものでも40cmである。P67・70は段落ちになっている。他のピットはほぼ平底の形状である。ピット群は並びなど規則性は特に見いだせなかった。

6 6層出土遺物 (Fig.42, PL.24)

6層上面でコンター測量後、上部5cmほど慎重に掘削し、2.5×2.5mのメッシュを組み部分的に深掘りを行った。遺構は検出されなかったが、6層上層部より遺物が少数出土している。

111～113は細石刃である。111は三船産黒曜石に類似し、上半部は欠損している。112は桑ノ木津留産黒曜石に類似する。113は黒色安山岩で左側縁部に微小剥離痕が認められる。114は硬質砂岩製の礫器で二次加工により刃部が作り出される。

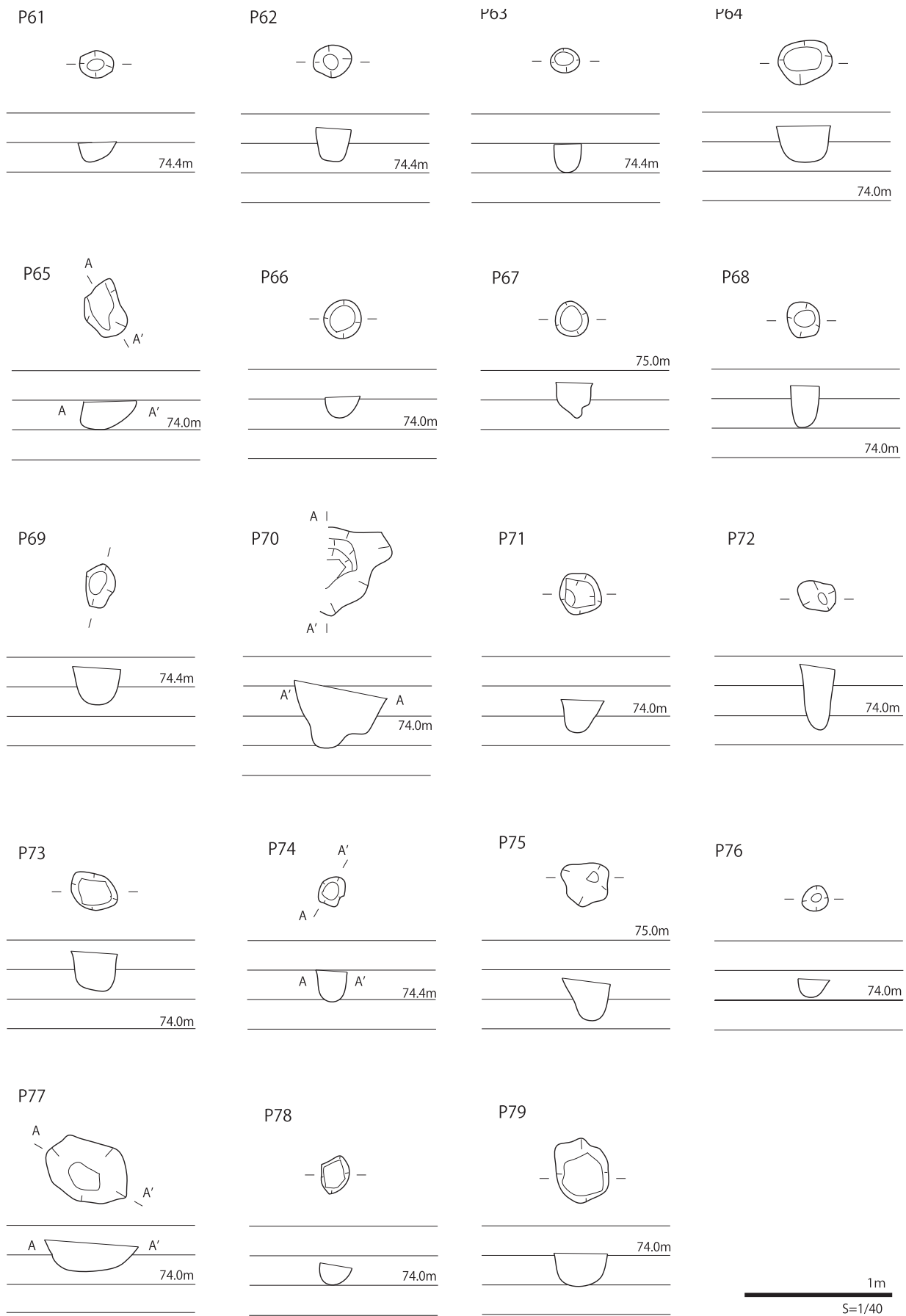
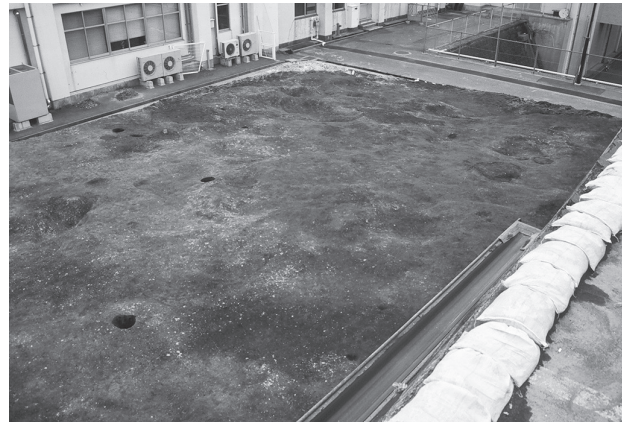


Fig.40 5層検出遺構図(2)



5層上面遺構検出 北から



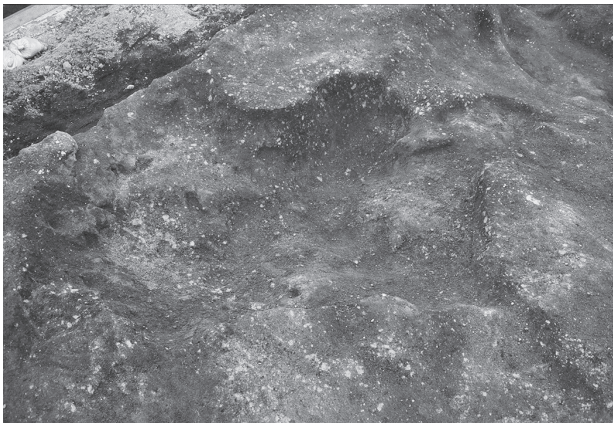
5層上面遺構検出 北西から



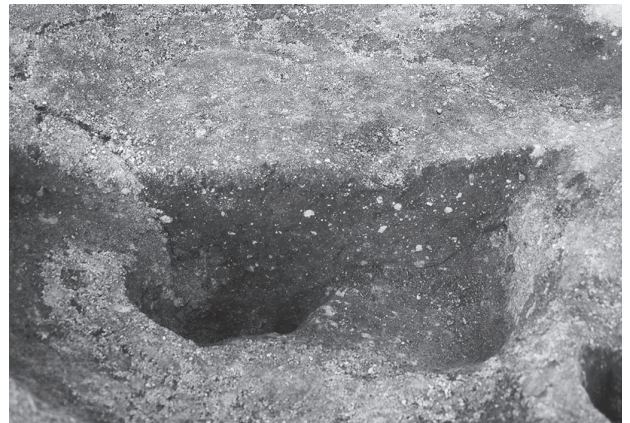
横転 9 断面



横転 10 断面



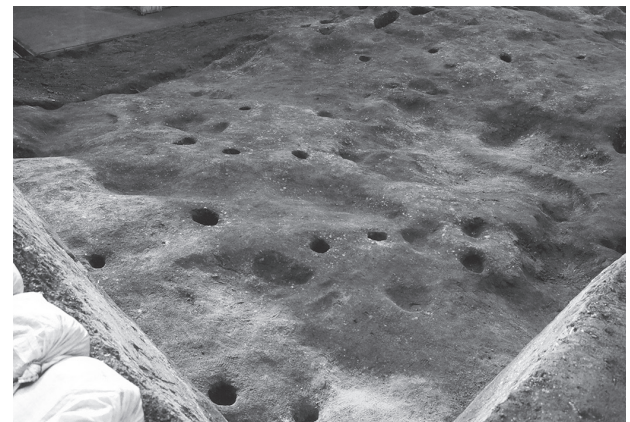
横転 10 完掘



SK 6 断面



5層遺構完掘状況 北から



5層ピット群完掘

PL.22 5層検出遺構

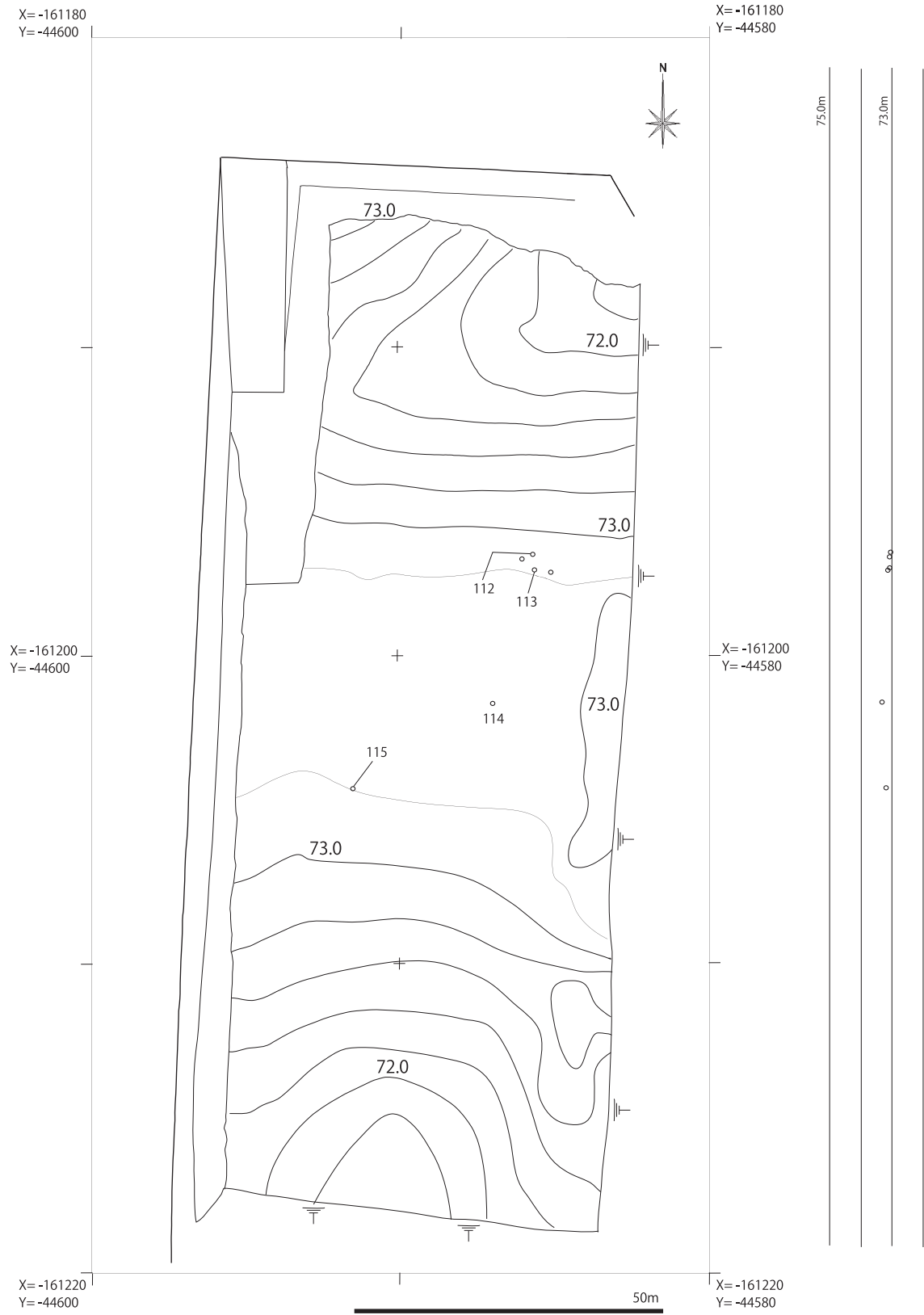


Fig.41 6層遺物分布図



6層上面検出状況



6層掘削状況北から

PL.23 6層掘削状況

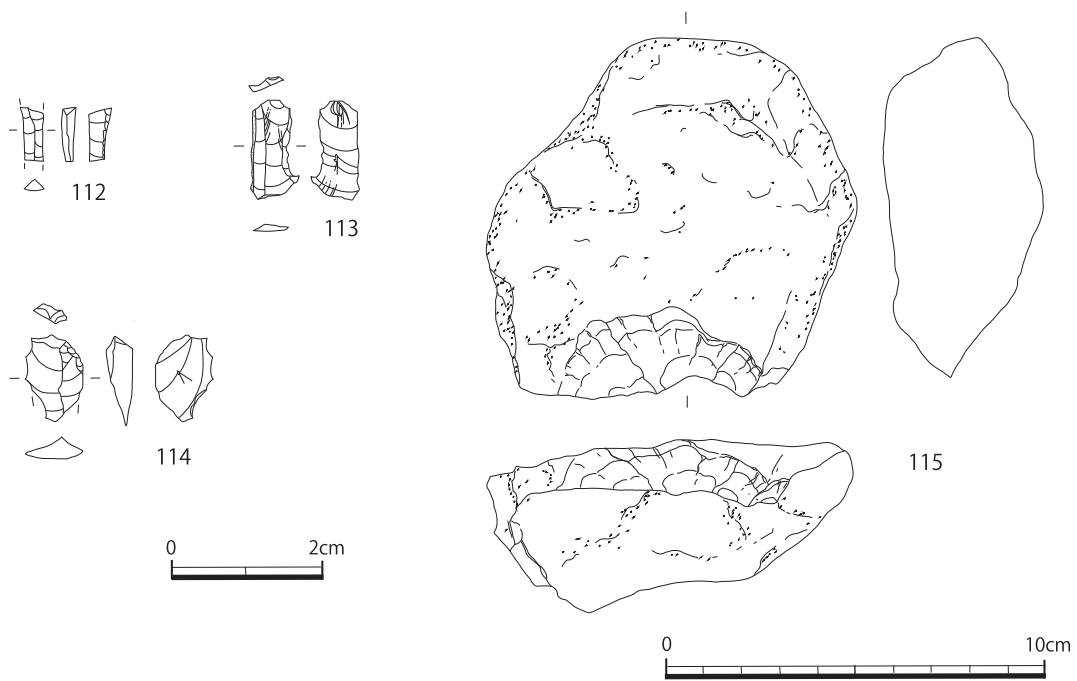


Fig.42 6層出土遺物



PL.24 6層出土遺物

Tab. 1 遺構一覧 (1)

| 遺構名 | 種類 | 検出面 | 長さ × 幅 × 深さ (cm) | 埋土 |
|------|----|-------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| SK 1 | 土坑 | 3層上面 | 128 80 80 | 上層：2b層土 下層：7.5YR 2/2 黒褐色を呈するシルト層, 粘性ややあり 2・3mm 大の黄色バミスをごくわずかに含む |
| SK2 | 土坑 | 4a層上面 | 100 72 72 | 埋土1：7.5YR 4/3 褐色シルト層, 粘性ややあり 3層類似, 1cm 大程度までの黄色バミス少量含む 埋土2：7.5YR 3/4 暗褐色類似シルト層, 粘性ややあり 2～3cm 大の黄色バミス含む |
| SK3 | 土杭 | 4a層上面 | — — 55 | 埋土1：10YR 4/3 にぶい黄褐色シルト層, 粘質あり 1cm 程度までの黄色バミスをわずかに含む 7.5YR 5/4 にぶい褐色粘質土ブロック混 埋土2：7.5YR 3/3 暗褐色シルト層, 粘性ややあり 1cm 大程度までの黄色バミスをわずかに含む |
| SK4 | 土杭 | 4b層上面 | 98 46 42 | 4a層土と同じ 上方に赤ホヤ状の土をブロックで含む |
| SK5 | 土杭 | 4b層上面 | 80 62 (62) | 5YR 4/3 にぶい赤褐色シルト層, 粘性ややあり 2cm 大程度までの黄色バミス含む |
| SK6 | 土杭 | 5層上面 | 52 50 19 | 4b層土だが, 4b層土よりやや粘性あり 3cm 大程度までの黄色バミス多く含む |

Tab. 2 遺構一覧 (2)

| 遺構名 | 種類 | 検出面 | 長さ × 幅 × 深さ (cm) | 埋土 |
|-----|-----|-------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| P1 | ピット | 3層上面 | 56 40 22 | 2b層土 |
| P2 | ピット | 3層上面 | 62 60 23 | 2b層土 |
| P3 | ピット | 3層上面 | 60 36 12 | 2b層土 |
| P4 | ピット | 3層上面 | 32 24 48 | 2b層土 |
| P5 | ピット | 3層上面 | 37 32 32 | 2b層土 |
| P6 | ピット | 3層上面 | 24 24 44 | 10YR 3/3 暗褐色シルト層, 粘性ややあり 2・3cm 大の黄色バミス含む |
| P7 | ピット | 3層 | 29 28 20 | 7.5YR 4/4 褐色シルト層, 粘性あり, 2cm 大の黄色バミス含む |
| P8 | ピット | 3層 | 24 22 10 | 7.5YR 4/4 褐色シルト層, 粘性ややあり |
| P9 | ピット | 3層 | 32 25 44 | 7.5YR 3/4 暗褐色シルト層, 粘性ややあり |
| P10 | ピット | 3層 | 25 22 50 | 7.5YR 3/4 暗褐色シルト層, 粘性ややあり |
| P11 | ピット | 3層 | 48 40 50 | 10YR 4/3 にぶい黄褐色シルト層, 粘性ややあり |
| P12 | ピット | 3層 | 24 22 20 | 7.5YR 1.7/1 黒色シルト層, 粘性ややあり 3層土ブロックで含む |
| P13 | ピット | 3層 | 31 24 40 | 上層：7.5YR 4/4 褐色シルト層, 粘性ややあり 下層：7.5YR 4/6 褐色シルト層, 7.5YR 3/4 暗褐色シルト層, 粘性ややあり |
| P14 | ピット | 3層 | 36 35 45 | 7.5 YR 4/4 褐色シルト層, 粘性かなりあり 5mm 大の黄色バミスを含む 炭わずかに含む |
| P15 | ピット | 3層 | 44 28 61 | 7.5YR 4/4 褐色シルト層, 粘性ややあり 炭わずかに含む |
| P16 | ピット | 3層 | 22 20 — | 7.5YR 4/4 褐色シルト層, 粘性ややあり 2・3mm 大の黄色バミスをごくわずかに含む 深さ不明 |
| P17 | ピット | 3層 | 24 24 31 | 7.5YR 4/4 褐色に類似, シルト層, 粘性ややあり |
| P18 | ピット | 3層 | 28 22 40 | 上層：7.5YR 3/4 暗褐色シルト層, 粘性ややあり 下層：7.5YR 2/3 極暗褐色シルト層, 粘性あり |
| P19 | ピット | 3層 | 38 31 70 | 上層：7.5YR 4/4 褐色シルト層, 粘性ややあり 下層：7.5YR 3/3 暗褐色シルト層, 粘性あり |
| P20 | ピット | 3層 | 32 28 30 | 7.5YR 3/4 暗褐色シルト層, 粘性ややあり 1cm 大程度までの黄色バミスをわずかに含む |
| P21 | ピット | 3層 | 44 35 51 | 10YR 3/4 暗褐色シルト層, 粘性ややあり 1cm 大程度までの黄色バミスをわずかに含む |
| P22 | ピット | 4a層上面 | 24 20 11 | 10YR 2/3 黒褐色シルト層, 粘性ややあり 5mm 大程度までのバミス、炭をわずかに含む |
| P23 | ピット | 3層 | 22 22 30 | 10YR 3/4 暗褐色シルト層, 粘性ややあり 2・3mm 大の黄色バミスをわずかに含む |
| P24 | ピット | 4a層上面 | 28 — 44 | 7.5YR 4/4 褐色シルト層, 粘性ややあり 2cm 大程度までの黄色バミスを含む |
| P25 | ピット | 4a層上面 | 72 56 32 | 3層土 |
| P26 | ピット | 4a層上面 | 44 — 48 | 7.5YR 4/3 褐色シルト層, 粘性ややあり, 3層類似 1cm 大程度までの黄色バミスをわずかに含む |
| P27 | ピット | 4a層上面 | 36 32 72 | 7.5YR 4/3 褐色シルト層, 粘性ややあり, 3層類似 1cm 大程度までの黄色バミスをわずかに含む |
| P28 | ピット | 4a層上面 | 34 20 40 | 7.5YR 4/3 褐色シルト層, 粘性ややあり, 3層類似 1cm 大程度までの黄色バミスをわずかに含む |
| P29 | ピット | 4a層上面 | 28 20 36 | 7.5YR 4/3 褐色シルト層, 粘性ややあり, 3層類似 1cm 大程度までの黄色バミスをわずかに含む |
| P30 | ピット | 4a層上面 | 40 30 16 | 7.5YR 4/3 褐色シルト層, 粘性ややあり, 3層類似 1cm 大程度までの黄色バミスをわずかに含む |
| P31 | ピット | 4層 | 24 22 30 | 10YR 2/3 黒褐色シルト層, 粘性ややあり 5mm 大程度の黄色バミス含む |
| P32 | ピット | 4a層上面 | 32 32 30 | 3層土 |
| P33 | ピット | 4a層上面 | 32 24 40 | 3層土 |
| P34 | ピット | 4a層上面 | 32 28 30 | 3層土 |
| P35 | ピット | 4a層上面 | 32 26 40 | 3層土 |
| P36 | ピット | 4a層上面 | 28 20 28 | 3層土 |
| P37 | ピット | 4a層上面 | 24 20 36 | 3層土 |
| P38 | ピット | 4a層上面 | 24 18 25 | 3層土 |
| P39 | ピット | 4a層上面 | 28 22 18 | 3層土 |
| P40 | ピット | 4a層上面 | 44 40 60 | 3層土 |
| P41 | ピット | 4a層上面 | 24 20 40 | 3層土 |
| P42 | ピット | 4a層上面 | 24 25 76 | 3層土 |
| P43 | ピット | 4a層上面 | 28 24 60 | 3層土 |
| P44 | ピット | 4a層上面 | 18 16 30 | 3層土 |
| P45 | ピット | 4b層上面 | 25 24 20 | 4a層土 |
| P46 | ピット | 4b層上面 | 28 24 40 | 4a層土 |
| P47 | ピット | 4b層上面 | 24 22 40 | 4a層土 |

Tab. 3 遺構一覧 (3)

| 遺構名 | 種類 | 検出面 | 長さ × | 幅 × | 深さ (cm) | 埋土 |
|-----|-----|-------|------|-----|---------|--------------------------------------------------------------------------|
| P48 | ピット | 4b層上面 | 28 | 24 | 48 | 4a層土 |
| P49 | ピット | 4b層上面 | 28 | 24 | 20 | 4a層土 |
| P50 | ピット | 4a層上面 | 25 | 20 | 28 | 3層 |
| P51 | ピット | 4b層上面 | 36 | 35 | 44 | 7.5YR 4/4 褐色シルト, 粘性ややあり 1cm 大程度までの黄色バミス含む |
| P52 | ピット | 4b層上面 | 32 | 28 | 40 | 7.5YR 3/4 暗褐色シルト層, 粘性ややあり 1cm 大程度までの黄色バミス含む |
| P53 | ピット | 4b層上面 | 24 | 22 | 32 | 4a層土 |
| P54 | ピット | 4b層上面 | 22 | 16 | 16 | 4a層土 |
| P55 | ピット | 4b層上面 | 30 | 20 | 42 | 7.5YR3/4 暗褐色シルト層, 粘性ややあり 1cm 大程度までの黄色バミス含む |
| P56 | ピット | 4b層上面 | 26 | 26 | 55 | 7.5YR3/4 暗褐色シルト層, 粘性ややあり 1cm 大程度までの黄色バミス含む |
| P57 | ピット | 4a層上面 | 30 | 28 | 32 | 3層 |
| P58 | ピット | 4a層上面 | 36 | 32 | 24 | 埋土1: 10YR 3/4 暗褐色シルト層, 粘性ややあり 5mm 大程度の白色粒子, 1cm 大程度の黄色バミスを含む 埋土2: 3層土 |
| P59 | ピット | 4a層上面 | 22 | 22 | 44 | 3層土 |
| P60 | ピット | 4b層上面 | 25 | 24 | 40 | 4a層土 |
| P61 | ピット | 5層上面 | 24 | 18 | 12 | 7.5YR 4/4 褐色シルト層, 粘性あり 1cm 大程度までの黄色バミス含む |
| P62 | ピット | 5層上面 | 24 | 22 | 24 | 7.5YR 2/3 極暗褐色シルト層, 粘性ややあり 4b層土, サツマ層をブロックで含む |
| P63 | ピット | 5層上面 | 20 | 16 | 20 | 7.5YR 3/2 黒褐色に類似したシルト層, 粘性ややあり 5mm 大程度までの黄色バミス含む |
| P64 | ピット | 5層上面 | 36 | 28 | 24 | 4b層土 |
| P65 | ピット | 5層上面 | 35 | 24 | 20 | 4b層土 |
| P66 | ピット | 5層上面 | 25 | 24 | 12 | 4b層土 |
| P67 | ピット | 5層上面 | 24 | 24 | 24 | 10YR 1.7/1 黒色シルト層, 粘性ややあり |
| P68 | ピット | 5層上面 | 24 | 23 | 28 | 7.5YR 3/2 黒褐色シルト層, 粘性ややあり 5mm 大程度までの黄色バミス含む |
| P69 | ピット | 5層上面 | 30 | 20 | 24 | 10YR 3/3 暗褐色シルト層, 粘性ややあり 5mm 大程度の黄色バミスわずかに含む |
| P70 | ピット | 5層上面 | 30 | — | 44 | 4b層土 |
| P71 | ピット | 5層上面 | 28 | 28 | 20 | 4b層土 |
| P72 | ピット | 5層上面 | 24 | 20 | 44 | 7.5YR 4/6 褐色シルト～砂質土, 粘性ややあり 3mm 大の黄色バミスをわずかに含む |
| P73 | ピット | 5層上面 | 32 | 24 | 25 | 4b層土 |
| P74 | ピット | 5層上面 | 20 | 16 | 20 | 7.5YR 4/3 褐色シルト層, 粘性ややあり 5mm 大程度までの黄色バミスをごくわずかに含む |
| P75 | ピット | 5層上面 | 32 | 28 | 28 | 4b層土 |
| P76 | ピット | 5層上面 | 16 | 16 | 12 | 4b層土 |
| P77 | ピット | 5層上面 | 60 | 44 | 20 | 4b層土 |
| P78 | ピット | 5層上面 | 25 | 20 | 12 | 4b層土 |
| P79 | ピット | 5層上面 | 44 | 36 | 20 | 4b層土 |

Tab. 4 出土遺物観察表 (1)

| Fig | No. | 層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 調整 | 色調 | 胎土 | 備考 | |
|-----|-----|----|----------|------|----|----------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------|--------|
| 6 | 1 | 1 | | 簪 | | — | — | — | 4.6 × 1.95 × 0.2(cm) | |
| | 2 | 1 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ナデ | 外面：10YR6/3 にぶい黄橙色 内面：7.5YR6/4 にぶい橙色 | 白・黒色粒，石英，角閃石， 長石，ややきめ細かい | | |
| | 3 | 1 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ナデ | 外面：7.5YR5/3 にぶい褐色 内面：5YR5/4 にぶい赤褐色 | 軽石，白・黒色粒， 石英，角閃石，礫多い | | |
| | 4 | 1 | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一)， 貝殻刺突 内面：ケズリ()，ミガキ | 外面：5YR4/2 灰褐色 内面：2.5YR4/3 にぶい赤褐色 | 赤色粒，石英，角閃石， 長石，礫 | 外面スス附着 | |
| | 5 | 1 | 縄文 | 深鉢 | 底部 | 外面：貝殻条痕(一)(\) 内面：ユビオサエ，ナデ | 内外面：5YR5/4 にぶい赤褐色 | 黒・白色粒，礫，赤色粒， 石英，長石，軽石 | 底部編物痕 | |
| | 6 | 1 | 縄文 | 深鉢 | 底部 | 外面：ナデ(一)(\) | 外面：7.5YR5/4 にぶい褐色 | 白・赤色粒，石英 角閃石，長石 | | |
| 8 | 7 | 2b | 弥生 | 甕 | 口縁 | 外面：ナデ(一) 内面：ユビオサエ→ナデ(一) | 外面：7.5YR6/4 にぶい橙色 内面：10YR4/1 褐灰色 | 黒・赤色粒，石英，角閃石 | 外面スス附着 | |
| | 8 | 2b | 弥生 | 甕 | 口縁 | 内外面：ナデ(一) | 外面：7.5YR5/4 にぶい褐色 内面：10YR6/4 にぶい黄橙色 | 黒・白・赤色粒，石英 | 外面スス附着 | |
| | 9 | 2b | 弥生 | 甕 | 口縁 | 外面：ナデ(一) 内面：ユビオサエ→ナデ(一) | 外面：7.5YR6/4 にぶい橙色 内面：10YR6/3 にぶい黄褐色 | 白・黒・赤色粒，石英 | | |
| | 10 | 2b | 弥生 | 甕 | 口縁 | 内外面：ナデ(一) | 内外面：5YR5/4 にぶい赤褐色 | 白・黒色粒，石英 | | |
| | 11 | 2b | 弥生 | 壺 | 口縁 | 外面：ナデ(一) 内面：ミガキ(一) | 外面：7.5YR6/4 にぶい橙色 内面：5YR6/6 橙色 | 黒・白色粒，石英，角閃石 | | |
| | 12 | 2b | 弥生 | 壺 | 胴部 | 内外面：ミガキ(一)(/) | 外面：5YR4/6 赤褐色 内面：5YR5/4 にぶい赤褐色 | 白・黒・赤色粒，石英，角閃石 | | |
| | 13 | 2b | 弥生 | 甕 | 底部 | 外面：ナデ，ミガキ() | 外面：5YR5/3 にぶい赤褐色 | 白・赤色粒，角閃石，石英 | | |
| | 14 | 2b | 縄文 | 深鉢・鉢 | 口縁 | 内外面：ナデ(一) | 外面：10YR5/3 にぶい黄褐色 内面：10YR6/3 にぶい黄褐色 | 赤・白色粒，角閃石 | 外面スス附着 | |
| | 15 | 2b | 縄文 | 深鉢・鉢 | 口縁 | 内外面：ナデ(一)，ミガキ | 内外面：7.5YR2/1 黒色 | 白・赤・黒色粒 | | |
| | 16 | 2b | 縄文 | 深鉢・鉢 | 口縁 | 内外面：ナデ(一)，ミガキ | 外面：7.5YR5/3 にぶい褐色 内面：10YR4/1 褐灰色 | 白・赤色粒 | | |
| | 17 | 2b | 縄文 | 浅鉢 | 胴部 | 内外面：ミガキ(一) | 外面：7.5YR4/2 灰褐色 内面：7.5YR2/1 黒色 | 角閃石，白色粒 | 赤色塗付 | |
| | 18 | 2b | 縄文 | 深鉢 | 底部 | 外面：ナデ(一) 内面：ナデ，ミガキ | 外面：10YR6/3 にぶい黄褐色 内面：2.5Y4/1 黄灰色 | 白・黒色粒，石英，軽石 | | |
| | 19 | 2b | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(\)(一)， 二重施文 内面：ケズリ(\) | 外面：7.5YR6/3 にぶい褐色 内面：7.5YR5/3 にぶい褐色 | 白・黒色粒，石英，角閃石， 軽石，礫 | | |
| | 13 | 20 | 横転1 ④ | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ナデ(一) | 外面：7.5YR7/4 にぶい橙色 内面：5YR7/6 橙色 | 黒・赤色粒，石英， きめ細かい | |
| | | 21 | 横転1 ④ | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(\) 内面：ケズリ(/)， ナデ(一) | 外面：2.5YR6/6 橙色 内面：5YR6/6 橙色 | 白・黒・赤色粒，石英， 角閃石，長石，軽石 | |
| | | 22 | 横転1 ② | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 内面：ナデ(一) | 外面：7.5YR6/4 にぶい橙色 内面：10YR7/4 にぶい黄褐色 | 黒・白色粒，石英，角閃石 | |
| | | 23 | 横転1 ④ | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ナデ(一) | 外面：7.5YR6/3 にぶい褐色 内面：7.5YR6/4 にぶい橙色 | 白・黒・赤色粒，石英， 角閃石，長石 | |
| | | 24 | 横転1 ④ | 縄文 | 深鉢 | 底部 | 外面：貝殻条痕()(一) 内面：ユビ痕，ナデ | 外面：7.5YR7/4 にぶい橙色 内面：10YR7/4 にぶい黄褐色 | 黒・白・赤色粒，石英， 角閃石，長石，軽石，礫 | |
| | 14 | 25 | 3 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一)(\) 内面：ナデ(一) | 外面：2.5Y7/3 浅黄色 内面：10YR7/4 にぶい黄褐色 | 赤・白・黒色粒，石英， 角閃石，輝石 | 外面スス附着 |
| 26 | | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ナデ | 外面：7.5YR7/4 にぶい褐色 内面：7.5YR8/4 浅黄褐色 | 赤・白・黒色粒， きめ細かい | | |
| 27 | | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ナデ(一)(\) | 外面：10YR5/3 にぶい黄褐色 内面：7.5YR5/4 にぶい褐色 | 白・黒色粒，石英， 角閃石，軽石，礫 | | |
| 28 | | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(\)(/) 内面：ナデ(一) | 外面：7.5YR7/6 褐色 内面：10YR4/2 灰黄褐色 | 黒色粒，角閃石，赤色粒， 石英，長石 | | |
| 29 | | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(\)(/) 内面：ナデ(一)(\) | 外面：10YR5/3 にぶい黄褐色 内面：10YR4/1 褐灰色 | 白・黒色粒，石英，長石，礫 | | |
| 30 | | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一)(\) 内面：ナデ(一) | 外面：5Y4/1 灰色 内面：10YR7/4 にぶい黄褐色 | 白・黒・赤色粒，角閃石，礫 | | |
| 31 | | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一)(/) 内面：ナデ(\)(一)→ ミガキ | 外面：7.5YR6/4 にぶい褐色 内面：10YR6/4 にぶい黄褐色 | 白色粒，石英， 黒・赤色粒，角閃石 | | |
| 32 | | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ナデ(一) | 外面：7.5YR6/4 にぶい褐色 内面：7.5YR5/4 にぶい褐色 | 黒・白・赤色粒，石英，礫 | | |

Tab. 5 出土遺物観察表 (2)

| Fig | No | 層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 調整 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|-----|----|---------------|----|----|-------|---------------------------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------------------------|------------|
| 14 | 33 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(ノ) 内面：ナデ(ノ)(一) | 外面：10YR3/1 黒褐色 内面：7.5YR5/3 にぶい褐色 | 白色粒, 軽石, 黒・赤色粒, 角閃石, 礫, きめが粗い | 外面スス付着 |
| | 34 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(ノ) 内面：ナデ(一) | 外面：7.5YR6/4 にぶい褐色 内面：7.5YR6/2 灰褐色 | 黒・白色粒, 石英, 角閃石 | |
| | 35 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ナデ(ノ)(一) | 外面：10YR6/3 にぶい黄褐色 内面：2.5Y4/1 黄灰色 | 白色粒, 石英, 角閃石 | |
| | 36 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ナデ(一) | 内外面：5YR5/3 にぶい赤褐色 | 黒・白色粒, 石英, 角閃石, 軽石, 礫 | |
| | 37 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(ノ)(一) 内面：ナデ(一), ミガキ() | 内外面：5YR5/4 にぶい赤褐色 | 白・黒色粒, 角閃石, 軽石, 礫 | |
| | 38 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ケズリ(ノ)(一), ナデ(一) | 外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR2/1 黒色 | 白・黒色粒, 石英, 角閃石 | |
| 15 | 39 | 3 4b | 縄文 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 外面：貝殻条痕(ノ)(一) 内面：ケズリ()(一), ナデ()(一), ミガキ | 内外面：7.5YR6/4 にぶい褐色 | 白・黒・赤色粒, 石英, 角閃石, 長石 | 外面スス付着 |
| | 40 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ケズリ(一), ナデ(一) | 外面：10YR5/2 灰黄褐色 内面：10YR5/3 にぶい黄褐色 | 軽石, 白・黒色粒, 石英, 長石, 礫, きめが粗い | |
| | 41 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(ノ) 内面：ナデ(ノ)(一) | 外面：7.5YR6/4 にぶい褐色 内面：7.5YR4/1 褐灰色 | 黒・白色粒, 石英, 軽石 | |
| | 42 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ナデ(一) | 内外面：10YR6/3 にぶい黄褐色 | 黒・白・赤色粒, 石英, 角閃石 | |
| | 43 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一)(ノ), 二重施文 内面：ケズリ()(一), ナデ()(一) | 外面：5YR6/6 褐色 内面：7.5YR6/4 にぶい褐色 | 白・黒色粒, 長石, 赤色粒, 石英, 角閃石, 軽石, 礫 | |
| 16 | 44 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(ノ), 二重施文 内面：ケズリ(ノ)(一) | 外面：10YR3/1 黒褐色 内面：7.5YR5/4 にぶい褐色 | 白・黒色粒, 礫, 赤色粒, 石英, 角閃石, 黒曜石 | 外面スス付着, 剥落 |
| | 45 | 3 4a 4b | 縄文 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 外面：貝殻条痕(一) 二重施文 内面：ナデ()(ノ) | 外面：5YR5/4 にぶい赤褐色 内面：10YR6/4 にぶい黄褐色 | 白・黒色粒, 礫, 石英, 角閃石 | |
| 17 | 46 | 3 4a 4b | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一)(ノ) 内面：ケズリ(), ナデ | 外面：5YR6/4 にぶい褐色 内面：2.5Y5/2 暗灰黄色 | 白色粒, 礫, 黒・赤色粒, 石英, 角閃石, 長石, 軽石, きめが粗い | 内面コゲ付着 |
| | 47 | 3 4a | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一), 二重施文 内面：ケズリ(), ナデ() | 外面：7.5YR6/4 にぶい褐色 内面：10YR6/3 にぶい黄褐色 | 黒・白色粒, 石英, 角閃石, 長石, 軽石, 礫, 赤色粒 | 外面スス付着 |
| 18 | 48 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕, 二重施文 内面：ナデ | 内外面：10YR6/3 にぶい黄褐色 | 黒・白・赤色粒, 石英, 角閃石 | |
| | 49 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一), 貝殻刺突 内面：ケズリ(), ユビ痕→ナデ() | 外面：10YR3/2 黒褐色 内面：5YR5/4 にぶい赤褐色 | 黒色粒, 礫, 白・赤色粒, 石英, 角閃石, 長石 | |
| | 50 | 3 | 縄文 | 深鉢 | 底部 | 外面：貝殻条痕()(ノ) 内面・底部：ナデ | 外面：7.5YR5/4 にぶい褐色 内面：7.5YR6/4 にぶい褐色 | 黒・白・赤色粒, 石英, 角閃石, 長石, 礫 | |
| 24 | 53 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ナデ(一), ミガキ | 外面：10YR6/3 にぶい黄褐色 内面：10YR4/1 褐灰色 | 黒・白色粒, 石英, 角閃石, 礫 | 外面剥落 |
| | 54 | 4a 4b | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(ノ) 内面：ケズリ(ノ)(一), ナデ(一) | 外面：10YR6/3 にぶい黄褐色 内面：7.5YR7/4 にぶい褐色 | 白・赤・黒色粒, 石英, 長石, 礫 | 外面スス付着 |
| | 55 | 4a 4b | 縄文 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 外面：貝殻条痕(ノ) 内面：ケズリ(ノ) | 内外面：7.5YR6/4 にぶい褐色 | 黒・白色粒, 角閃石, 長石, 礫 | 補修孔有り |
| 25 | 56 | 3 4a 4b | 縄文 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ケズリ(ノ)(一)→ ナデ(ノ)(一) | 外面：5YR6/4 にぶい褐色 内面：10YR6/4 にぶい黄褐色 | 白・黒色粒, 長石, 石英, 赤色粒, 角閃石 | 外面スス付着 |
| | 57 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ケズリ(一) | 外面：7.5YR7/4 にぶい褐色 内面：10YR6/4 にぶい黄褐色 | 白・黒色粒, 石英, 角閃石, 礫 | |
| 24 | 58 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(ノ) 内面：ナデ(ノ) | 外面：7.5YR6/4 にぶい褐色 内面：5YR5/3 にぶい赤褐色 | 白・赤色粒, 石英, 角閃石, 軽石, 礫 | 外面スス付着 |
| | 59 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ナデ(一) | 外面：5YR5/4 にぶい赤褐色 内面：10YR3/1 黒褐色 | 白・赤色粒, 長石 | |
| 26 | 60 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁～胴部 | 外面：貝殻条痕(ノ) 内面：ケズリ(一)(ノ) | 外面：10YR7/3 にぶい黄褐色 内面：10YR7/4 にぶい黄褐色 | 黒・赤色粒, 石英, 長石, 軽石, 礫 | 外面スス付着, 剥落 |

Tab. 6 出土遺物観察表 (3)

| Fig | No | 層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 調整 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|-----|----|----------------|----|----|----|----------------------------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------|------------------|
| 26 | 61 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一)(\) 内面：ケズリ(一)→ ミガキ() | 外面：10YR4/1 褐灰色 内面：10YR5/3 にぶい黄褐色 | 白・赤色粒, 角閃石, 長石, 礫 | 外面スス付着 |
| | 62 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ケズリ(一) | 外面：7.5YR6/4 にぶい橙色 内面：10YR6/3 にぶい黄褐色 | 白・赤色粒, 軽石, 礫 | 外面スス付着 内面コゲ付着 |
| | 63 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(\)(一) 内面：ナデ(\) | 外面：10YR6/4 にぶい黄褐色 内面：10YR7/4 にぶい黄褐色 | 黒・白色粒, 石英 | |
| | 64 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 内面：ケズリ(\)(一) ミガキ(\)(一) | 外面：7.5Y5/3 にぶい褐色 内面：10YR3/1 黒褐色 | 白・赤色粒, 石英, 礫 | 内外面スス付着 外面剥落 |
| | 65 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ケズリ(一) | 外面：7.5YR6/6 橙色 内面：7.5YR5/4 にぶい褐色 | 黒・白色粒, 石英, 角閃石, 長石, 軽石 | 外面スス付着 |
| | 66 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一) 内面：ナデ(一) | 内外面：10YR7/3 にぶい黄褐色 | 黒・赤・白色粒, 長石, 軽石 | |
| 27 | 67 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一)(/), 二重施文 内面：ケズリ(一)(), ミガキ() | 外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR5/3 にぶい黄褐色 | 白・赤色粒, 石英, 雲母, 礫, きめが粗い | 外面スス付着 |
| 26 | 68 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(一)(\), 二重施文 内面：ケズリ(一)(\)() →ミガキ() | 外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR5/3 にぶい黄褐色 | 白・黒色粒, 石英, 長石, 礫 | 外面スス付着 内面コゲ付着 |
| 27 | 69 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 口縁 | 外面：貝殻条痕(\), 二重施文 内面：ケズリ(\), ナデ(一), ミガキ | 外面：5YR5/3 にぶい赤褐色 内面：5YR6/4 にぶい橙色 | 黒・白色粒, 長石, 礫 | 外面スス付着 |
| | 70 | 4a 4b 攪乱 | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(/) 内面：ケズリ()(\), ナデ, ミガキ | 外面：5YR5/4 にぶい赤褐色 内面：7.5YR4/2 灰褐色 | 白・赤色粒, 礫, 軽石, 石英, 長石, きめが粗い | 外面スス付着 内面コゲ付着 |
| | 71 | 4a 4b | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一)(\) 内面：ケズリ()(\), ミガキ()(\) | 外面：7.5YR5/3 にぶい褐色 内面：7.5YR2/1 黒色 | 赤・白色粒, 石英, 礫, 角閃石, 長石, 軽石 | |
| 28 | 72 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一), 二重施文 内面：ケズリ(/)→ ナデ() | 外面：7.5YR6/4 にぶい橙色 内面：10YR4/1 褐灰色 | 赤・白色粒, 角閃石, 礫 | |
| | 73 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一), 二重施文 内面：ケズリ(\), ナデ(\) | 外面：7.5YR7/4 にぶい橙色 内面：7.5YR5/4 にぶい褐色 | 黒・白・赤色粒, 石英, 長石, 軽石, 礫 | |
| | 74 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一), 二重施文 内面：ケズリ() | 外面：10YR6/4 にぶい黄褐色 内面：10YR7/4 にぶい黄褐色 | 黒・白色粒, 長石, 礫 | |
| | 75 | 4a 4b | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一), 二重施文 内面：ナデ(), ミガキ() | 内外面：7.5YR6/4 にぶい橙色 | 白・赤色粒, 石英, 角閃石, 軽石, 礫 | 外面スス付着 |
| | 76 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一), 二重施文 内面：ナデ(一)() | 外面：5YR6/6 橙色 内面：5YR5/4 にぶい赤褐色 | 赤色粒が多く, 白色粒, 長石, 軽石, 礫 | |
| | 77 | 4a 4b | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一)(\), 二重施文 内面：ナデ(\) | 外面：10YR6/4 にぶい黄褐色 内面：7.5YR6/4 にぶい橙色 | 黒・白色粒, 石英, 角閃石, きめ細かい | |
| 29 | 78 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一), 二重施文 内面：ナデ() | 外面：10YR6/3 にぶい黄褐色 内面：7.5YR6/4 にぶい橙色 | 黒・白色粒, 長石, 角閃石, 礫 | 外面スス付着 |
| | 79 | 4a 4b | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一), 二重施文 内面：ケズリ()(一), ミガキ() | 外面：5YR6/4 にぶい橙色 内面：5YR5/4 にぶい赤褐色 | 白・黒・赤色粒, 石英, 長石 | 外面スス付着 |
| | 80 | 4a | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(一), 二重施文 内面：ナデ(), ミガキ | 外面：5YR6/6 橙色 内面：5YR5/4 にぶい赤褐色 | 白・黒・赤色粒, 石英, 礫 | |
| | 81 | 4a 4b | 縄文 | 深鉢 | 胴部 | 外面：貝殻条痕(\), 二重施文 内面：ナデ(), ミガキ() | 外面：5YR5/3 にぶい赤褐色 内面：7.5YR5/3 にぶい褐色 | 白・赤色粒, 礫, 軽石 | 外面スス付着 |

第V章 総括

1 各文化層の様相

本調査地点での遺物包含層は1・2b・3・4・6層であり、主体となる文化層は3・4層で主に出土する貝殻文系土器の時期である縄文時代早期である。

後世の造成により、2a層は調査区南部にわずかに残るのみで遺物・遺構も確認されなかった。2b層では近代～縄文時代晩期遺物の出土もみられ、3層上面では畑の畝間跡と思われる浅い凹みが認められる¹⁾。

また、3～5層にかけて土坑や多数のピット群が検出される。本調査地点東側に隣接する以前の調査(89-2 MRI-CT 装置棟建設地²⁾)でも縄文時代早期の土坑・ピット群が多数出土しており、周辺地点(Fig.2: 2007-1, 2009-4, 2008-1 ほか)においてもピット群の検出は多いが、規則性などはみられず性格は不明である。また本地点より200m南側の2007-1地点では、縄文時代早期に該当すると思われる陥し穴が谷筋で検出されており狩場であったと考えられる。縄文時代早期貝殻文土器期の居住域としては、本地点より北西部5mほど高台の94-2調査地点³⁾で住居跡が検出されている。

5層(薩摩火山灰層)の下層6層はいわゆるチョコ層であり、後期旧石器時代～縄文時代草創期の文化層であり、本調査地点でも細石刃などが少数出土している。本地点の西側250mの調査地点(2000-2: 保健学科校舎建設に伴う発掘調査)では、谷状地形に沿って陥し穴が2基検出されており、近くに狩猟の場があったことがうかがえる。

2 縄文時代早期の土器

本調査地点出土土器は縄文時代早期貝殻文系土器が主体であり、第IV章3層出土遺物の項で、口縁部3類(1～3類)、胴部4類(a～d類)、底部5類(A～オ類)に分類した。志風頭タイプや加栗山式土器が少数出土しているが、大半は前平式土器の範疇に該当する。

口縁部1・2類はへら状工具による刺突文であるが、1類の刻みは広く内面調整も丁寧なナデであり、前平式のなかでも恐らく前段階の岩本式に近い形態と思われる。また、口縁部の大半は3類の貝殻刺突文に分類される。完形土器が少なく全形が不明なものが多いが、厚手の円筒土器は56のように、口縁部文様は3類のなかでも縦位一条の貝殻刺突文で、胴部は粗い貝殻条痕文のみのa類が対応するものが多いと思われる。また、胴部貝殻条痕文の上に二重施文が施される胴部b・c類は角筒(もしくは上角下円筒土器)に多くみられ、口縁部は3類の貝殻刺突文のなかでも2段に刺突されるもの(44・68・69など)、縦位の刺突の下位に横位の刺突が施されるもの(78・102・103など)の文様が対応するものが多いと思われる。また、刺突だけでなく、貝(巻貝か)を転がしたような、押し当てたような施文も認められる。

本地点は、1970～1971年の桜ヶ丘キャンパス造成時にも多数の縄文時代早期土器片が採集されている地点⁴⁾である。これまでの周辺調査(2008-1など)でも岩本式から倉園B式が出土しているが、大半を占めるのは前平式土器であり、その時期が主体となると思われる。

参考文献

- 1) 2008-1 中央機械棟建設に伴う発掘調査でも確認されている(『鹿児島大学構内遺跡 桜ヶ丘団地F・G-10区』2012 鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書 第7集)
- 2) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室編 1990 『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報V』
- 3) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室編 2000 『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報14』
- 4) 本田道輝 1986 『脇田亀ヶ原遺跡について—鹿児島大学宇宿キャンパス及びその周辺地区に於ける採集遺物の紹介—』鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報1』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書 第13集

脇田亀ヶ原遺跡

桜ヶ丘団地 E-8・9区

(95-6医学部付属病院 MRI-CT 装置棟増築地)

2017年3月31日発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター
鹿児島市郡元一丁目 21-24
TEL 099-285-7270

印刷 株式会社 朝日印刷
鹿児島市上荒田町 55-1
TEL 099-251-2191
